

男女共同参画 住民意識調査報告書



令和2年3月

知多市

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 調査の内容	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	1
第2章 回答者のプロフィール	2
1. 性別	2
2. 年齢	2
3. 居住地区	2
4. 職業	3
5. 家族構成	3
6. パートナーの職業	4
7. 主なライフステージ（人生における区分）	4
第3章 調査結果のまとめ	5
第4章 調査結果	7
1. 子育てについて	7
2. 仕事と家庭について	10
3. 女性の活躍について	15
4. 地域活動について	24
5. 高齢期について	28
6. DVについて	32
7. LGBTについて	38
8. 男女共同参画センターウイズについて	40
9. 男女共同参画社会について	44
その他の自由意見のまとめ	57
調査票	58
検討会	70

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

知多市は、男性と女性が対等なパートナーとして、だれもが自分らしく生きられるまちをめざして、「知多市男女共同参画行動計画（ウイズプランⅡ）」に沿って、男女共同参画社会の実現を推進しています。現計画が、令和 2 年度に終期を迎えることから、この見直しを図り、令和 3 年度から新たな計画をスタートさせます。そのため、男女共同参画に対する現在の市民の意識などを把握することで、新たな「男女共同参画行動計画」の基礎資料とすることを目的として本調査を実施しました。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域 知多市全域
- (2) 調査対象 知多市在住の 15 歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 抽出方法 無作為抽出
- (5) 調査方法 市内配達便配布・郵送回収
- (6) 調査時期 令和元年 9 月 1 日～9 月 30 日

3. 調査の内容

- (1) 子育てについて
- (2) 仕事と家庭について
- (3) 女性の活躍について
- (4) 地域活動について
- (5) 高齢期について
- (6) DV について
- (7) LGBT について
- (8) 男女共同参画センターウイズについて
- (9) 男女共同参画社会について

4. 回収結果

配布数	回収数	回収率
2,000	702	35.1%

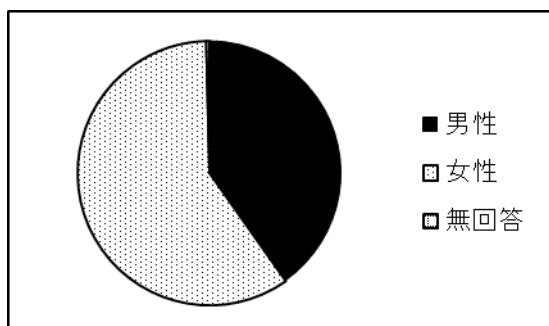
5. 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。そのため、各項目の比率を合計しても、100%にならない場合があります。
- (2) 複数回答が可能な設問の場合は、その項目を選んだ方が、回答者数のうち何%を占めるかを表示しているため、各項目の比率を合計しても 100%になりません。
- (3) 本報告書のグラフ等の見出し及び文章中の選択肢は、スペースの都合上、必要に応じて本来の意味を損なわない程度に省略しています。
- (4) 項目ごとに必要に応じたグラフを表示しています。

第2章 回答者のプロフィール

1. 性別

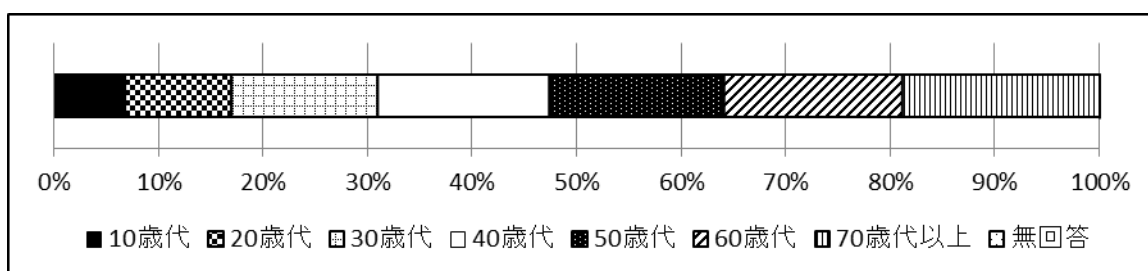
回答者の性別は、「女性」が59.4%と、「男性」に比べて約1.5倍多くなっています。



男性	女性	無回答
40.2%	59.4%	0.4%

2. 年齢

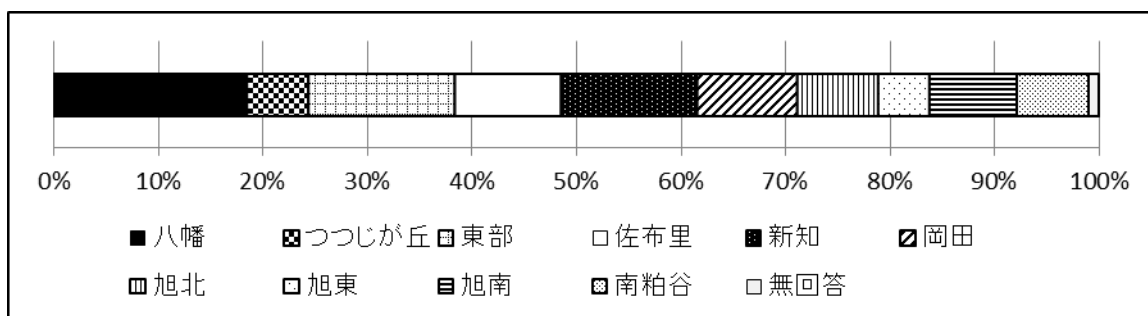
回答者の年齢層は、「70歳代以上」が18.7%と最も多くなっていますが、「10歳代」と「20歳代」を合わせると17.0%となるため、概ね各年齢層の意見が反映されています。



10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答
6.7%	10.3%	14.0%	16.4%	16.7%	17.1%	18.7%	0.3%

3. 居住地区

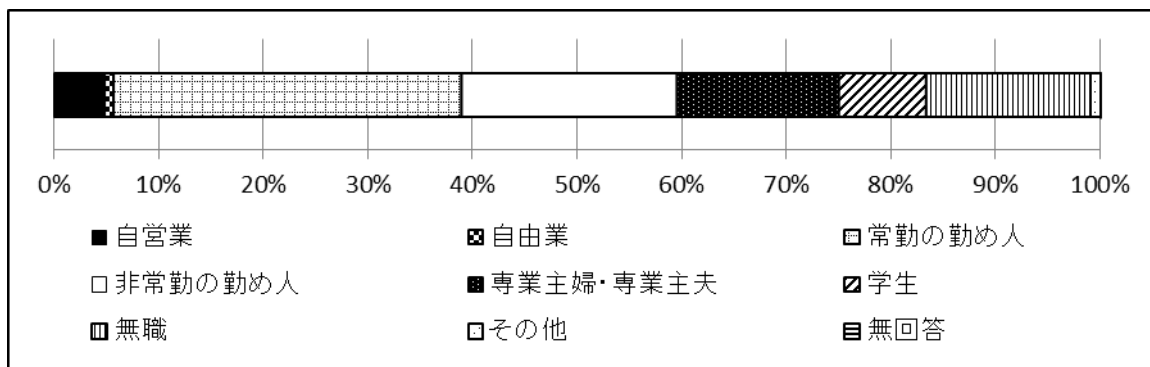
回答者の居住地区は、「八幡」が18.5%と最も多く、次に、「東部」14.0%、「新知」13.0%と続きます。



八幡	つつじが丘	東部	佐布里	新知	岡田	旭北	旭東	旭南	南粕谷	無回答
18.5%	5.8%	14.0%	10.1%	13.0%	9.5%	7.8%	4.8%	8.4%	6.8%	1.1%

4. 職業

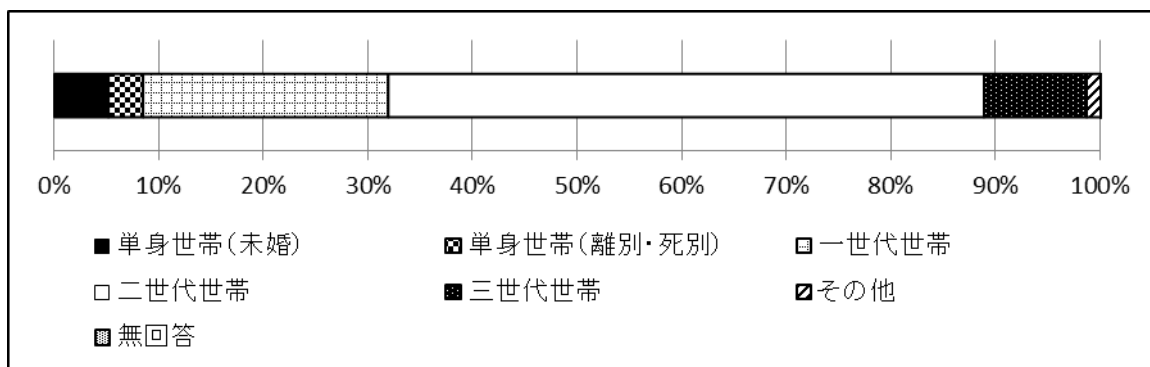
回答者の職業または働き方は、「常勤の勤め人」が33.2%と最も多くなっています。「自営業」、「自由業」、「常勤の勤め人」、「非常勤の勤め人」を合わせた就業者は約6割、無就業者は約4割になります。



自営業	自由業	常勤の勤め人	非常勤の勤め人	専業主婦 専業主夫	学生	無職	その他	無回答
4.8%	0.9%	33.2%	20.5%	15.5%	8.3%	15.7%	1.0%	0.1%

5. 家族構成

回答者の家族構成は、「二世世代世帯」が56.7%と過半数を占めています。次に、「一世世代世帯」が23.4%と続きます。「単身世帯」は、未婚と離別・死別を合わせて8.5%の回答があります。

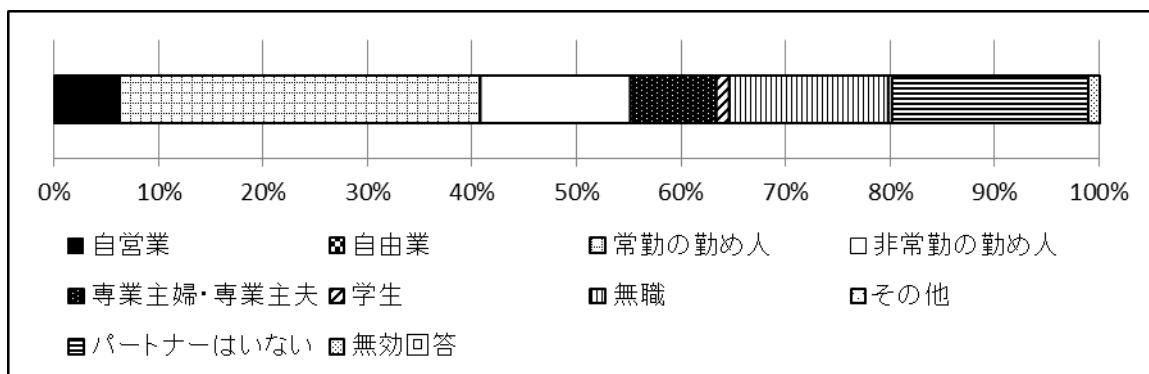


単身世帯 (未婚)	単身世帯 (離別・死別)	一世世代世帯	二世世代世帯	三世世代世帯	その他	無回答
5.1%	3.4%	23.4%	56.7%	9.8%	1.1%	0.4%

(注) 一世世代世帯…夫婦のみ、二世世代世帯…親と子ども、三世世代世帯…親と子どもと孫

6. パートナーの職業

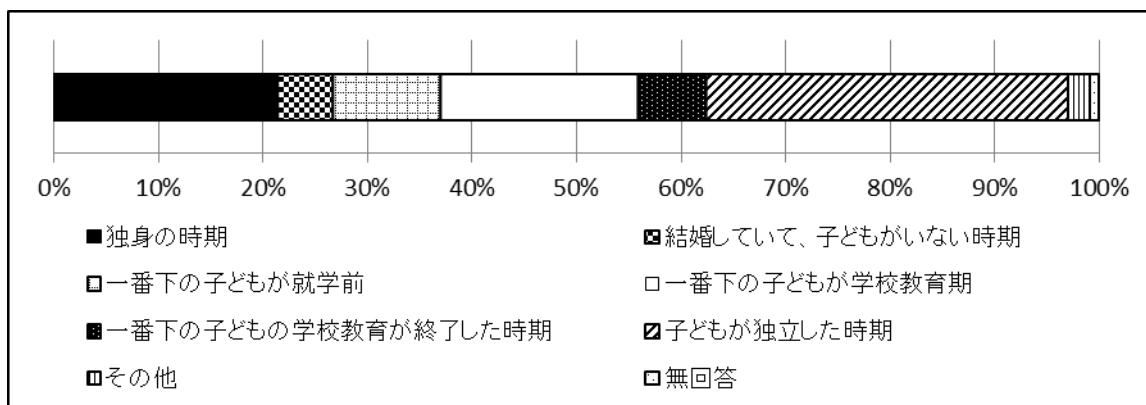
回答者のパートナーの職業または働き方は、「常勤の勤め人」が34.5%と最も多くなっています。4. 職業で、自分が就業者と回答し、パートナーの職業も就業者と回答した、共働きの割合は、38.0%となっています。



自営業	自由業	常勤の勤め人	非常勤の勤め人	専業主婦 専業主夫	学生	無職	その他	パートナー はいない	無効回答
6.1%	0.1%	34.5%	14.4%	8.1%	1.3%	15.2%	0.3%	18.8%	1.2%

7. 主なライフステージ（人生における区分）

回答者のライフステージは、「子どもが独立した時期」が、34.5%と最も多くなっています。次に、「独身の時期」21.5%、「一番下の子どもが学校教育期」18.8%と続きます。「独身の時期」と「結婚していて、子どもがいない時期」を合わせると26.8%となり、全体の4人に一人が子育ての経験がありません。



独身の時期	結婚していて、 子どもが いない時期	一番下の 子どもが 就学前	一番下の 子どもが 学校教育期	一番下の 子どもが 学校教育が 終了した時期	子どもが 独立した時期	その他	無回答
21.5%	5.3%	10.3%	18.8%	6.6%	34.5%	2.1%	1.0%

第3章 調査結果のまとめ

0. 総論

全体を通して見ると、10年前の前回調査（平成21年度実施）と比べ、男女共同参画の意識は少し進んでいました。しかし、家事、育児、介護などの負担となると、女性が担う割合は高く、男女の意識の違いもあります。女性が社会で活躍するためには、制度の活用や周りへの理解促進が必要です。また、子どもを預けられる環境なども不足しており、子育ての両立などのワーク・ライフ・バランスの実現は困難なようです。

今回の調査で、初めてLGBTについて聞きました。メディア等で取り上げられる機会もあり、認知度は高く、性別ではなく個人を重視する考え方にもつながっているようです。

1. 子育てについて

P. 7~P. 9

子育ての役割分担について、実際は、前回調査と比べ、あまり変化はありませんでした。一方、望ましい役割分担について、前回調査では、「家族全員が分担して行う」が36.9%と、最も高くなっていましたが、今回調査では23.4%と、13.5ポイントも下がっていることから、子育ての役割分担に対する望ましい形が変化しています。

2. 仕事と家庭について

P. 10~P. 14

仕事と仕事以外の時間について、実際も望ましい形も、前回調査と比べて変化はなく、ワーク・ライフ・バランスの実現や働き方改革は進んでいないようです。また、家事分担の実際について、「すべて妻」（今回調査20.8%、前回調査31.7%）や、「妻8割：夫2割」（今回調査33.5%、前回調査37.6%）の割合が減っていることから、家事分担は進んでいます。

3. 女性の活躍について

P. 15~P. 23

結婚や出産までなのか、それらに関係なく続けるのかなどの違いはあれ、全体で87.4%が、「女性が職業を持つ方がよい」と答えています。他方で、仕事を選ぶ際に、女性は、「勤務時間、勤務場所の条件」がよいこと、あるいは、「育児や介護への理解や制度」が整っていることを重視しています。また、管理職以上に昇進することに関して、「仕事と家庭の両立が困難になる」意識が、男性は低く、女性は高くなっており、女性が社会で活躍するには、いろいろな制約があることがわかります。

4. 地域活動について

P. 24~P. 27

全体で39.8%と、地域活動に「参加している」と答えています。男性37.9%に比べて、女性41.0%と、女性の参加割合がやや高くなっています。しかし、前回調査（全体40.3%、男性34.4%、女性44.9%）と比べると、全体の割合が減る中で、男性の割合が増えています。

参加については、子どもの有無、子どもの成長段階などのライフステージとの関連があり、参加しない理由について、男女の違いが大きくみられ、男性は「仕事が忙しい」、女性は「子どもの世話や家族の介護がある」と答えています。

5. 高齢期について

P. 28~P. 31

介護の役割分担について、実際には男女共、「介護サービスの利用」が最も高くなっています。介護サービスの利用以外で、男性は、「パートナーが担う」、「家族全員が分担して担う」が多く、一方、女性は、パートナーや家族全員に加え、「子どもが担う」、「家族内の女性が分担して担う」、「子どもの配偶者が担う」等に分散されています。前回調査と比べると、「ホームヘルパー等の介護サービスを一部利用する」が最も多いのは同じですが、割合（今回調査 30.9%、前回調査 61.0%）は、半減しています。

6. DVについて

P. 32~P. 37

DV（配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力）の経験やDVの相談窓口の認知（今回調査 41.8%、前回調査 43.2%）については、前回調査と比べ、ほとんど変化がありませんでした。しかし、どれがDVにあたるかの問いに対して、「暴力を振るう」、「一方的な性交渉を強いる」以外の項目が、全体的に増えており、DVの認識の幅が広がっています。

7. LGBTについて

P. 38~P. 39

LGBT（セクシュアルマイノリティと呼ばれる性的少数者の総称の一つ）の認知度は高く、87.7%の方が、「言葉を聞いたことがある」、もしくは、「内容を知っている」と答えています。

身近な方がLGBTだった場合に、これまでと変わりなく接することができるかの問いに対して、46.2%の方が「できる」と答えています。また、年代ごとの男女比で見ると、70歳代以上の女性以外、各年代の女性は、男性と比べ、接することが「できる」と答えています。

8. 男女共同参画センターウイズについて

P. 40~P. 43

知多市ふれあいプラザ内にある、男女共同参画センターウイズについて、前回調査と比べ、全体での認知（今回調査 14.8%、前回調査 12.2%）が低く、ほとんど変化もありません。認知度の低さが、ウイズの利用につながっていない理由のようです。

9. 男女共同参画社会について

P. 44~P. 56

前回調査と比べ、男らしく、女らしくという言葉に対する感じ方について、「性別であり方を決めるのはおかしい」（今回調査 29.2%、前回調査 15.8%）が、約2倍に増えていて、男女共同参画の意識は進んでいます。一方、男女共同参画の進行状況について、家庭、職場、学校では、あまり変化が見られません。さらに、地域では進んでおらず、「変わらない」と感じている方が増えるなど、自分らしく生きられる状況は改善されていません。

男女共同参画のために重要なことは、各項目において、男女に大きな違いはありませんが、「家事や育児、介護などの負担を軽くするような社会の意識や制度を改革する」ことは、女性より男性の方が低くなっています。また、あなたが男女共同参画推進のために取り組めることの問いに対して、「育児・介護休業制度などの制度を利用する」についての項目も、女性の活躍と同様に、男性が低く、女性が高くなっており、意識の差は縮まりません。

第4章 調査結果

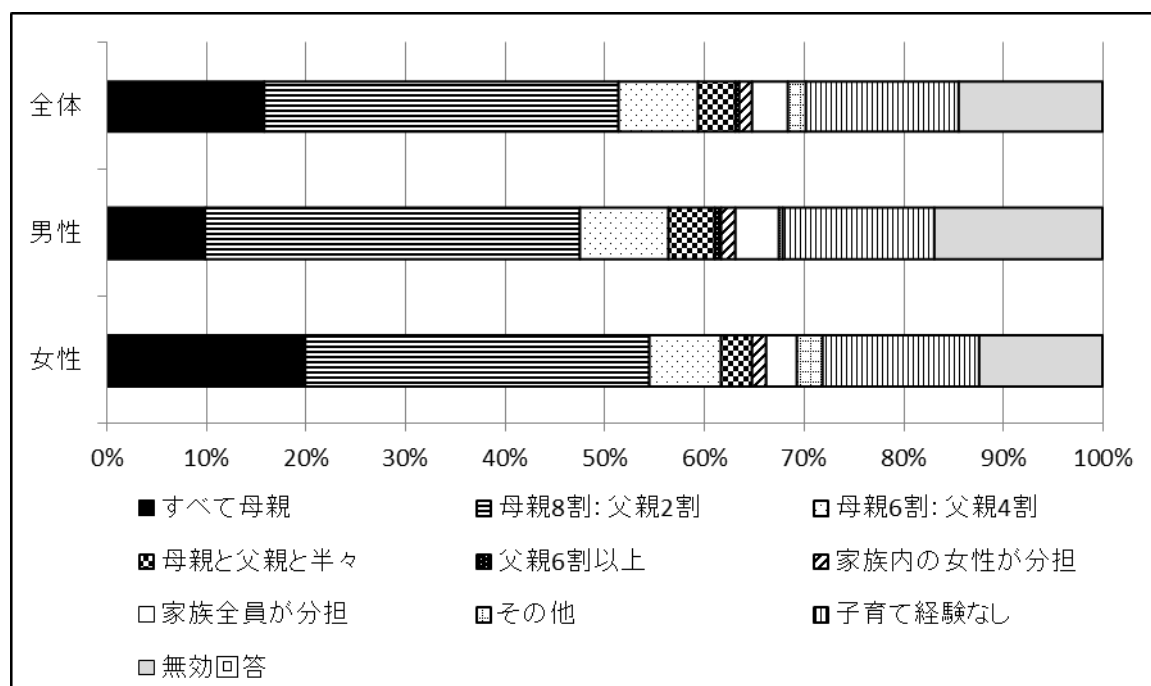
1. 子育てについて

問1. 子育てにおける役割分担について望ましいものはどれですか、また実際はどうですか（どうでしたか）。（※「望ましい」「実際」でそれぞれひとつ回答）

1. すべて母親が行う
2. 母親が8割、父親が2割
3. 母親が6割、父親が4割
4. 母親と父親と半々
5. 父親が6割以上
6. 家族内の女性が分担して行う
7. 家族全員が分担して行う
8. その他
9. 子育ての経験はない

■子育ての役割分担の実際（全体・男性・女性別比較）

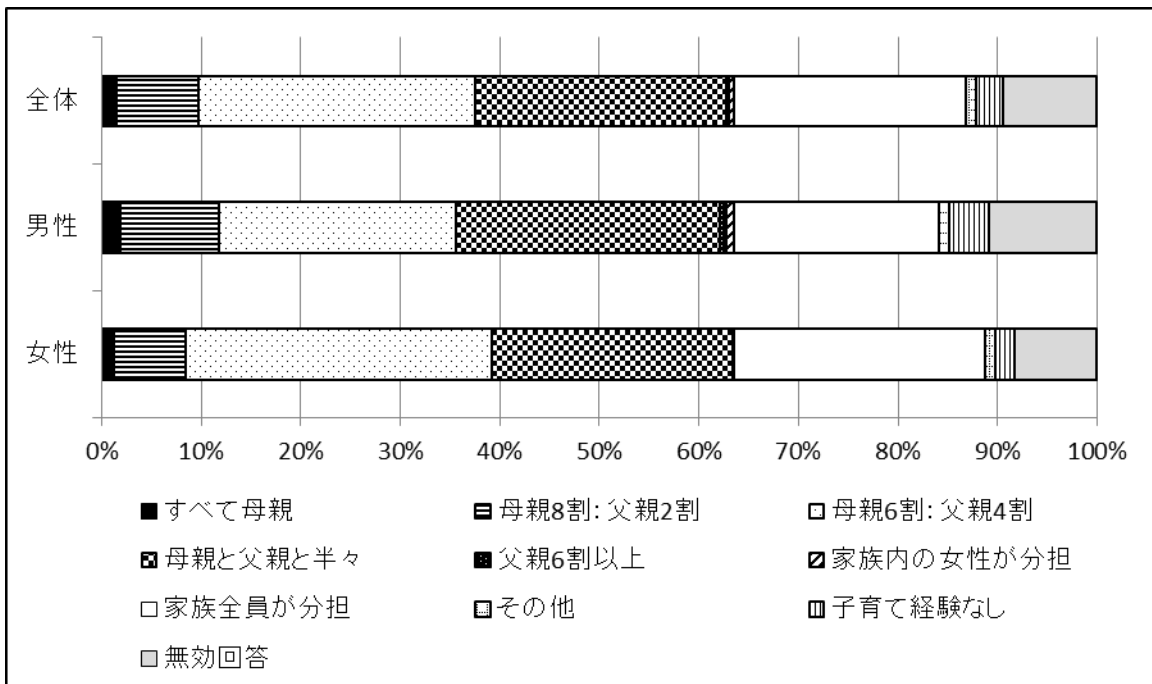
- ・男女共、「母親8割：父親2割」の割合が高くなっています。
- ・「すべて母親」と「母親8割：父親2割」を足すと、全体で51.4%、「その他」の回答の中にも「母親9割：父親1割」と書かれているものが複数あります。さらに女性が「父親6割以上」と答えた方が0%だったことなどから、子育ては女性の負担が大きいことがわかります。
- ・「すべて母親」と答えている人の割合が、男性は9.9%、女性は19.9%と、2倍の差があり、役割分担における意識の違いがあるようです。
- ・「その他」の回答として、「祖父母がやっている」という意見が複数ありました。



	すべて母親	母親8割 父親2割	母親6割 父親4割	母親と 父親と半々	父親6割以上	家族内の 女性が分担	家族全員が 分担	その他	子育て 経験なし	無効回答
全体	15.8%	35.6%	8.0%	3.7%	0.3%	1.4%	3.6%	1.7%	15.4%	14.5%
男性	9.9%	37.6%	8.9%	4.6%	0.7%	1.4%	4.3%	0.4%	15.2%	17.0%
女性	19.9%	34.5%	7.2%	3.1%	0.0%	1.4%	3.1%	2.6%	15.6%	12.5%

■子育ての役割分担の望ましい（全体・男性・女性別比較）

- ・男女共に、「実際」と「望ましい」には、大きな差があります。
- ・男女の違いもあります。男性は「母親と父親半々」（26.6%）、女性は「母親6割：父親4割」（30.7%）の割合が最も高くなっています。男性が「母親と父親半々」の割合が高いことから、子育てを担う気持ちがあることがわかります。
- ・「望ましい」においても、「父親6割以上」と答えた女性は0%で、男性に半分以上の分担を任せる意識はないようです。
- ・平成21年度に行った前回調査（以下、前回調査）では、「家族全員が分担して行う」の割合が36.9%と、最も高くなっていましたが、今回調査では「母親6割：父親4割」、「母親と父親と半々」に続く3番目で、割合も23.4%と、13.5ポイントも下がっていることから、子育て役割分担の「望ましい」形が変化しています。



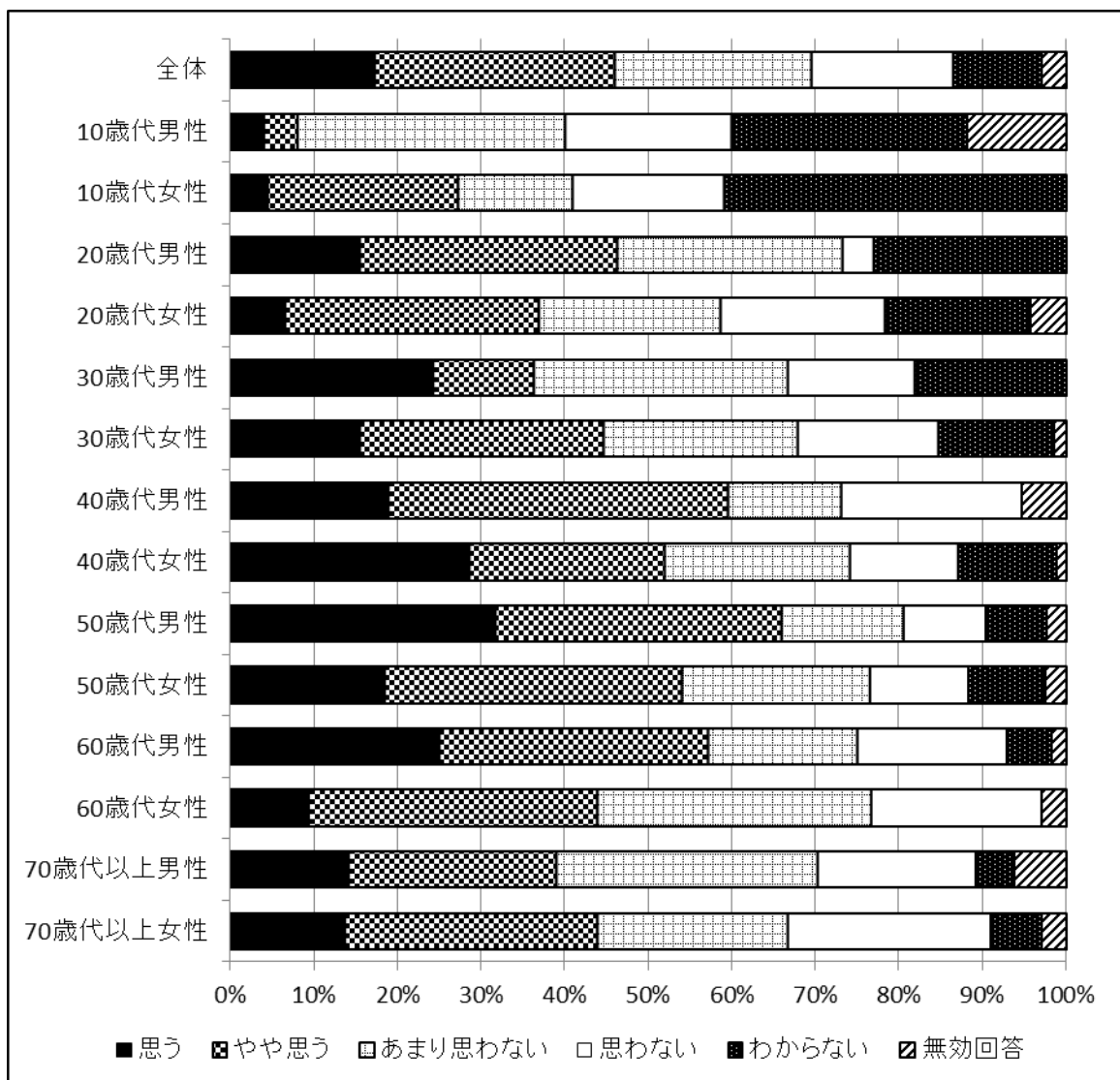
	すべて母親	母親8割 父親2割	母親6割 父親4割	母親と 父親と半々	父親6割以上	家族内の 女性が分担	家族全員が 分担	その他	子育て 経験なし	無効回答
全体	1.4%	8.3%	27.8%	25.2%	0.3%	0.4%	23.4%	1.0%	2.7%	9.5%
男性	1.8%	9.9%	23.8%	26.6%	0.7%	0.7%	20.6%	1.1%	3.9%	1.1%
女性	1.2%	7.2%	30.7%	24.2%	0.0%	0.2%	25.2%	1.0%	1.9%	8.4%

問2. 子育てをする際、子どもの性別の違いにより、子どもに期待することが異なりますか。(※ひとつ回答)

1. 思う 2. やや思う 3. あまり思わない 4. 思わない 5. わからない

■子どもの性別による期待（全体・年代ごとの男性・女性別比較）

- ・全体としてみると「思う」、「やや思う」が46.0%、「あまり思わない」、「思わない」が40.5%で、大きな差はありませんが、年代による違いがあります。
- ・「40歳代男性」、「40歳代女性」、「50歳代男性」、「50歳代女性」、「60歳代男性」は、「思う」、「やや思う」が5割を超えていて、逆に「10歳代男性」は「あまり思わない」、「思わない」が5割を超えています。



	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない	無効回答
全体	17.4%	28.6%	23.4%	17.1%	10.5%	3.0%
男性	19.9%	27.0%	23.4%	16.0%	9.9%	3.9%
女性	15.6%	30.0%	23.5%	17.5%	11.0%	2.4%

2. 仕事と家庭について

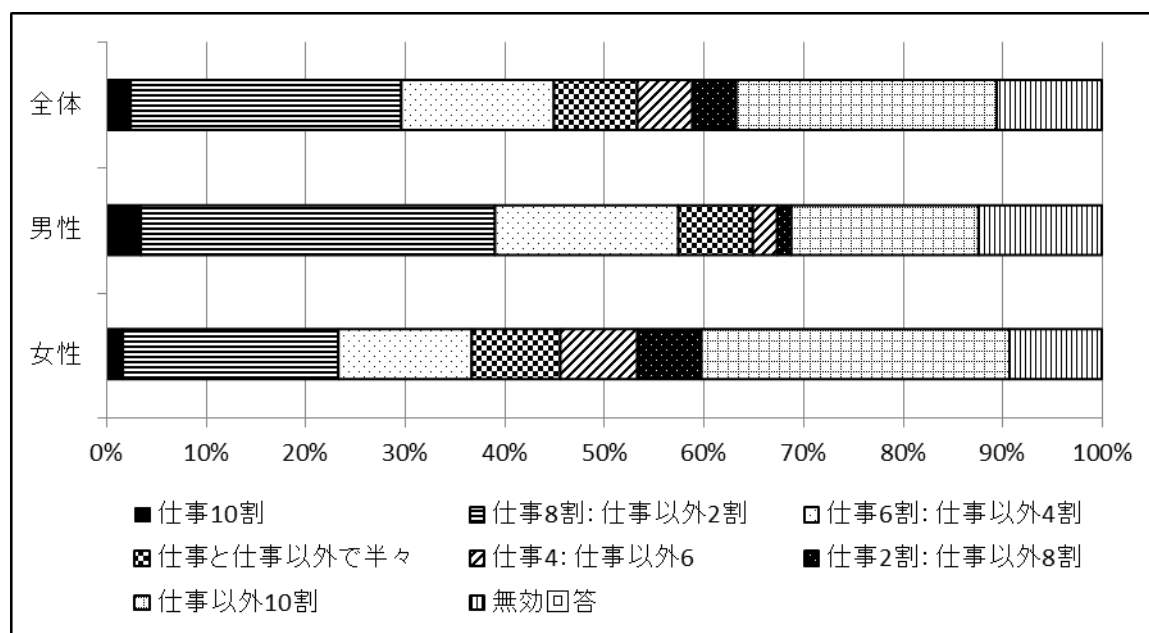
問3. 現在、1週間のうち、仕事と仕事以外の時間をどのような時間割合で過ごすことが望ましいですか、また実際はどうですか。(睡眠時間除く) (※「望ましい」「実際」それぞれひとつ回答)

1. 仕事 10 割
2. 仕事 8 割・仕事以外 2 割
3. 仕事 6 割・仕事以外 4 割
4. 仕事と仕事以外で半々
5. 仕事 4 割・仕事以外 6 割
6. 仕事 2 割・仕事以外 8 割
7. 仕事以外 10 割 (仕事はしていない)

※今回の調査では、「仕事」は通勤時間などを含めた有償労働を、「仕事以外の時間」は家事や育児などの家庭生活・学習・趣味・地域活動などを指します。

■仕事と仕事以外の時間の実際 (全体・男性・女性別比較)

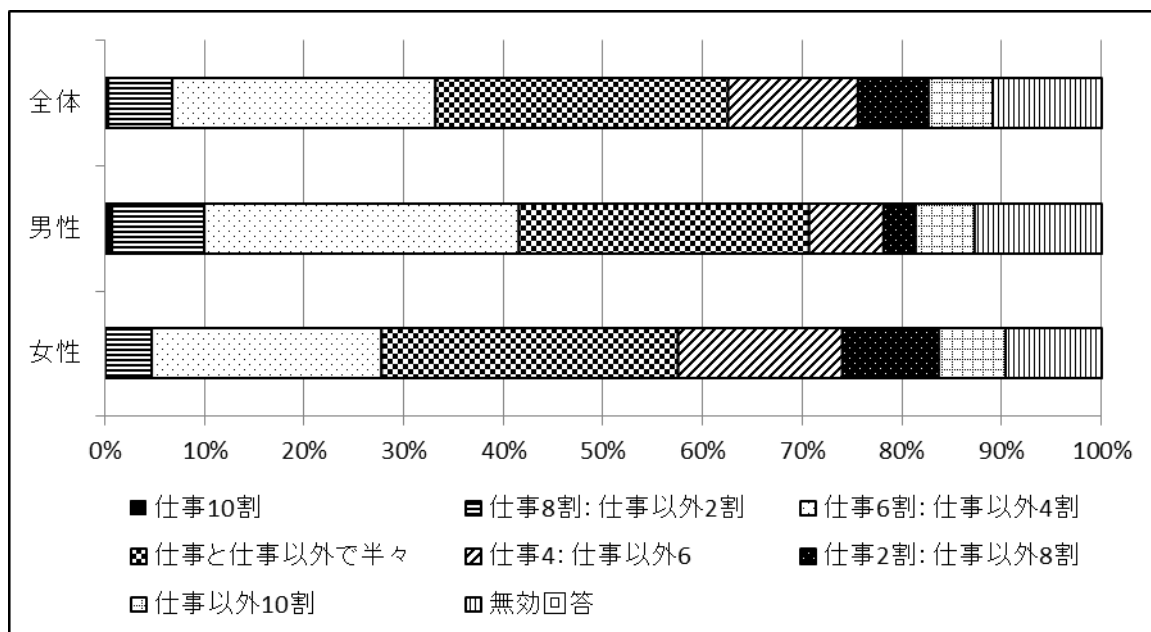
- ・男女の違いがあります。男性は「仕事 8 割：仕事以外 2 割」(35.5%)、女性は「仕事以外 10 割 (仕事はしていない)」(30.9%) の割合が高くなっています。
- ・男性は、仕事で 6 割以上の時間を占める方が、57.4% となっています。前回調査でも 56.3% でしたので、ほとんど変化はなく、「仕事以外の時間を増やしたい」と望んでいる方は多くいましたが、現実には難しいようです。
- ・女性も仕事を持っている場合は、「仕事 8 割：仕事以外 2 割」(21.6%) の割合が高く、長時間労働の傾向にあります。



	仕事10割	仕事8割 仕事以外2割	仕事6割 仕事以外4割	仕事と仕事 以外で半々	仕事4割 仕事以外6割	仕事2割 仕事以外8割	仕事以外10割	無効回答
全体	2.4%	27.2%	15.4%	8.3%	5.6%	4.4%	26.1%	10.7%
男性	3.5%	35.5%	18.4%	7.4%	2.5%	1.4%	18.8%	12.4%
女性	1.7%	21.6%	13.4%	8.9%	7.7%	6.5%	30.9%	9.4%

■仕事と仕事以外の時間の望ましい（全体・男性・女性別比較）

- ・男女共に、「実際」と「望ましい」には、大きく差があります。
- ・「仕事6割：仕事以外4割」と「仕事と仕事以外で半々」を足すと、男性が60.7%、女性が52.7%と半数以上を占めることから、仕事の時間が5～6割というところが理想の働き方ようです。
- ・女性も8割以上の方が、仕事の時間を持つことを望ましいと思っています。



	仕事10割	仕事8割 仕事以外2割	仕事6割 仕事以外4割	仕事と仕事 以外で半々	仕事4割 仕事以外6割	仕事2割 仕事以外8割	仕事以外10割	無効回答
全体	0.3%	6.4%	26.4%	29.3%	13.0%	7.1%	6.4%	11.1%
男性	0.7%	9.2%	31.6%	29.1%	7.4%	3.2%	6.0%	12.8%
女性	0.0%	4.6%	23.0%	29.7%	16.5%	9.6%	6.7%	9.8%

●「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成31年度時点の達成率

	令和2年度目標値	平成31年度実績	達成率
仕事と仕事以外のバランスがとれている人の割合	50%	24.9%*	49.8%

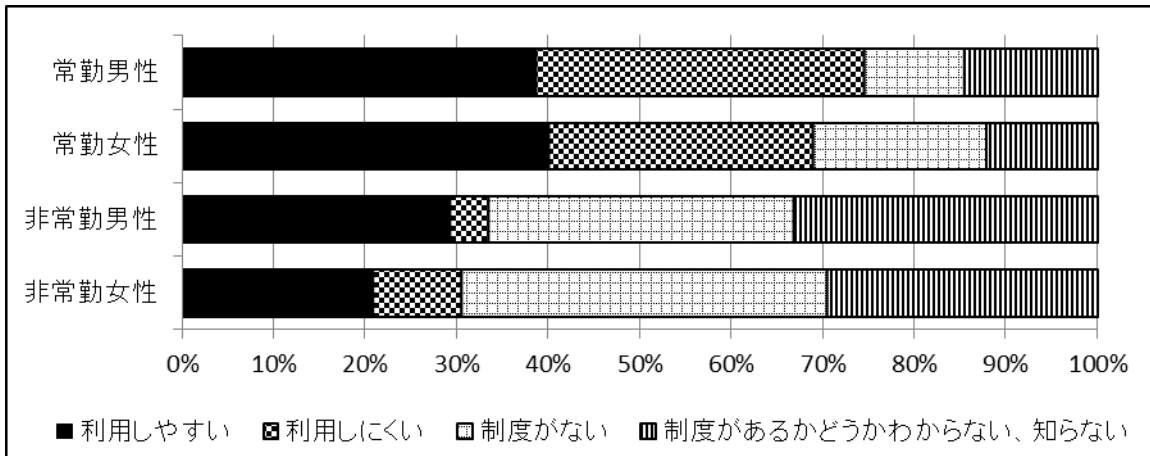
(*) 今回のアンケート結果で、仕事を持っている「自営業」、「自由業」、「常勤の勤め人」、「非常勤の勤め人」のうち、仕事と仕事以外の時間の「実際」と「望ましい」について、同じ項目を選んだ人の割合を出しています。

問 4. 職場において育児・介護休業制度・フレックスタイム制などの各種制度は利用しやすい環境ですか。(※ひとつ回答)

1. 利用しやすい 2. 利用しにくい 3. 制度がない
4. 制度があるかどうかわからない、知らない 5. 仕事はしていない

■会社の各種制度の利用（常勤・非常勤の男女別比較）

- ・男女共に、「常勤の勤め人」は、「利用しやすい」（男性 38.7%、女性 40.0%）が、「非常勤の勤め人」は、「制度がない」（男性 33.3%、女性 40.0%）が多くなっています。
- ・「常勤の勤め人」でも、女性より男性の方が「利用しにくい」（男性 35.8%、女性 28.9%）と答えている方の割合が高く、男性の育児・介護制度の取得は進んでいないようです。
- ・「非常勤の勤め人」は、「利用しにくい」と答えている方の割合が低いので、制度がある場合は利用しやすいようですが、「制度がない」、「制度があるかどうかわからない、知らない」と答えている方が7割近くいることから、各種制度に頼ることは難しいようです。



	利用しやすい	利用しにくい	制度がない	制度があるかどうか わからない、知らない
常勤男性	38.7%	35.8%	10.9%	14.6%
常勤女性	40.0%	28.9%	18.9%	12.2%
非常勤男性	29.2%	4.2%	33.3%	33.3%
非常勤女性	20.9%	9.6%	40.0%	29.6%

◆育児・介護休業制度・フレックスタイム制などの各種制度に関する自由意見

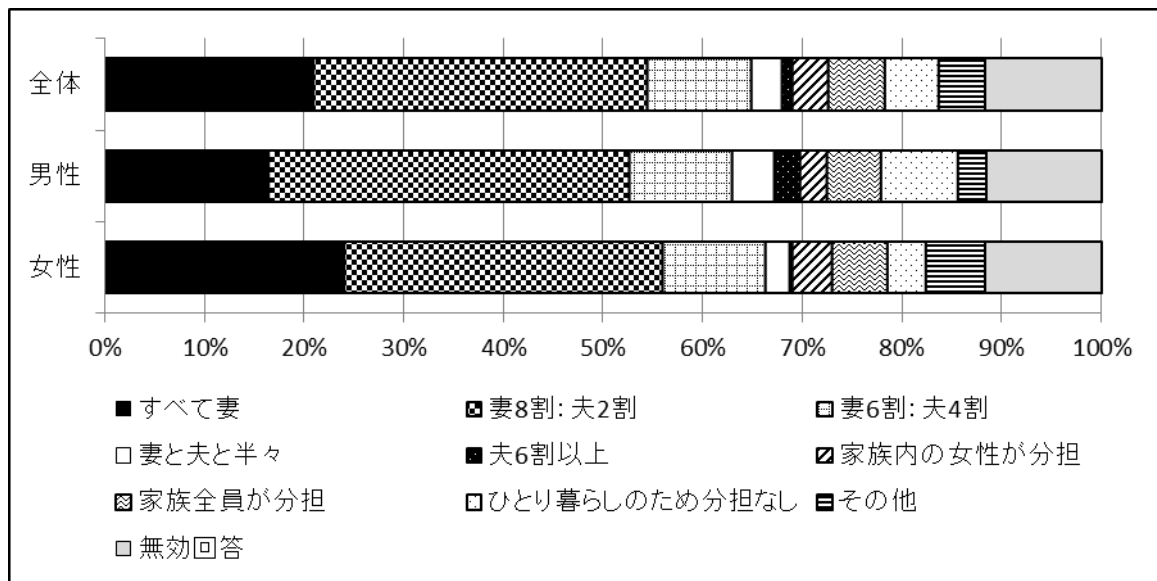
- ・男性が育休を取得することは賛成だが、その間女性は外へ働きに出ていることが大前提である。男性が一人で育児ができてこそ、初めて男女共同参画といえる。数日～1カ月程度、女性の育児の手伝いをしたところで、女性が働ける環境は整わない。
- ・男性が育児・介護休暇を取ることが当たり前になってほしい。
- ・育児・介護休暇で休めるようになって、収入が減るのは困る。
- ・女性の育休、介護休暇の取りやすさ、子育てへの理解、子供をあずけられる場所の不足、男性の育休の取りやすさ、男性の子育て・家事への参加などを改善する必要がある。

問 5. 家庭内において家事をどのように分担するのが望ましいですか、また実際はどうですか。(※「望ましい」「実際」それぞれひとつ回答)

1. すべて妻が行う
2. 妻が 8 割、父親が 2 割
3. 妻が 6 割、父親が 4 割
4. 妻と夫と半々
5. 夫が 6 割以上
6. 家族内の女性が分担して行う
7. 家族全員が分担して行う
8. ひとり暮らしのため分担はしていない
9. その他

■家事の役割分担の実際（全体・男性・女性別比較）

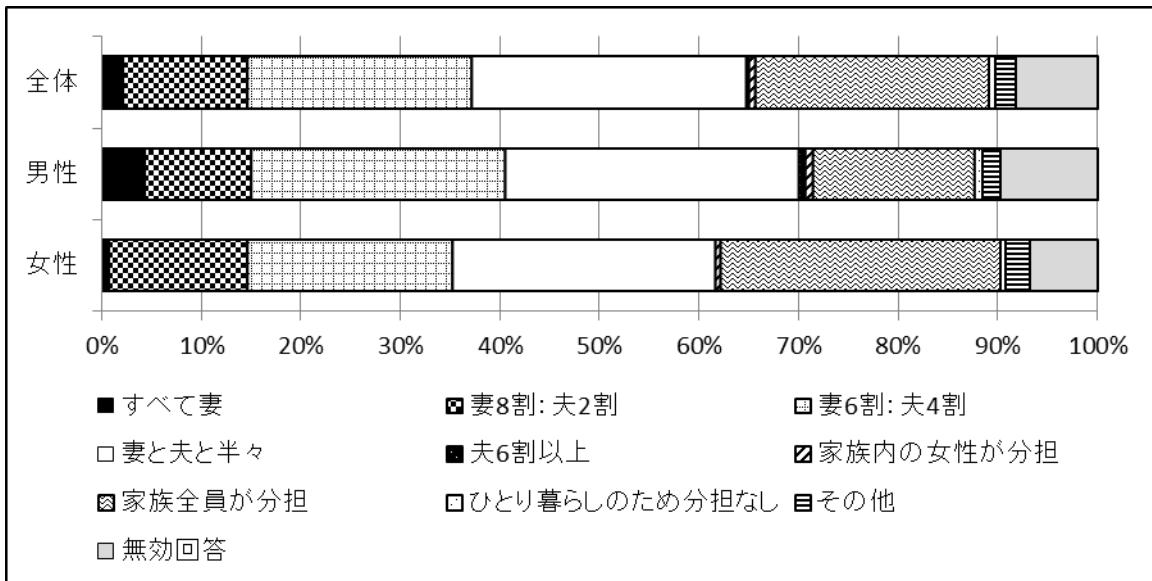
- ・男女共に、「妻 8 割：夫 2 割」の割合が多くなっています。
- ・「すべて妻」、「妻 8 割：夫 2 割」、「家族内の女性が分担」を足すと、男性は 55.3%、女性は 60.0%あることから、家庭内における家事のほとんどは、女性が担っていることがわかります。
- ・「その他」の回答の中にも、「妻 9 割：夫 1 割」や「(子どもの立場で) ほとんど母が行う」と書かれているものが複数ありました。
- ・次のページの「望ましい」では、「妻と夫と半々」の割合が全体で 27.5%と最も高くなっていますが、「実際」には「妻と夫と半々」の割合は、男性 4.3%、女性 2.4%と大きな開きがあります。



	すべて妻	妻8割:夫2割	妻6割:夫4割	妻と夫と半々	夫6割以上	家族内の女性が分担	家族全員が分担	ひとり暮らしのため分担なし	その他	無効回答
全体	20.8%	33.5%	10.4%	3.1%	1.1%	3.6%	5.6%	5.4%	4.7%	11.8%
男性	16.3%	36.2%	10.3%	4.3%	2.5%	2.8%	5.3%	7.8%	2.8%	11.7%
女性	24.0%	31.9%	10.3%	2.4%	0.2%	4.1%	5.5%	3.8%	6.0%	11.8%

■家事の役割分担の望ましい（全体・男性・女性別比較）

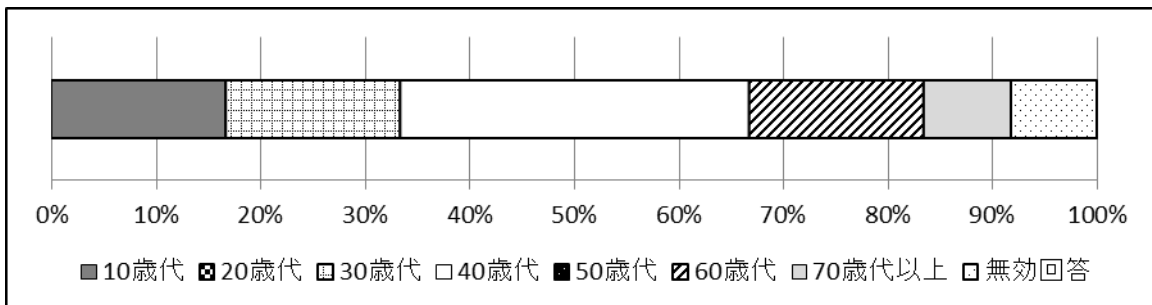
- ・男女共に、「実際」と「望ましい」には、大きく差があります。
- ・男女共に「妻と夫と半々」が最も高く、次に「妻6割：夫4割」となっています。これらを足すと、男性は54.9%、女性は47.0%なので、望ましい家事の役割分担の割合は、妻が5～6割、夫が4～5割くらいようです。
- ・「その他」の回答には、「できる人がやる」、「仕事と子育て、家事の割合で決める」などが複数ありました。



	すべて妻	妻8割:夫2割	妻6割:夫4割	妻と夫と半々	夫6割以上	家族内の女性が分担	家族全員が分担	ひとり暮らしのため分担なし	その他	無効回答
全体	2.1%	12.5%	22.5%	27.5%	0.3%	0.6%	23.5%	0.6%	2.1%	8.3%
男性	4.3%	10.6%	25.5%	29.4%	0.7%	0.7%	16.3%	0.7%	1.8%	9.9%
女性	0.7%	13.9%	20.6%	26.4%	0.0%	0.5%	28.1%	0.5%	2.4%	7.0%

POINT 「望ましい」が「すべて妻」と答えた男性の年齢層

全体の中での割合が多いわけではありませんが、男女差の大きい「すべて妻」と答えた男性の年齢層を見てみました。年齢層と関連はありませんでしたが、40歳代男性の割合が高いことから、仕事の忙しさが影響するのかもしれませんが。



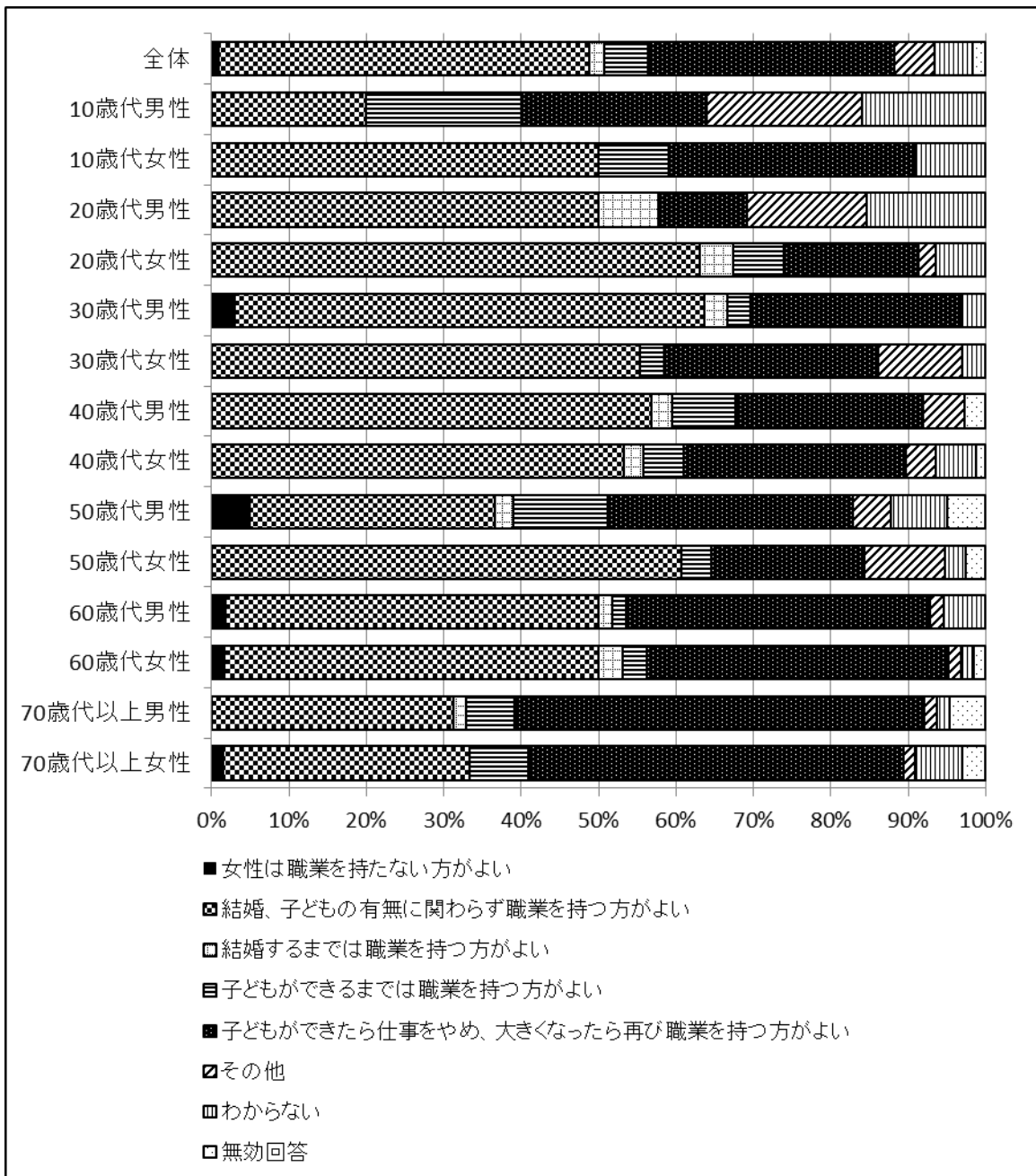
10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無効回答
16.7%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	8.3%	8.3%

3. 女性の活躍について

問 6. 女性が職業を持つことについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。(※ひとつ回答)

■女性が職業を持つこと（年代ごとの男性・女性別比較）

- ・ほとんどの年代で「結婚、子どもの有無に関わらず職業を持つ方がよい」が最も多くなっていますが、70歳代以上のみ「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」（男性 53.1%、女性 48.5%）が最も多くなっています。
- ・「その他」の回答には、「女性がやりたいようにすればよい」という意見が多くありました。



	女性は職業を持たない方がよい	結婚、子どもの有無に関わらず職業を持つ方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは職業を持つ方がよい	子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	その他	わからない	無効回答
全体	0.9%	47.9%	1.9%	5.7%	31.9%	5.1%	4.8%	1.9%
男性	1.4%	42.2%	2.5%	6.7%	34.0%	5.3%	5.7%	2.1%
女性	0.5%	51.8%	1.4%	5.0%	30.5%	5.0%	4.3%	1.4%

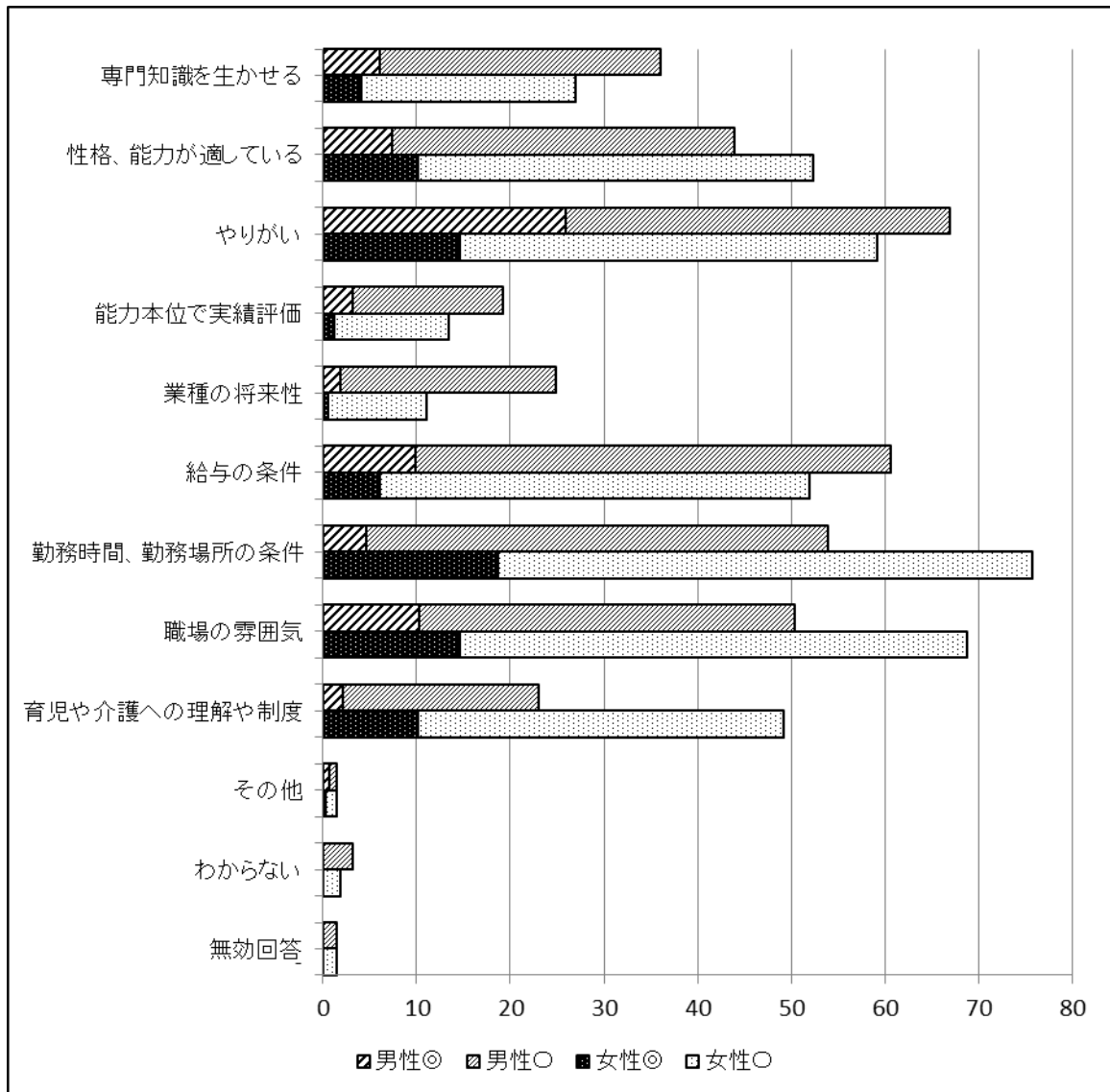
◆「女性が職業を持つこと」に関する自由意見

- ・知多市はまだ「女性が働くこと」への偏見が多くある。
- ・女性が仕事をすることで、女性だけに負担がかかることなく、家事や子育てを男性も当たり前に行うという意識を皆が持てるとよい。年配の方の方がその意識は低い。
- ・男性のできることの方が評価されやすい。女性のできることの評価が低い。
- ・パートだから責任が少ない、休みが取りやすいと思われる。
- ・男女の賃金の格差をなくす。(同意見、複数あり)
- ・男性と女性では、一般的に給料も違うし、子育てと仕事を夫婦で協力して行うのは難しい。
- ・男性の給料を増やし、女性が家庭を安心して守ることが一番の平和。(同意見、複数あり)
- ・勤める内容において会社・地域への貢献度が同じなら、平等にすべきだが、現状は平等ではないので、意識をどう変えるか。

問 7. あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■仕事を選ぶ際に重視すること（男性・女性別比較）

- ・男女で違いがあります。男性は、「やりがい」(67.0%)、「給与の条件」(60.6%)が高く、女性は、「勤務時間、勤務場所の条件」(75.8%)、「職場の雰囲気」(68.8%)が高くなっています。
- ・特に、男女の違いが大きいのは、「業種の将来性」(男性が高く、女性が低い)、「育児や介護への理解や制度」(男性が低く、女性が高い)です。

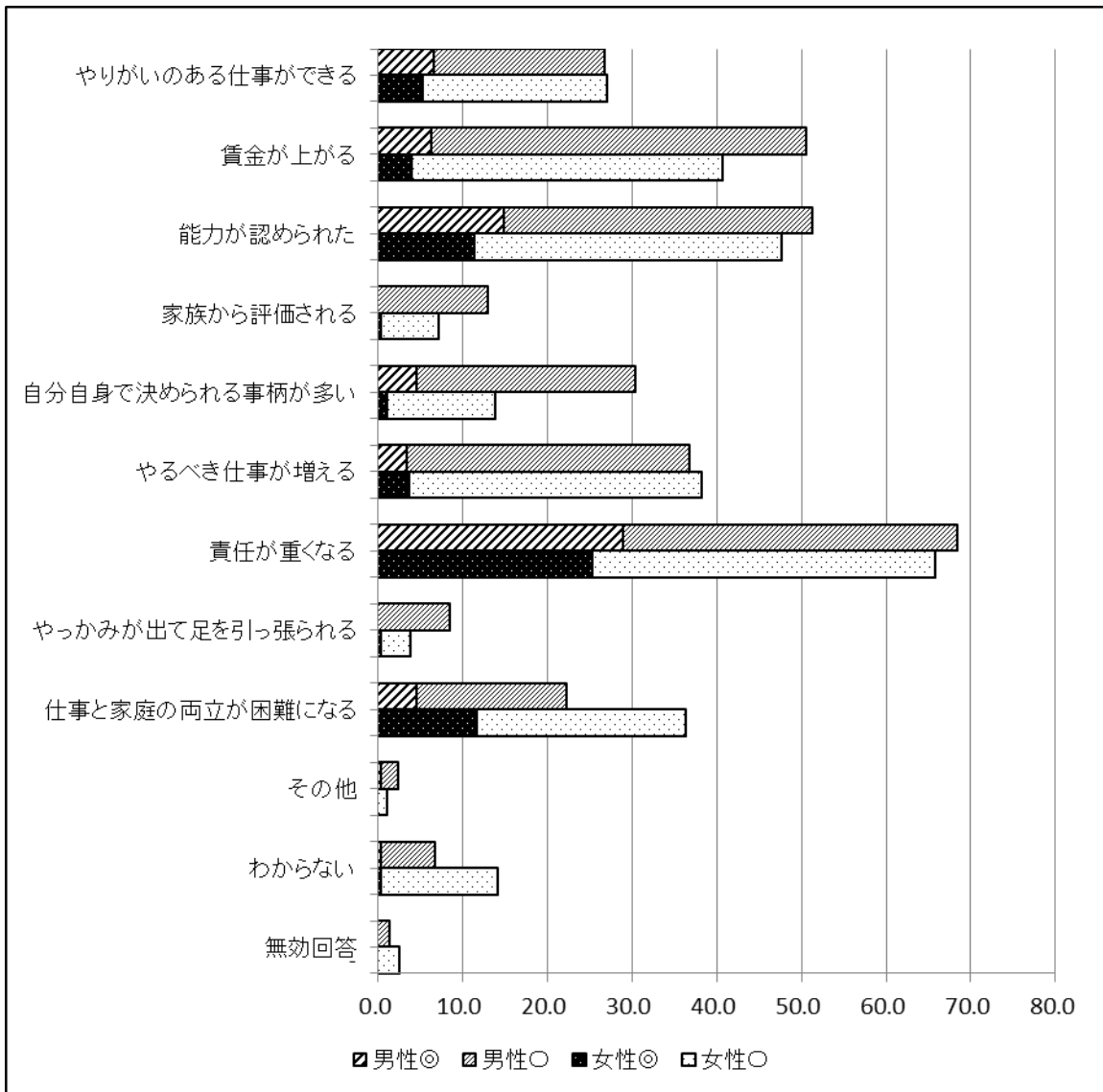


	専門知識を生かせる	性格、能力が適している	やりがい	能力本位で実績評価	業種の将来性	給与の条件	勤務時間、勤務場所の条件	職場の雰囲気	育児や介護への理解や制度	その他	わからない	無効回答
全体	30.5%	49.0%	62.4%	15.8%	16.5%	55.4%	67.0%	61.4%	38.7%	1.4%	2.4%	1.4%
男性	36.2%	44.0%	67.0%	19.1%	24.8%	60.6%	53.9%	50.4%	23.0%	1.4%	3.2%	1.5%
女性	26.9%	52.3%	59.2%	13.4%	11.0%	52.0%	75.8%	68.8%	49.2%	1.4%	1.9%	1.4%

問 8. あなたは、ご自身が管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■管理職以上に昇進すること（男性・女性別比較）

- ・男女共に、「責任が重くなる」が最も高く、どちらも65%を超えています。
- ・男女の違いが大きいのは、「自分自身で決められる事柄が多い」（男性が高く、女性が低い）、「仕事と家庭の両立が困難になる」（男性が低く、女性が高い）となっています。
- ・「その他」の回答には、部下を持つことで「人間的に成長できる」や「指導に悩む」、女性が管理職になると「女性目線の柔軟な意見をすることができる」というものがありました。



	やりがいの ある 仕事 が できる	賃金 が 上がる	能力 が 認め られ た	家族 から 評価 され る	自分 自身 で 決め られ る 事柄 が多 い	やる べき 仕事 が 増え る	責任 が 重く なる	やっか みが 出て 足を 引っ 張ら れる	仕事 と家 庭の 両立 が困 難に なる	その他	わか らな い	無効 回答
全体	27.1%	44.9%	49.4%	9.5%	20.5%	37.7%	67.0%	5.7%	30.6%	1.7%	11.1%	2.1%
男性	27.0%	50.7%	51.4%	13.1%	30.5%	36.9%	68.4%	8.5%	22.3%	2.5%	6.7%	1.5%
女性	27.1%	40.8%	47.7%	7.2%	13.9%	38.4%	65.9%	3.8%	36.5%	1.2%	14.1%	2.6%

◆管理職以上に昇進することに関する自由意見

- ・管理職になるチャンスがあっても、子どもが小さいから、勤務時間が限定されているからという理由でなれない。
- ・管理職、議員など、女性の割合を増やすべき。(同意見、複数あり)
- ・議員の男女比は半分半分であるべき。(同意見、複数あり)
- ・管理職や議員などの女性比率を高めることを、制度的に決めないと男性社会からの脱却は進まない。
- ・市政も男性中心であることに違和感を覚える。女性や若者の活躍できる社会を望む。
- ・市政も若い方が増えて、幅広い年齢層で何かを否定や排除するのではなく、お互いに考えを理解しようとし、寛容性を持った社会になっていけばよい。

●「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成31年度時点の達成率

	令和2年度目標値	平成31年度実績	達成率
市役所の管理職の女性割合	10%	26.2%	262.0%

※知多市役所の管理職の女性割合が、高いのか低いのか、愛知県全体や知多半島の他の市町と比べてみました。知多市は、管理職の4分の1以上が女性となっており、知多半島内でも2位と割合は高いです。愛知県全体でも7位(54市町村中)です。

順位	市町	管理職総数	女性管理職数	女性割合
-	愛知県全体	5,596	936	16.7%
1	常滑市	114	32	28.1%
2	知多市	65	17	26.2%
3	東海市	87	22	25.3%
4	美浜町	31	7	22.6%
5	東浦町	42	9	21.4%
6	半田市	103	21	20.4%
7	武豊町	33	6	18.2%
8	大府市	64	10	15.6%
9	阿久比町	20	2	10.0%
10	南知多町	23	2	8.7%

(出典) 内閣府 男女共同参画局

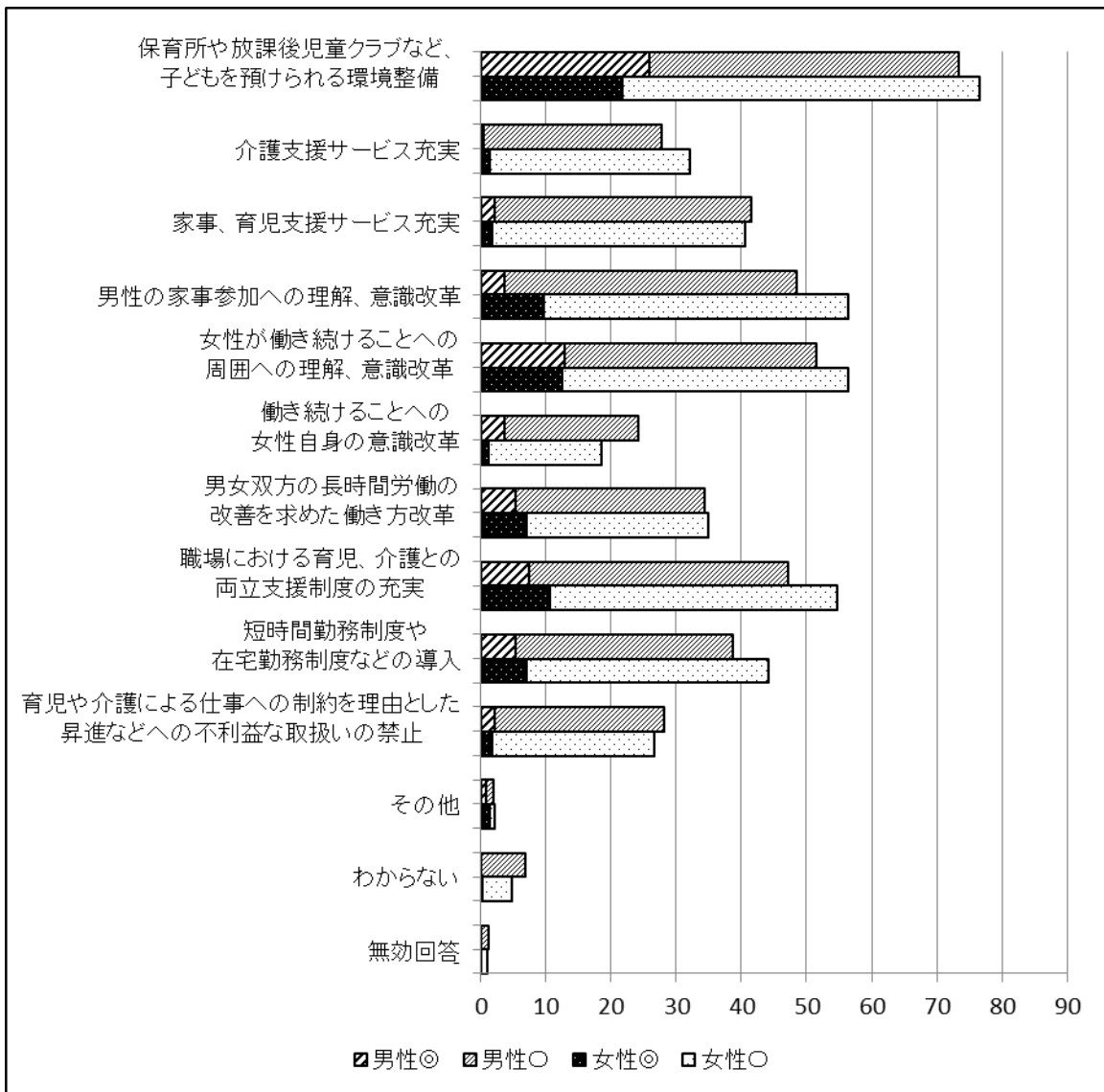
「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況

令和元年度 市町村編 愛知県版」(平成31年4月1日調査)

問 9. あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・会社・職場において必要なことは何だと思えますか。（※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答）

■ 出産後も働き続けるために必要なこと（男性・女性別比較）

- ・男女に、大きな違いはありません。「◎」「○」共に、「子どもを預けられる環境整備」の割合が高くなっています。
- ・次に、「男性の家事参加への理解、意識改革」、「女性が働き続けることへの周囲への理解、意識改革」が高いことから、実際にはそれらの「理解」や「意識改革」があまり進んでいないことがわかります。
- ・男女の「◎」の違いについて見ると、「働き続けることへの女性自身の意識改革」は男性が高く、女性が低く、「男性の家事参加への理解、意識改革」は男性が低く、女性が高くなっており、お互いの「理解」や「意識改革」を望んでいることがわかります。



	保育所や放課後児童クラブなど子どもを預けられる環境整備	介護支援サービス充実	家事、育児支援サービス充実	男性の家事参加への理解、意識改革	女性が働き続けることへの周囲への理解、意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を求めた働き方改革	職場における育児、介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	わからない	無効回答
全体	75.2%	30.3%	40.9%	53.3%	54.4%	20.8%	34.8%	51.4%	41.9%	27.1%	2.0%	5.6%	1.0%
男性	73.4%	27.7%	41.5%	48.6%	51.4%	24.1%	34.4%	47.2%	38.7%	28.0%	1.8%	6.7%	1.1%
女性	76.5%	32.1%	40.5%	56.4%	56.4%	18.5%	34.8%	54.7%	44.1%	26.6%	2.2%	4.8%	1.0%

◆女性が出産後も働き続けること「子どもの預かりについて」の自由意見

- ・子どもを預かってくれる設備を増やす、長時間預けられるとよい。
- ・土日祝に、子どもを預けて、安心して働ける環境が足りない。
- ・土日に保育園がやっていない、時間が限られているので、家庭か仕事かとなると仕事を優先するわけにはいかず、女性が家庭を優先せざるをえない状況が平等ではない。
- ・働きたいが、保育園のことを考えると先へ進めない。病気をしたときの保育も大切。
- ・放課後デイサービスが少ない。知多市は年配に優しいまちと聞くが、発達障害をもった子どもや親にも優しいまちづくりをしてほしい。
- ・双児の育児環境を整えてほしい。
- ・保育園の保育料を下げるべき。安心して子育てできる環境を整備してほしい。
- ・放課後児童クラブの料金が高い。認可外保育園も少ない。働きやすい環境ではない。
- ・子どもがいない立場からすると、子育てのサポートはすでに手厚い。
- ・正社員だと保育所も入りやすいし、有給休暇も取りやすい。
- ・保育園の早朝・延長保育があるので、自分がやりたかった仕事に挑戦し、働いている。

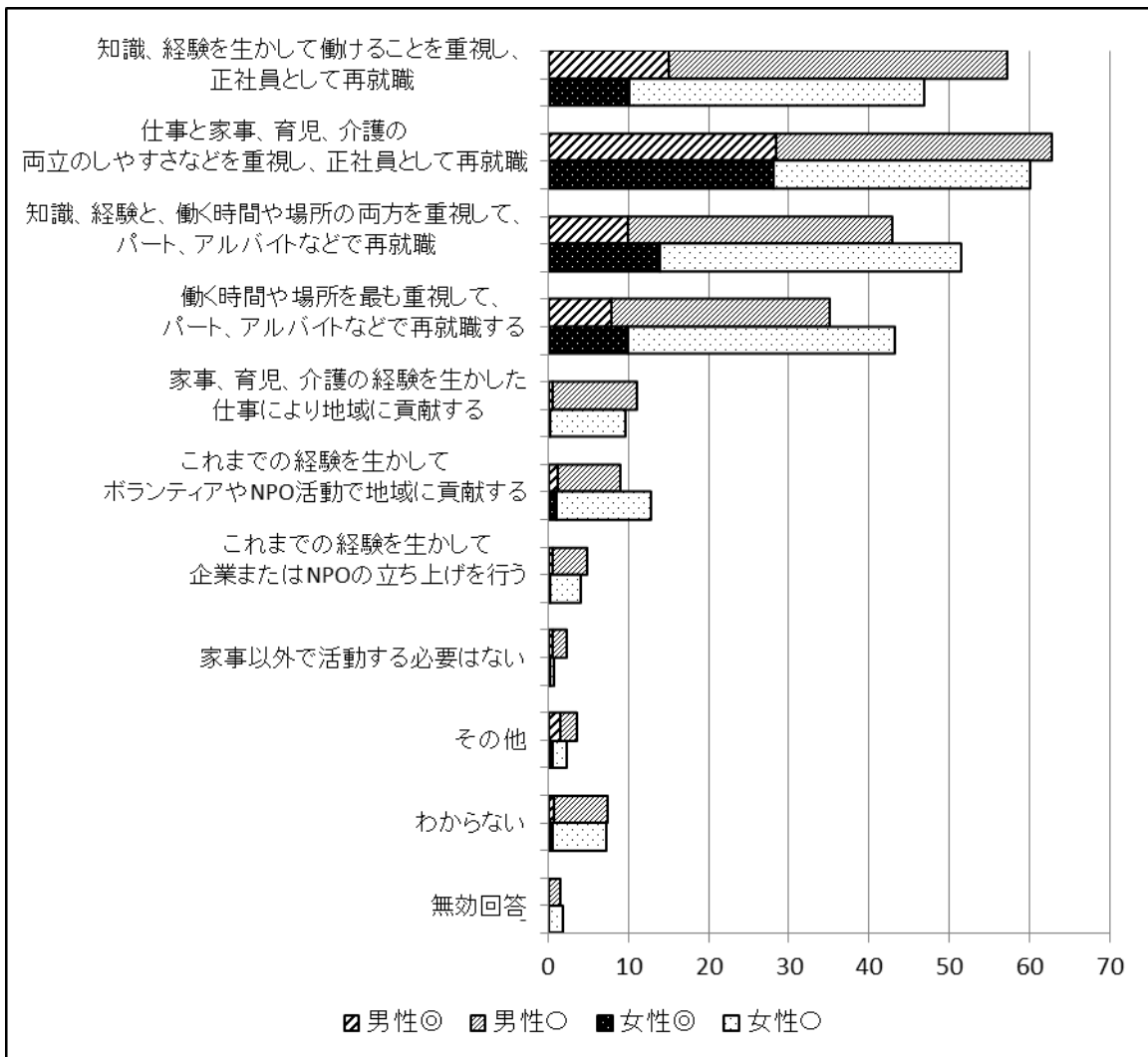
◆女性が出産後も働き続けること「子育て時について」の自由意見

- ・男女共同参画社会が進んだら、子どもはどうなるのか？将来の子どものことを考えた政策をしてほしい。
- ・子ども達が母親を必要とする時期に、朝と夜と休みの限られた時にしか接することができずに育った子どもが心配。子どもとゆっくり向き合いたいと思う女性も多いのでは。
- ・子どもが1日の大半を外で過ごすことに疑問。いじめの加害者・被害者の育った環境が気になる。愛情を十分に受けて育てばどうなるのか。子どもは皆笑顔でいてほしい。
- ・母親と一緒に家にいることは、幼少期の子どもにとって、心の形成にもたらず穏やかさは格別。父親の威厳はあった方がよい。それが社会生活でも人を敬うことにつながると思うが、今は何でも平等と言いついで、人を尊敬する気持ちを育んでいないように感じる。
- ・子育てにおいて父親の存在は必要。しかし、会社で責任あるポジションの夫に、子どもと関わる心の余裕も時間も少ない。
- ・子どもの小学校、中学校までの子育てには、子どもの様子の変化に気付けるような距離にいることが大事。

問 10. 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたがいいと思うものは何ですか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■離職した女性が再び社会で活動する仕方（男性・女性別比較）

- ・男女共、「仕事と家事、育児、介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職」が最も多いですが、女性自身はパート、アルバイトで再就職を考えている方も多いです。
- ・仕事にしても、ボランティアやNPO活動にしても、「地域に貢献する」と答えている方の割合は低いです。

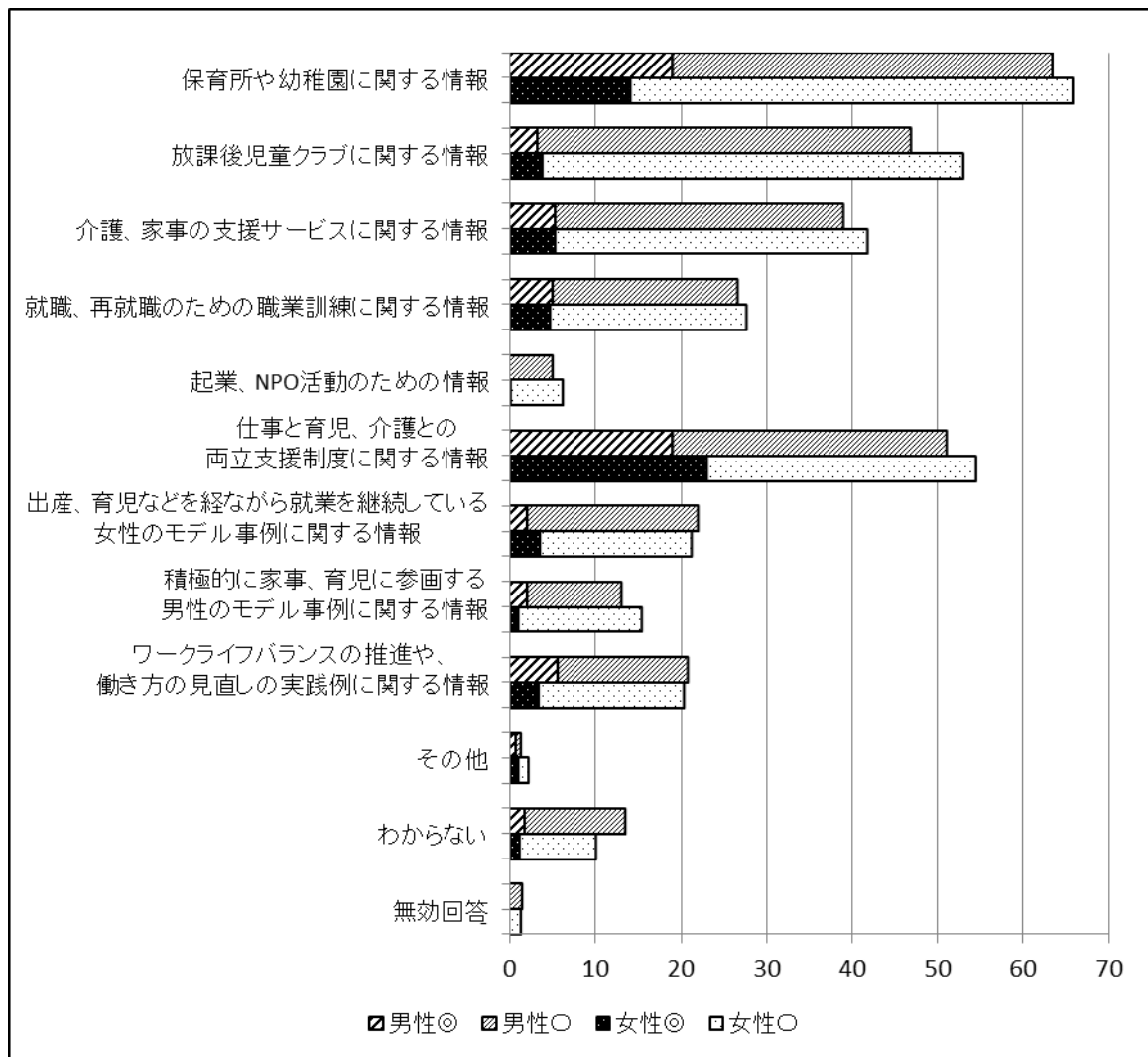


	知識、経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職	仕事と家事、育児、介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職	知識、経験と、働く時間や場所の両方を重視してパート、アルバイトなどで再就職	働く時間や場所を最も重視して、パート、アルバイトなどで再就職する	家事、育児、介護の経験を生かした仕事により地域に貢献する	これまでの経験を生かしてボランティアやNPO活動で地域に貢献する	これまでの経験を生かして企業またはNPOの立ち上げを行う	家事以外で活動する必要はない	その他	わからない	無効回答
全体	51.0%	61.0%	48.0%	39.9%	10.1%	11.1%	4.3%	1.3%	2.7%	7.3%	1.7%
男性	57.1%	62.8%	42.9%	35.1%	11.0%	8.9%	4.6%	2.1%	3.5%	7.4%	1.5%
女性	46.8%	60.0%	51.6%	43.2%	9.6%	12.7%	4.1%	0.7%	2.2%	7.2%	1.7%

問 11. あなたは、女性の活躍推進の取り組みに関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■女性の活躍推進の取り組みに関する情報（男性・女性別比較）

- ・男女に、大きな違いはありません。最も割合が多いのは、「保育所や幼稚園に関する情報」で、「仕事と育児、介護との両立支援制度に関する情報」、「放課後児童クラブに関する情報」と続きます。
- ・女性の「◎」で最も多いのは、「仕事と育児、介護との両立支援制度に関する情報」です。



	保育所や幼稚園に関する情報	放課後児童クラブに関する情報	介護、家事の支援サービスに関する情報	就職、再就職のための職業訓練に関する情報	企業、NPO活動のための情報	仕事と育児、介護との両立支援制度に関する情報	出産、育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報	積極的に家事、育児に参画する男性のモデル事例に関する情報	ワークライフバランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報	その他	わからない	無効回答
全体	64.7%	50.4%	40.5%	27.2%	5.8%	53.0%	21.5%	14.4%	20.7%	1.9%	11.5%	1.5%
男性	63.5%	46.8%	39.0%	26.6%	5.0%	51.1%	22.0%	13.1%	20.9%	1.4%	13.5%	1.5%
女性	65.7%	53.0%	41.7%	27.6%	6.2%	54.4%	21.3%	15.3%	20.4%	2.2%	10.1%	1.4%

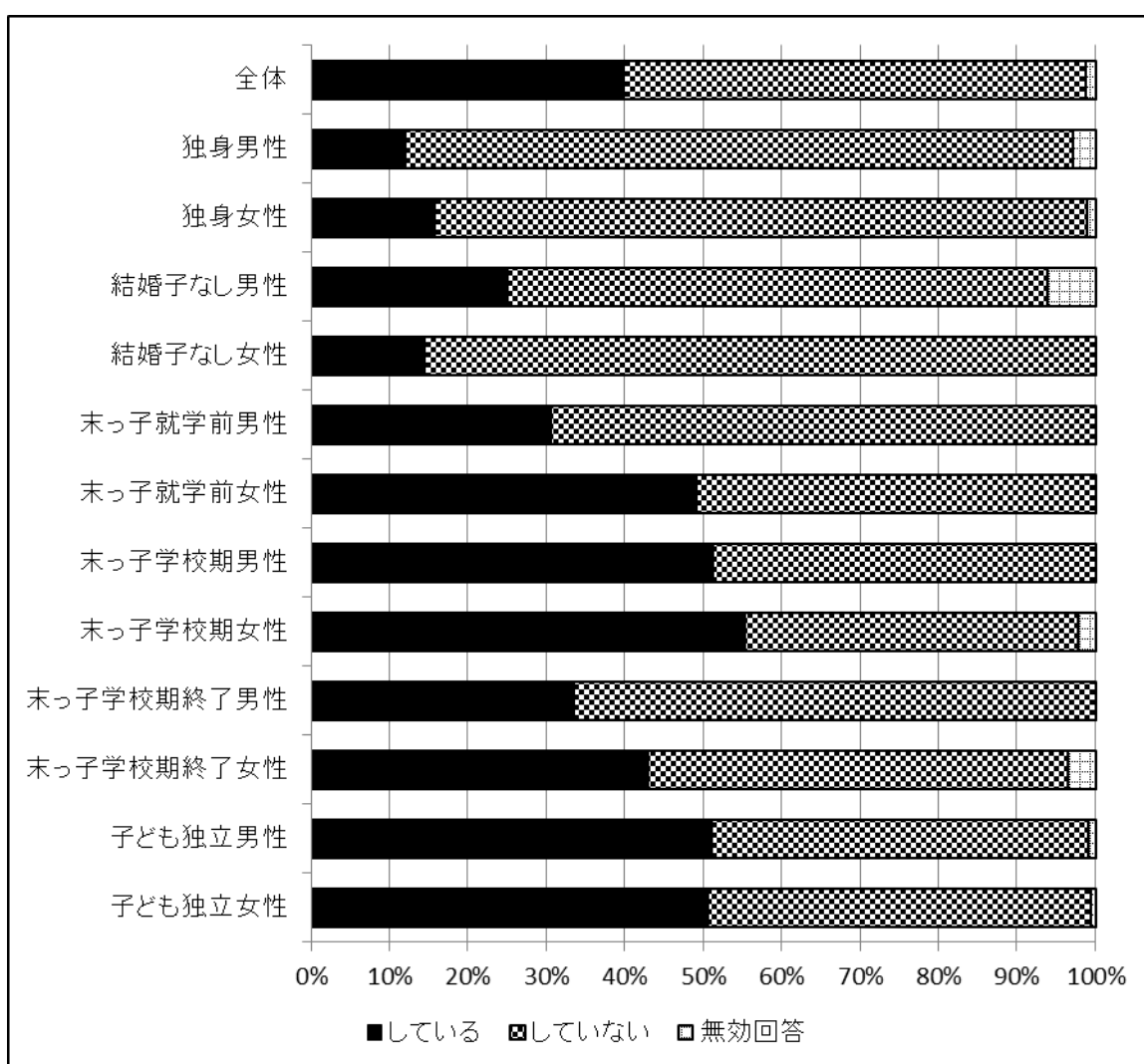
4. 地域活動について

問 12. 地域活動に参加していますか。(※ひとつ回答)

1. している 2. していない

■地域活動（全体・ライフステージごとの男性・女性別比較）

- ・ライフステージにより、違いがあります。
- ・「独身男性」、「独身女性」や「結婚子なし男性」、「結婚子なし女性」の割合が低いことから、子どもの有無が地域活動に参加しているか、していないかに影響しているようです。
- ・「末っ子学校期終了」には、地域活動の参加は減り、「子どもが独立」すると再び増えます。



	している	していない	無効回答
全体	39.8%	58.9%	1.3%
男性	37.9%	60.6%	1.4%
女性	41.0%	57.8%	1.2%

◆地域活動についての自由意見

- ・園や学校行事、PTA、町内会など、女性が働くことを阻むことが多い。
- ・地域活動するにあたり、交通手段のない方は参加しにくいので、バス代を免除してほしい。

●「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成31年度時点の達成率

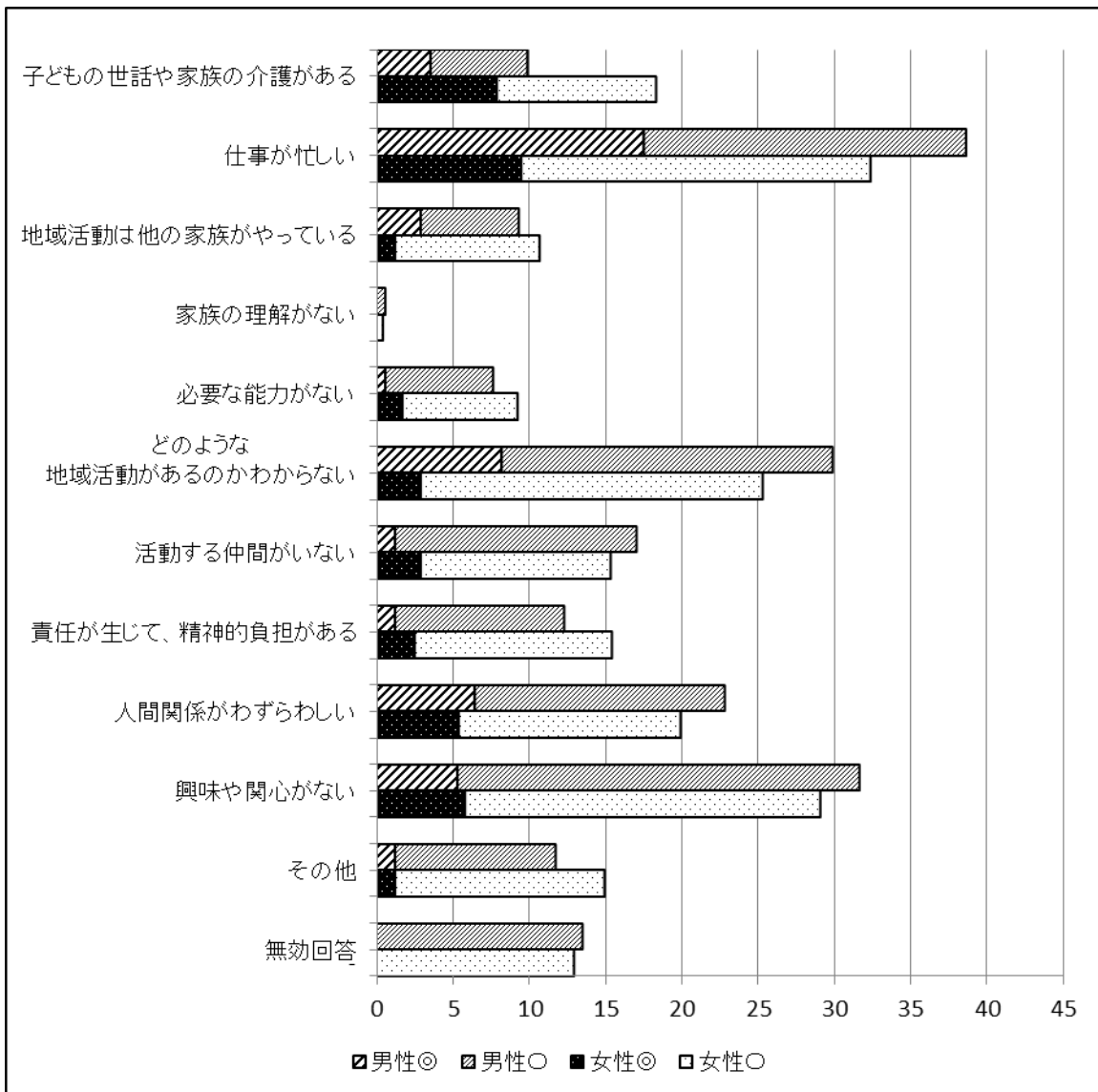
	令和2年度目標値	平成31年度実績	達成率
男性の地域活動への参加割合	50%	37.9%*	75.8%

(*) 今回のアンケート結果の、男性全体の数値を実績としています。

問 13. 地域活動に参加していない理由は何ですか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■地域活動に参加しない理由（男性・女性別比較）

- ・男女に、違いがあります。男女の違いが大きいのは、「子どもの世話や家族の介護がある」（男性が低く、女性が高い）で、女性で「◎」を付けた方の割合も高くなっています。
- ・全体としては、「仕事が忙しい」、「興味や関心がない」、「どのような地域活動があるのか、わからない」が多くなっています。

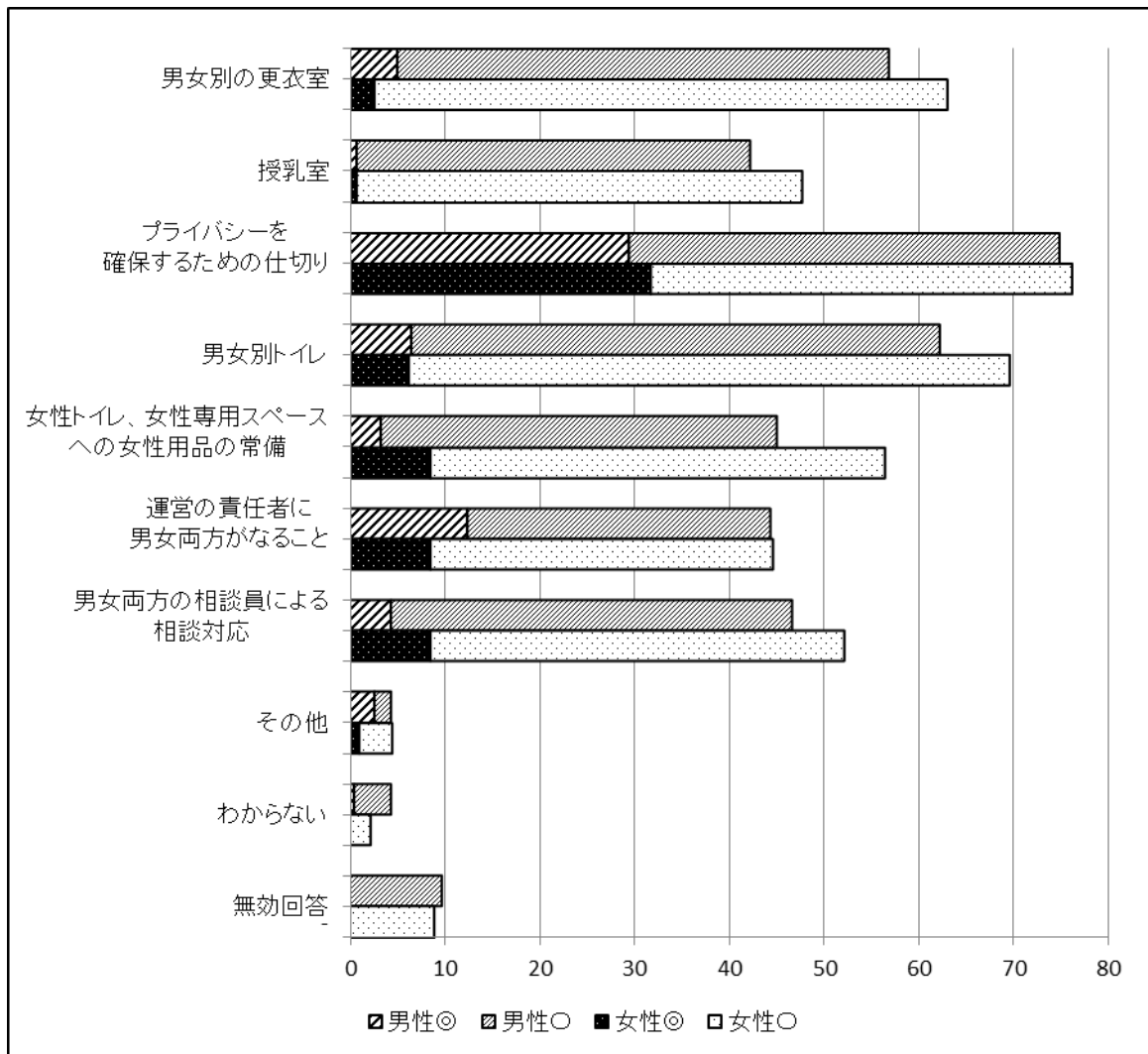


	子どもの世話や家族の介護がある	仕事が忙しい	地域活動は他の家族がやっている	家族の理解がない	必要な能力がない	どのような地域活動があるかわからない	活動する仲間がいない	責任が生じて、精神的負担がある	人間関係がわずらわしい	興味や関心がない	その他	無効回答
全体	15.0%	35.1%	10.2%	0.5%	8.5%	27.4%	16.0%	14.0%	21.1%	30.0%	13.6%	13.3%
男性	9.9%	38.6%	9.4%	0.6%	7.6%	29.8%	17.0%	12.3%	22.8%	31.6%	11.7%	14.1%
女性	18.3%	32.4%	10.8%	0.4%	9.1%	25.3%	15.4%	15.4%	19.9%	29.0%	14.9%	12.9%

問 14. 自然災害が発生したとき、すべての人に配慮した避難所にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■ 自然災害の際の避難所に必要なこと（男性・女性別比較）

- ・男女の違いは、ほとんどありません。男女共、「◎」「○」についても、「プライバシーを確保するための仕切り」が最も多くなっています。
- ・「運営の責任者に男女両方がなること」や「男女両方の相談員による相談対応」も、他の項目と同じく、割合は高くなっています。
- ・「その他」の回答には、子どもや障害を持った方に配慮する意見が多くありました。



	男女別の更衣室	授乳室	プライバシーを確保するための仕切り	男女別トイレ	女性トイレ、女性専用スペースへの女性用品の常備	運営の責任者に男女両方がなること	男女両方の相談員による相談対応	その他	わからない	無効回答
全体	60.5%	45.6%	75.5%	66.5%	51.7%	44.7%	49.9%	4.3%	3.0%	9.1%
男性	56.7%	42.2%	74.8%	62.1%	45.0%	44.3%	46.5%	4.3%	4.3%	9.6%
女性	63.1%	47.7%	76.0%	69.5%	56.4%	44.6%	52.0%	4.3%	2.2%	8.9%

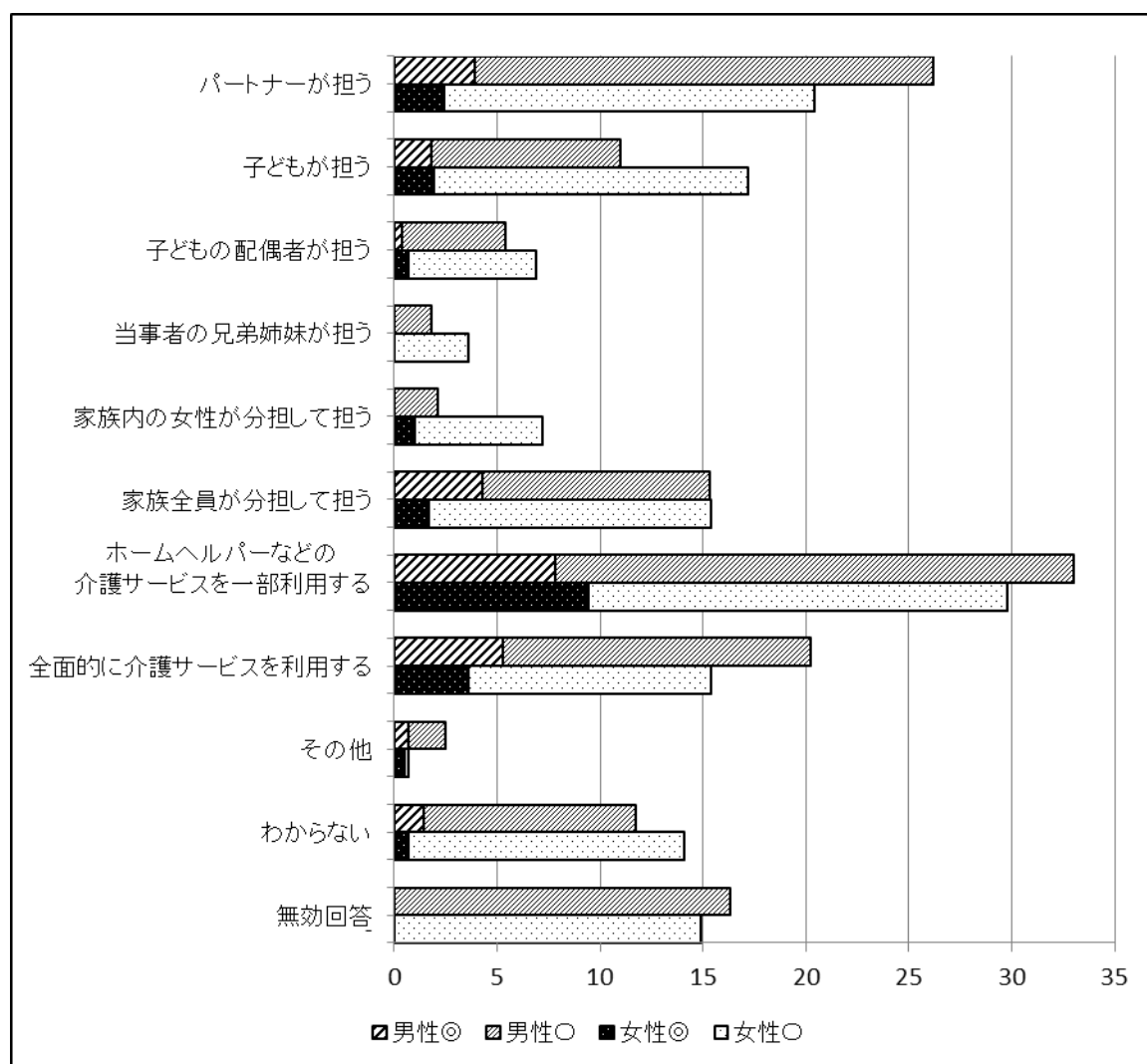
5. 高齢期について

問 15. 介護においてどのような役割分担が望ましいですか、また実際はどうですか（どうなると思いますか）。（※「望ましい」「実際（想定）」それぞれ、「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答）

※「実際」の回答には、実際に介護行っている方と介護を行っていない方、両方の意見が入っています。

■介護の役割分担の実際（男性・女性別比較）

- ・男女共、「ホームヘルパーなどの介護サービスを一部利用する」が最も多くなっていますが、次に多いのは、男性が「パートナーが担う」、女性が「子どもが担う」になっており、家族の誰に介護してもらっているか（もらうか）は、男女の違いがあります。
- ・全体として見たときの割合は多くありませんが、「家庭内の女性が分担して担う」について、男女の違いが大きくあります。女性の方が介護の負担も大きくなっているようです。



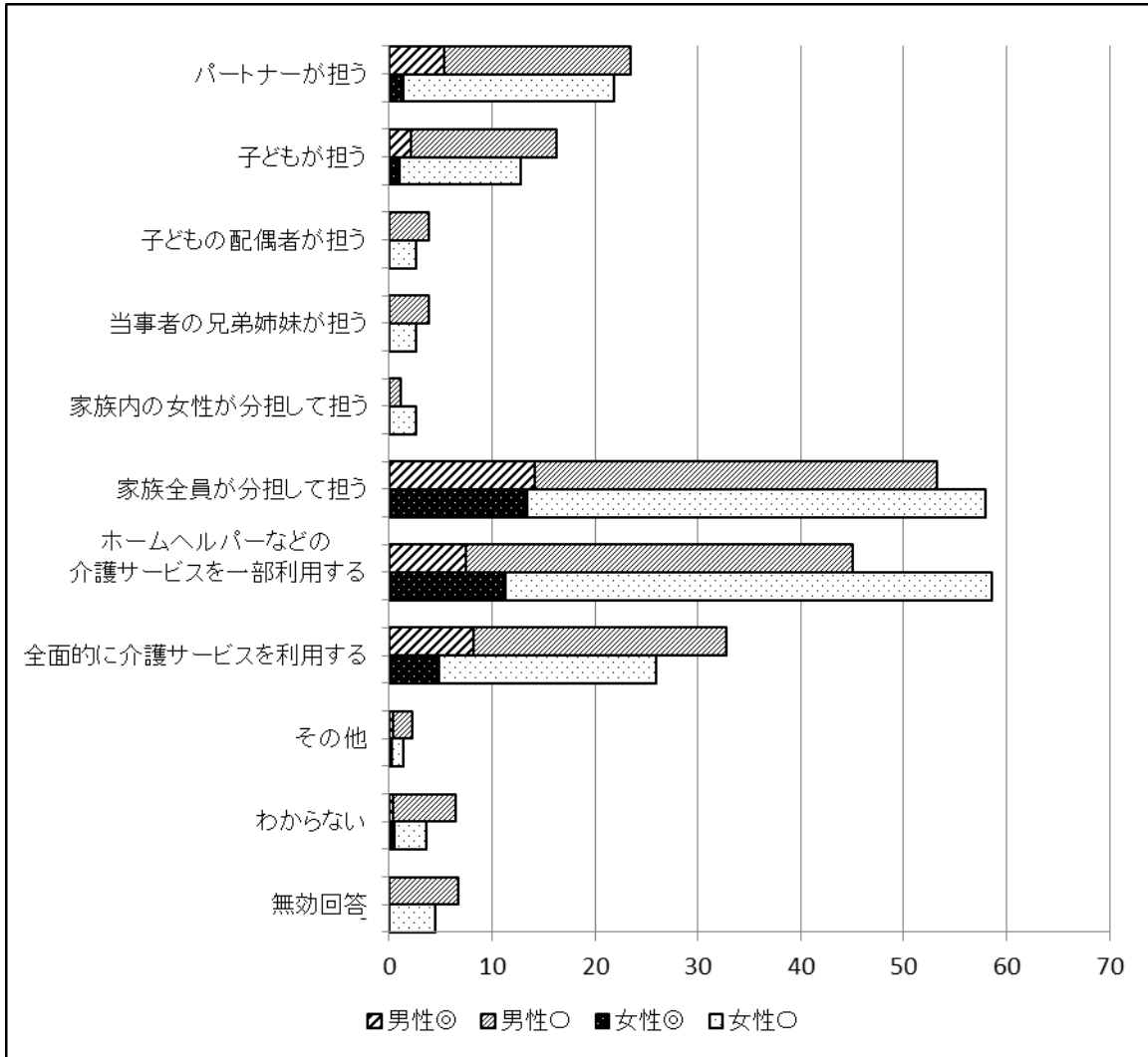
	パートナー が担う	子どもが 担う	子どもの 配偶者が 担う	当事者の 兄弟姉妹が 担う	家族内の 女性が 分担して 担う	家族全員が 分担して 担う	ホーム ヘルパー などの介護 サービスを 一部 利用する	全面的に 介護 サービス を利用する	その他	わからない	無効回答
全体	22.6%	14.7%	6.3%	2.8%	5.1%	15.2%	30.9%	17.2%	1.4%	13.1%	15.9%
男性	26.2%	11.0%	5.3%	1.8%	2.1%	15.2%	33.0%	20.2%	2.5%	11.7%	16.4%
女性	20.4%	17.3%	7.0%	3.6%	7.2%	15.3%	29.7%	15.3%	0.7%	14.1%	14.9%

◆介護についての自由意見

- ・ 今後、親の介護が必要になってくるため、市や県の介護制度を知りたい。
- ・ 親の介護のための設備を増やし、女性に自由な時間を与えてあげなければ意味がない。介護休業制度のないところが多い。知多市のすべての会社に作らせたらい。
- ・ 介護問題も重要なので、利用しやすく、効果的なものとしてほしい。
- ・ 介護が始まれば、女性がするような感じがあり、働けなくなる。介護にも目を向けて取り組んでほしい。
- ・ 介護のために仕事を辞めなくてよいように、老人施設、移動手段、宅配サービスなどを充実させてほしい。

■介護の役割分担の望ましい（男性・女性別比較）

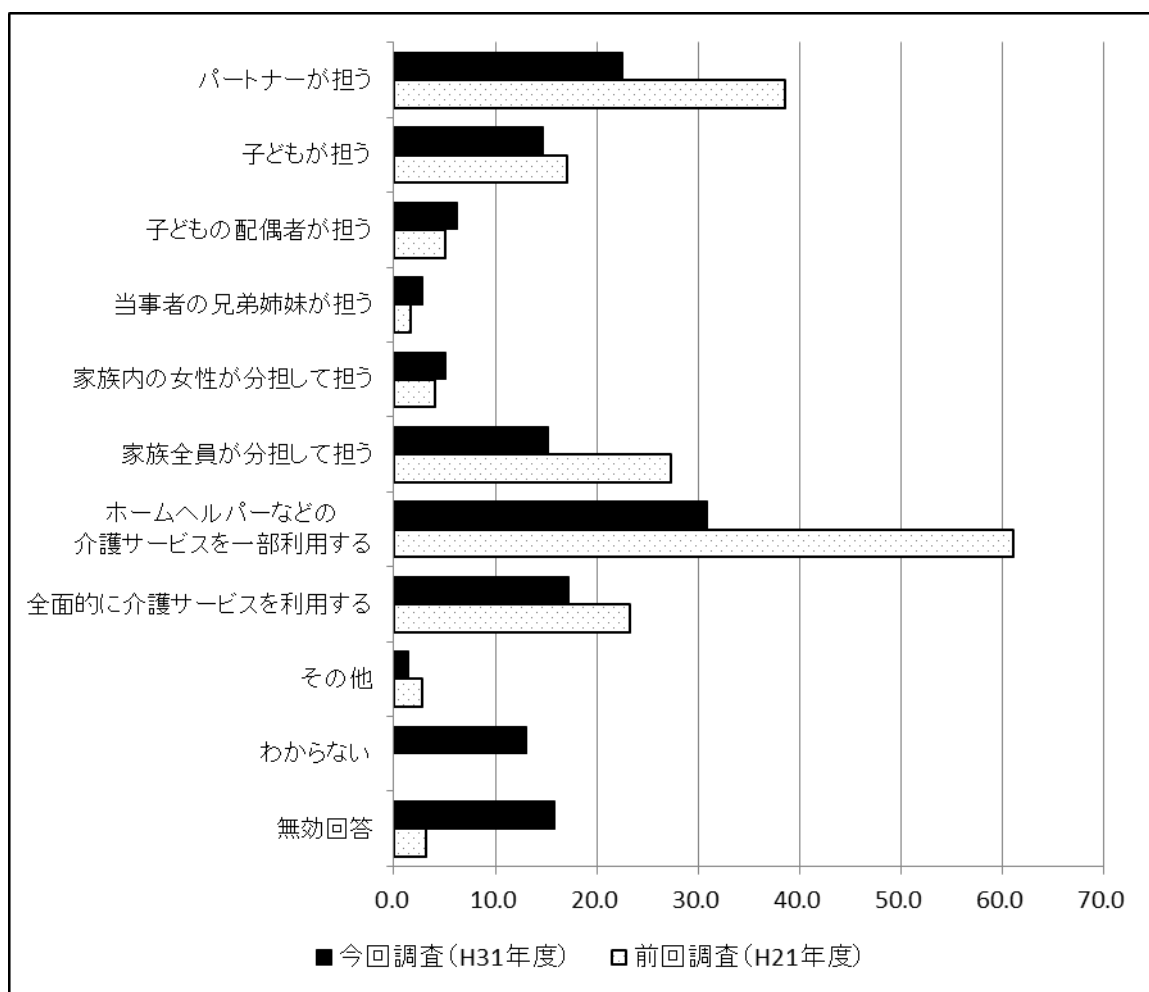
- ・「ホームヘルパーなどの介護サービスを一部利用する」が、「実際」と同じく多くなっていますが、「望ましい」について、次に多いのは「家族全員が分担して担う」となっていて、「パートナーが担う」や「子どもが担う」の割合は、「実際」と比べて低くなっています。
- ・「その他」の回答には、「施設や老人ホームに入る」が複数ありました。



	パートナーが担う	子どもが担う	子どもの配偶者が担う	当事者の兄弟姉妹が担う	家族内の女性が分担して担う	家族全員が分担して担う	ホームヘルパーなどの介護サービスを一部利用する	全面的に介護サービスを利用する	その他	わからない	無効回答
全体	22.4%	14.1%	3.1%	3.1%	2.0%	56.0%	52.8%	28.5%	1.7%	4.8%	5.5%
男性	23.4%	16.3%	3.9%	3.9%	1.1%	53.2%	45.0%	32.6%	2.1%	6.4%	6.7%
女性	21.8%	12.7%	2.6%	2.6%	2.6%	58.0%	58.5%	25.9%	1.4%	3.6%	4.5%

■介護の役割分担の実際（前回と今回の全体の比較）

- ・前回調査では、「ホームヘルパーなどの介護サービスを一部利用する」が6割を超えていましたが、平成18年4月から、国の方針が介護予防施策に切り替わったこともあり、今回調査では、その割合は半分に減っています。今後、軽度の要介護者は家族の負担が大きくなることが見込まれ、共働き世帯が多い知多市では、28ページでもみたとおり、女性の負担がさらに大きくなります。
- ・「パートナーが担う」、「家族が分担して担う」の割合が前回調査より減っており、「子どもの配偶者が担う」、「当事者の兄弟姉妹が担う」、「家庭内の女性が分担して担う」の割合が増えています。



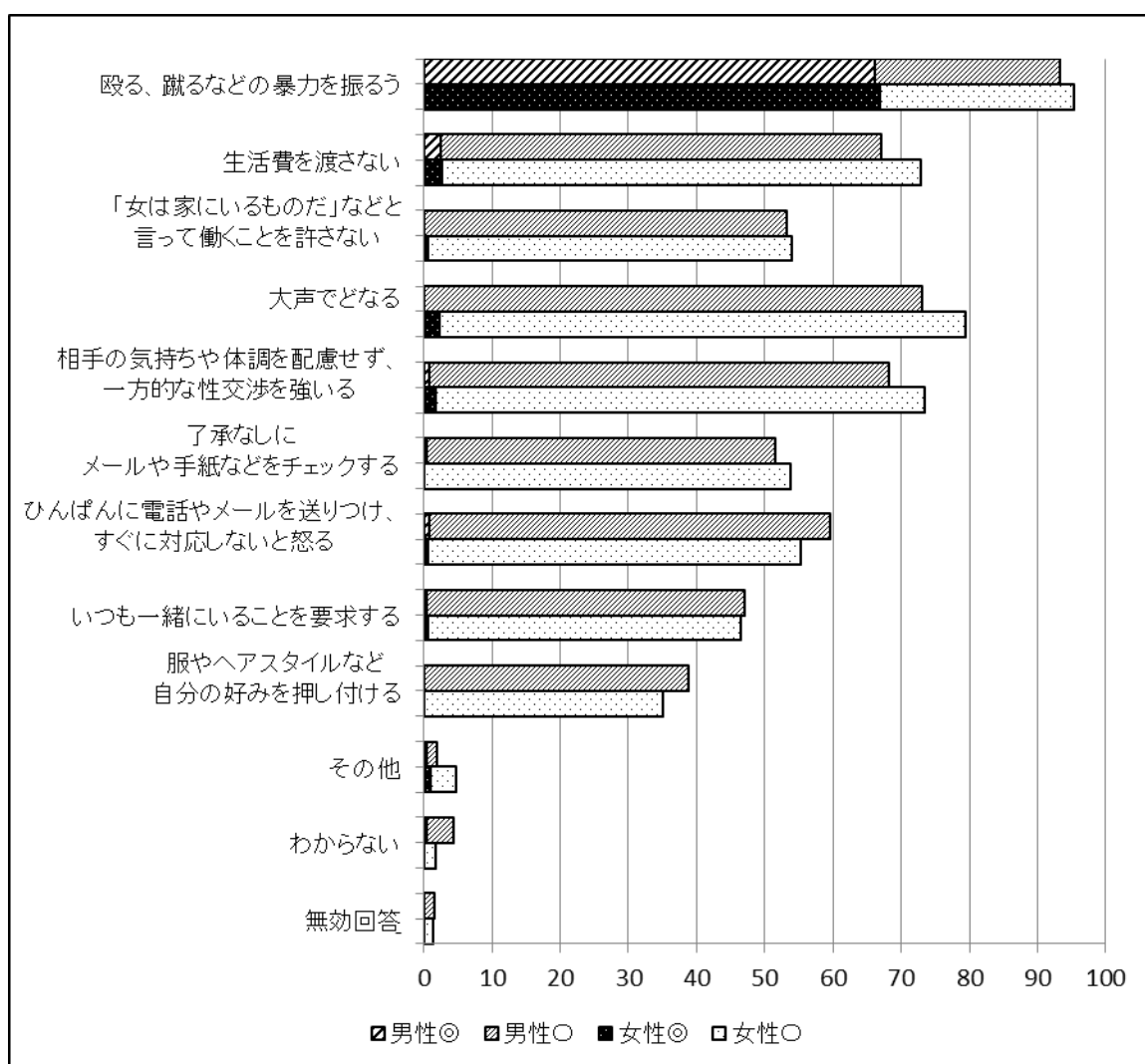
	パートナーが担う	子どもが担う	子どもの配偶者が担う	当事者の兄弟姉妹が担う	家庭内の女性が分担して担う	家族全員が分担して担う	ホームヘルパーなどの介護サービスを一部利用する	全面的に介護サービスを利用する	その他	わからない	無効回答
今回調査 (H31年度)	22.6%	14.7%	6.3%	2.8%	5.1%	15.2%	30.9%	17.2%	1.4%	13.1%	15.9%
前回調査 (H21年度)	38.6%	17.1%	5.0%	1.7%	4.1%	27.3%	61.0%	23.3%	2.8%	-	3.2%

6. DVについて

問 16. あなたは次の項目のうち、どれがDVにあたると思いますか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■DVの項目（男性・女性別比較）

- ・男女の違いはほとんどなく、「殴る、蹴るなどの暴力を振るう」が最も多くなっています。
- ・「その他」の回答には、「人権否定」「意識の押し付け」「言葉の暴力」「脅迫」「叱責」「無視」「誰のおかげで生活できているのかと言われる」など、具体的な内容が並んでいました。

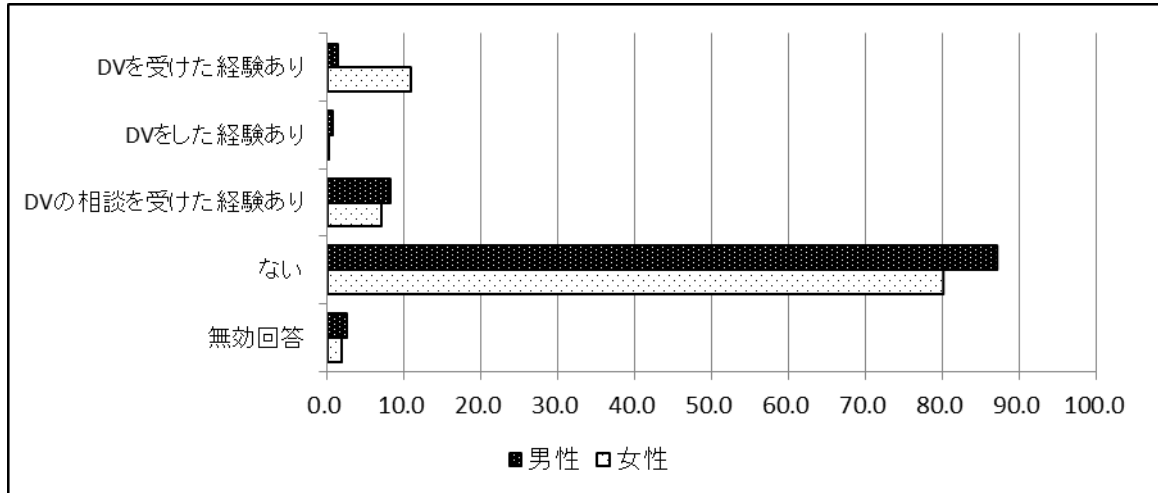


	殴る、蹴るなどの暴力を振るう	生活費を渡さない	「女は家にいるものだ」などと言って働くことを許さない	大声でどなる	相手の気持ちや体調を配慮せず、一方的な性交渉を強いる	了承なしにメールや手紙などをチェックする	ひんぱんに電話やメールを送りつけ、すぐに対応しないと怒る	いつも一緒にいることを要求する	服やヘアスタイルなど自分の好みを押し付ける	その他	わからない	無効回答
全体	94.3%	70.5%	53.6%	76.6%	71.1%	52.7%	56.8%	46.6%	36.5%	3.4%	2.7%	1.5%
男性	93.3%	67.0%	53.2%	73.0%	68.1%	51.4%	59.6%	46.8%	38.7%	1.8%	4.3%	1.5%
女性	95.2%	72.9%	54.0%	79.4%	73.4%	53.7%	55.2%	46.5%	35.0%	4.6%	1.7%	1.4%

問 17. DV の経験または身近な人から相談を受けた経験がありますか。(※ひとつ回答)

■ DV の経験について（男性・女性別比較）

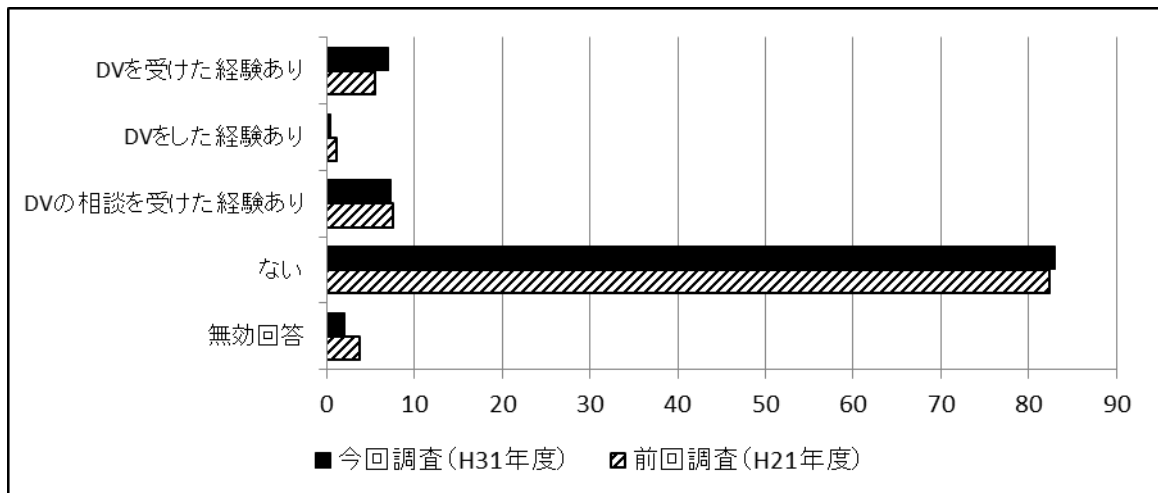
- ・「DV を受けた経験あり」と答えたのは、女性の割合が多くなっています。
- ・男女共に 8 割以上は、「ない」と答えています。



	DVを受けた経験あり	DVをした経験あり	DVの相談を受けた経験あり	ない	無効回答
全体	7.0%	0.4%	7.4%	83.0%	2.1%
男性	1.4%	0.7%	8.2%	87.2%	2.5%
女性	10.8%	0.2%	7.0%	80.1%	1.9%

■ DV の経験について（前回と今回の全体の比較）

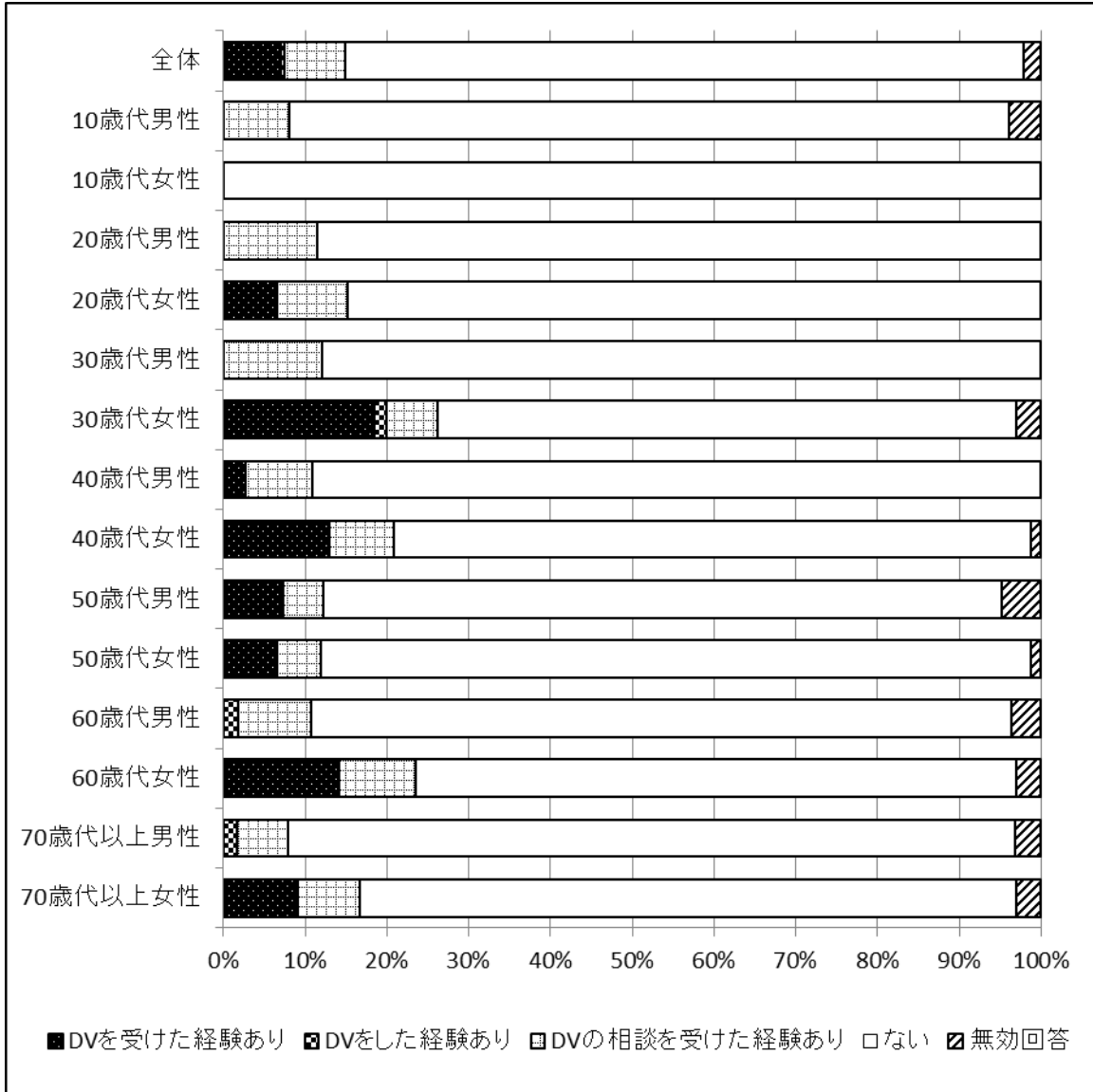
- ・前回調査と比べ、変化はほとんどありません。



	DVを受けた経験あり	DVをした経験あり	DVの相談を受けた経験あり	ない	無効回答
今回調査(H31年度)	7.0%	0.4%	7.4%	83.0%	2.1%
前回調査(H21年度)	5.6%	1.2%	7.6%	82.4%	3.8%

■ DVの経験（年代ごとの男性・女性別比較）

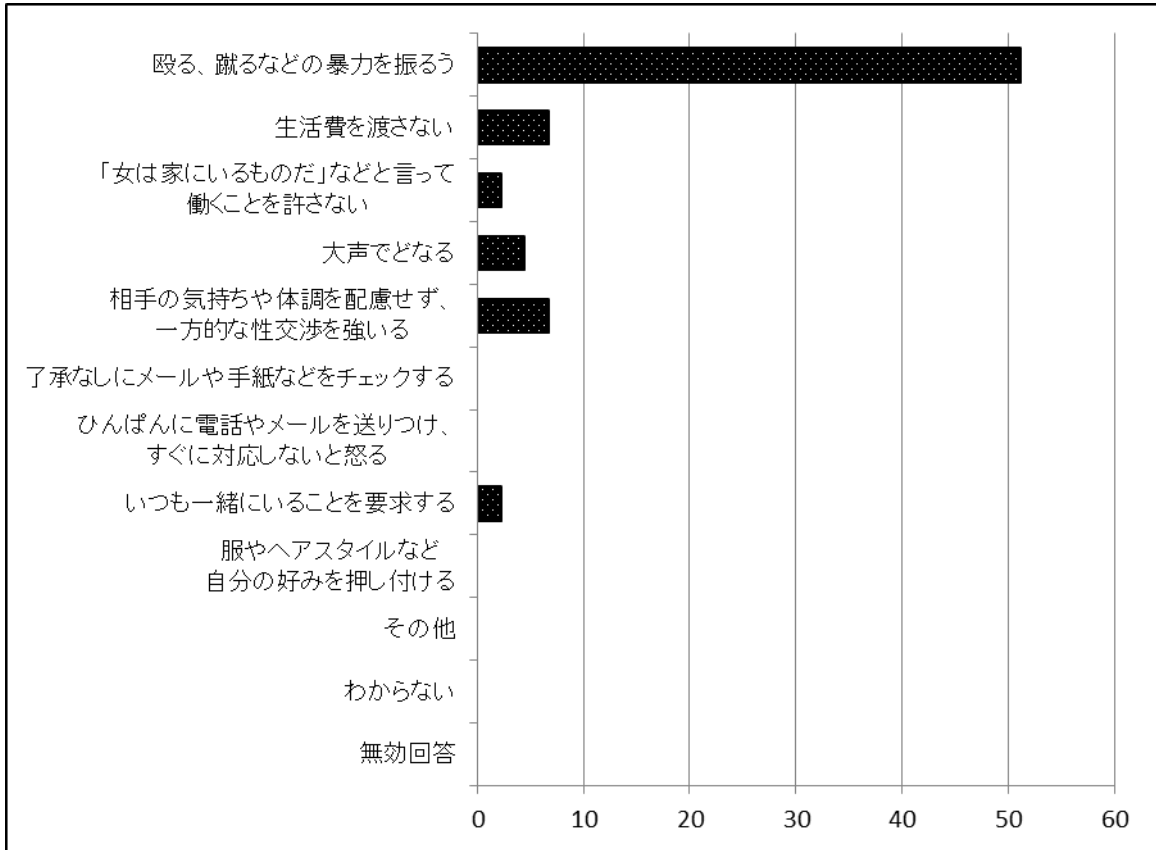
- ・「DVを受けた経験あり」と答えたのが多いのは、「30歳代女性」、「40歳代女性」、「60歳代女性」となっています。
- ・「DVの相談を受けた経験あり」は、「10歳代女性」以外、すべての年代にいます。



	DVを受けた経験あり	DVをした経験あり	DVの相談を受けた経験あり	ない	無効回答
全体	7.0%	0.4%	7.4%	83.0%	2.1%
男性	1.4%	0.7%	8.2%	87.2%	2.5%
女性	10.8%	0.2%	7.0%	80.1%	1.9%

POINT 「DVを受けた経験あり」と答えた女性のDVの項目

「DVを受けた経験あり」と答えた女性が、問16の「どれがDVにあたると思いますか」の質問で何に「◎」をつけているのかを見ってみました。32ページの女性全体の「◎」の割合と比較すると、「殴る、蹴るなどの暴力を振るう」は低く、「生活費を渡さない」、「相手の気持ちや体調を配慮せず、一方的な性交渉を強いる」、「大声でどなる」などは高く、項目にばらつきが見られます。



	殴る、蹴るなどの暴力を振るう	生活費を渡さない	「女は家にいるものだ」などと言って働くことを許さない	大声でどなる	相手の気持ちや体調を配慮せず、一方的な性交渉を強いる	了承なしにメールや手紙などをチェックする	ひんばんに電話やメールを送りつけ、すぐに対応しないと怒る	いつも一緒にいることを要求する	服やヘアスタイルなど自分の好みを押し付ける	その他	わからない	無効回答
DV経験あり女性	51.1%	6.7%	2.2%	4.4%	6.7%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	66.9%	2.6%	0.5%	2.2%	1.7%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%

● 「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成30年度時点の達成率

	令和2年度目標値	平成31年度実績	達成率
出前講座実施回数	5回/年	5回/年	100%

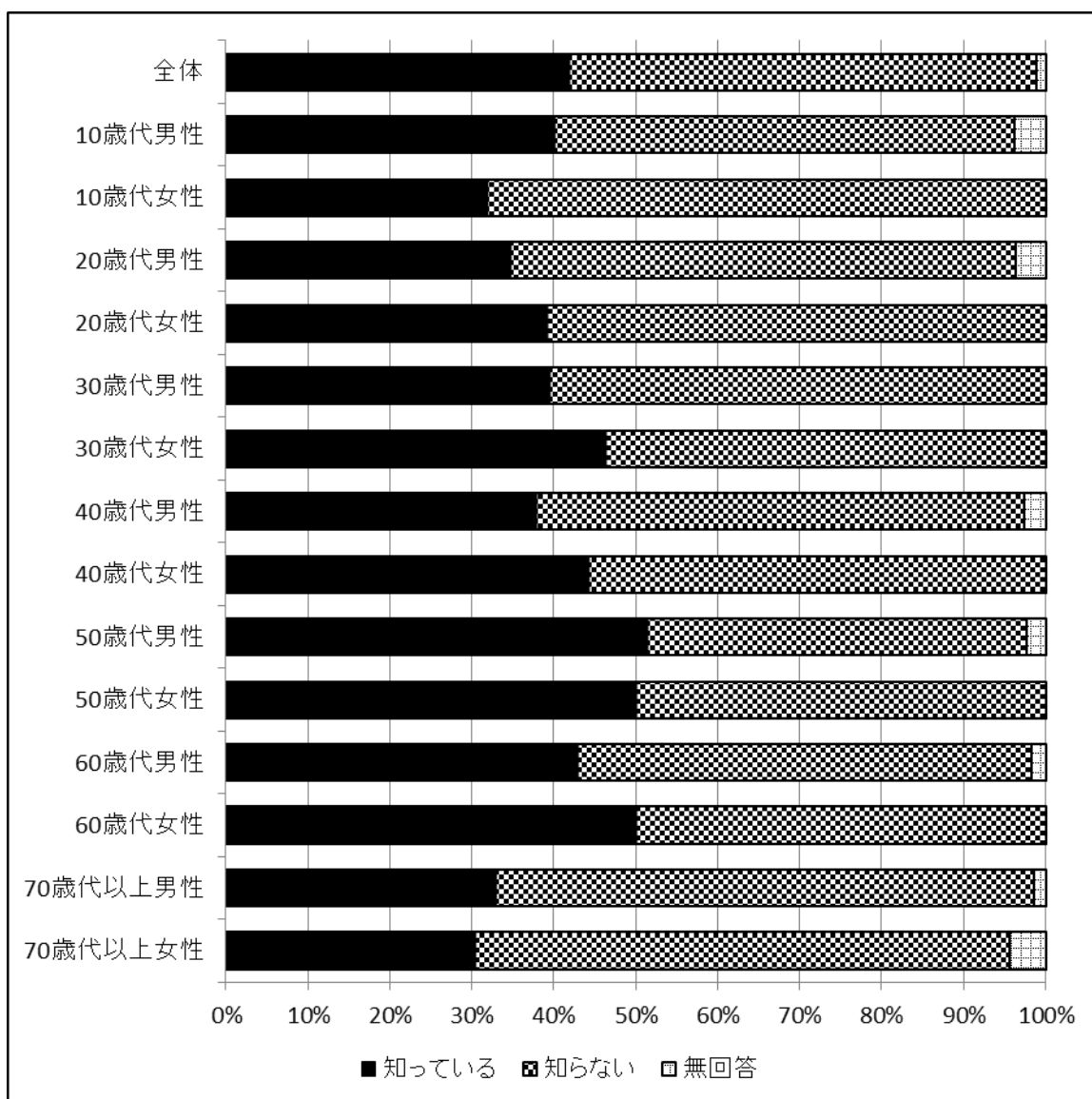
※知多市若者女性支援室では、「身近な男女共同参画やDVについて」の出前講座を行っています。10人以上のグループの学習会に市の職員などを派遣し、わかりやすくお話しします。

問 18. DV の相談窓口があることを知っていますか。(※ひとつ回答)

1. 知っている 2. 知らない

■ DV の相談窓口の認知（全体・年代ごとの男性・女性別比較）

- ・男女、年代で大きな違いはありません。全体で 41.8%の方が、知っていると答えています。
- ・知多市では、平成 22 年度より、市内の中学 1 年生、翔洋高校 1 年生、看護専門学校 1 年生に、「デート DV」啓発パンフレットを配布しています。問 17 で「DV を受けた経験あり」の割合が少ない「10 歳代」、「20 歳代」でも、DV の相談窓口の認知が、他の年代と同等にあることから、パンフレット配布による啓発の効果がありそうです。



	知っている	知らない	無効回答
全体	41.8%	56.9%	1.2%
男性	39.7%	58.2%	2.2%
女性	43.2%	56.1%	0.7%

●「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成31年度時点の達成率

	令和2年度目標値	平成31年度実績	達成率
DVの相談窓口の認知	60%	41.6%*	69.3%

(*) 今回のアンケート結果の、全体の数値を実績としています。

※実際にどのくらいの方が利用されているのか、平成28～30年度におけるDV相談窓口の利用状況を調べてみました。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
81件	37件	49件

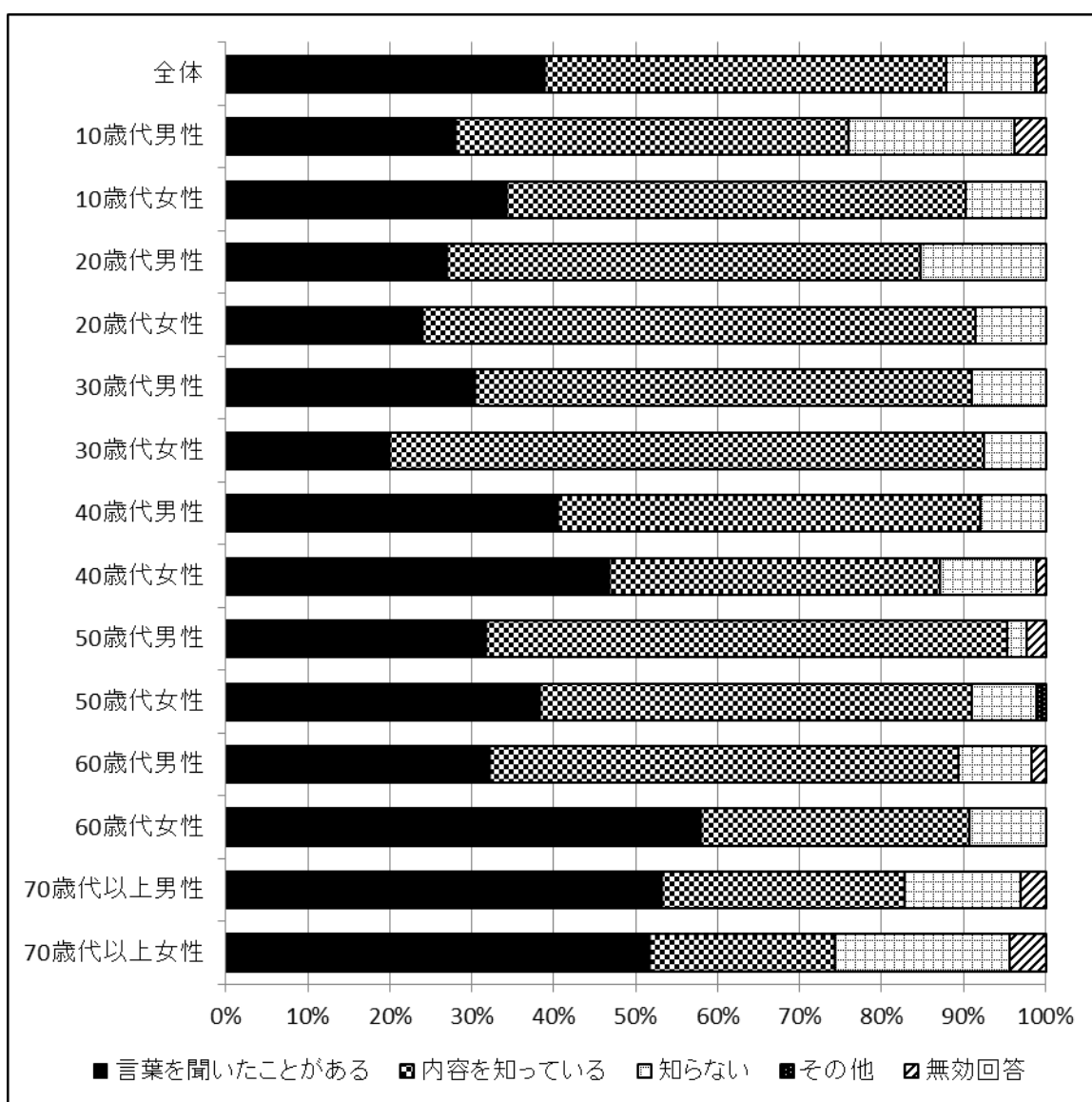
7. LGBTについて

問 19. 「LGBT」など「性的少数者」について知っていますか。(※ひとつ回答)

1. 言葉を聞いたことがある 2. 内容を知っている 3. 知らない 4. その他

■ LGBTの認知（全体・年代ごとの男性・女性別比較）

・全体で48.9%の方が「内容を知っている」、38.8%の方が「言葉を聞いたことがある」と答えています。「LGBT」の認知度は高いようです。



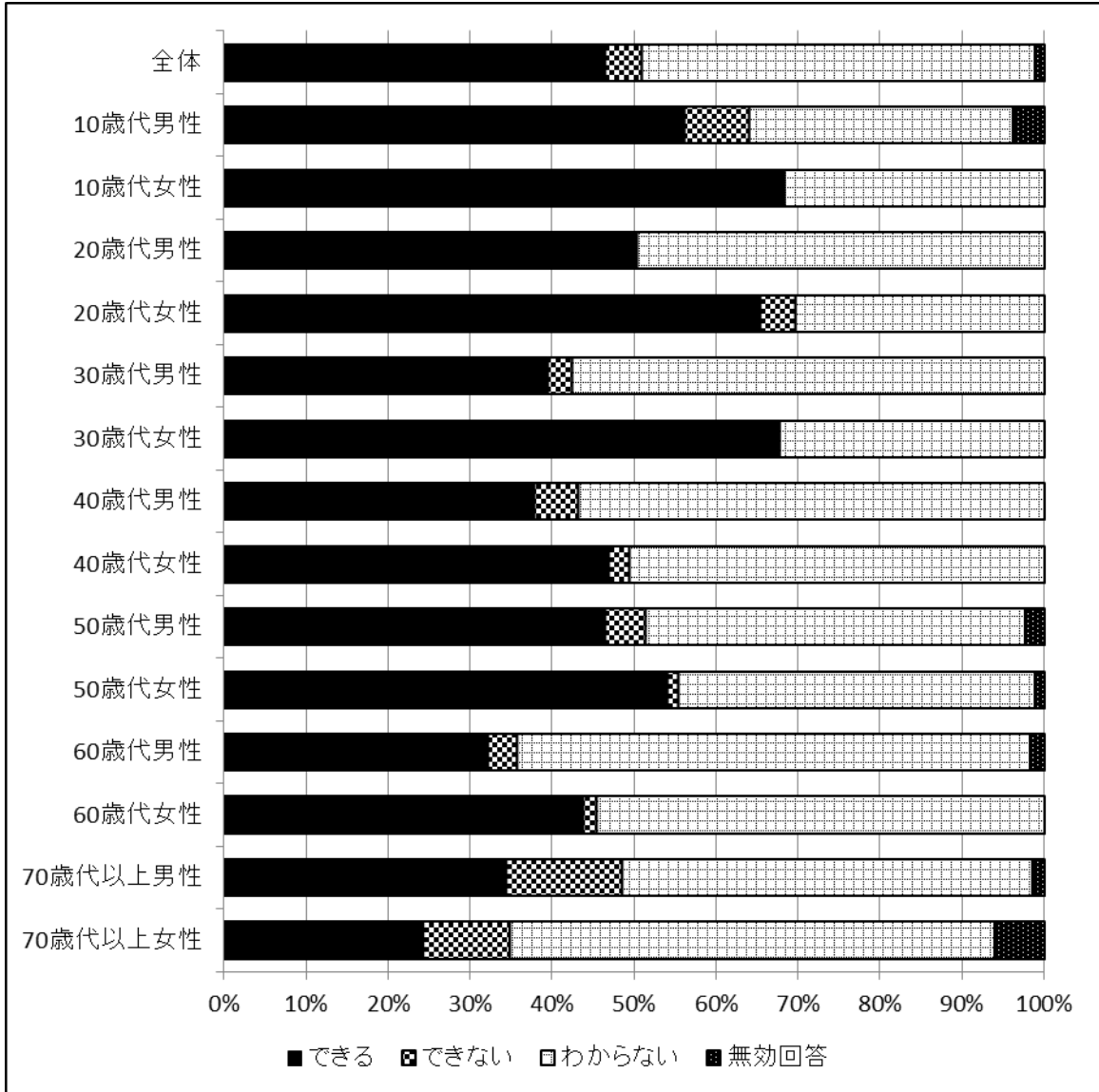
	言葉を聞いたことがある	内容を知っている	知らない	その他	無効回答
全体	38.8%	48.9%	10.9%	0.1%	1.3%
男性	36.9%	50.7%	10.6%	0.0%	1.8%
女性	40.0%	47.7%	11.0%	0.2%	1.0%

問 20. 身近な方（家族、友人など）が性的少数派だった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。（※ひとつ回答）

1. できる 2. できない 3. わからない

■ LGBTの接し方（全体・年代ごとの男性・女性別比較）

- ・全体的に、若い年代や女性が「できる」と答えている割合が高いです。
- ・他の年代も「できない」というよりは、「わからない」という回答が多くなっています。



	できる	できない	わからない	無効回答
全体	46.2%	4.4%	48.1%	1.2%
男性	40.1%	6.4%	52.1%	1.5%
女性	50.6%	3.1%	45.1%	1.2%

8. 男女共同参画センターウイズについて

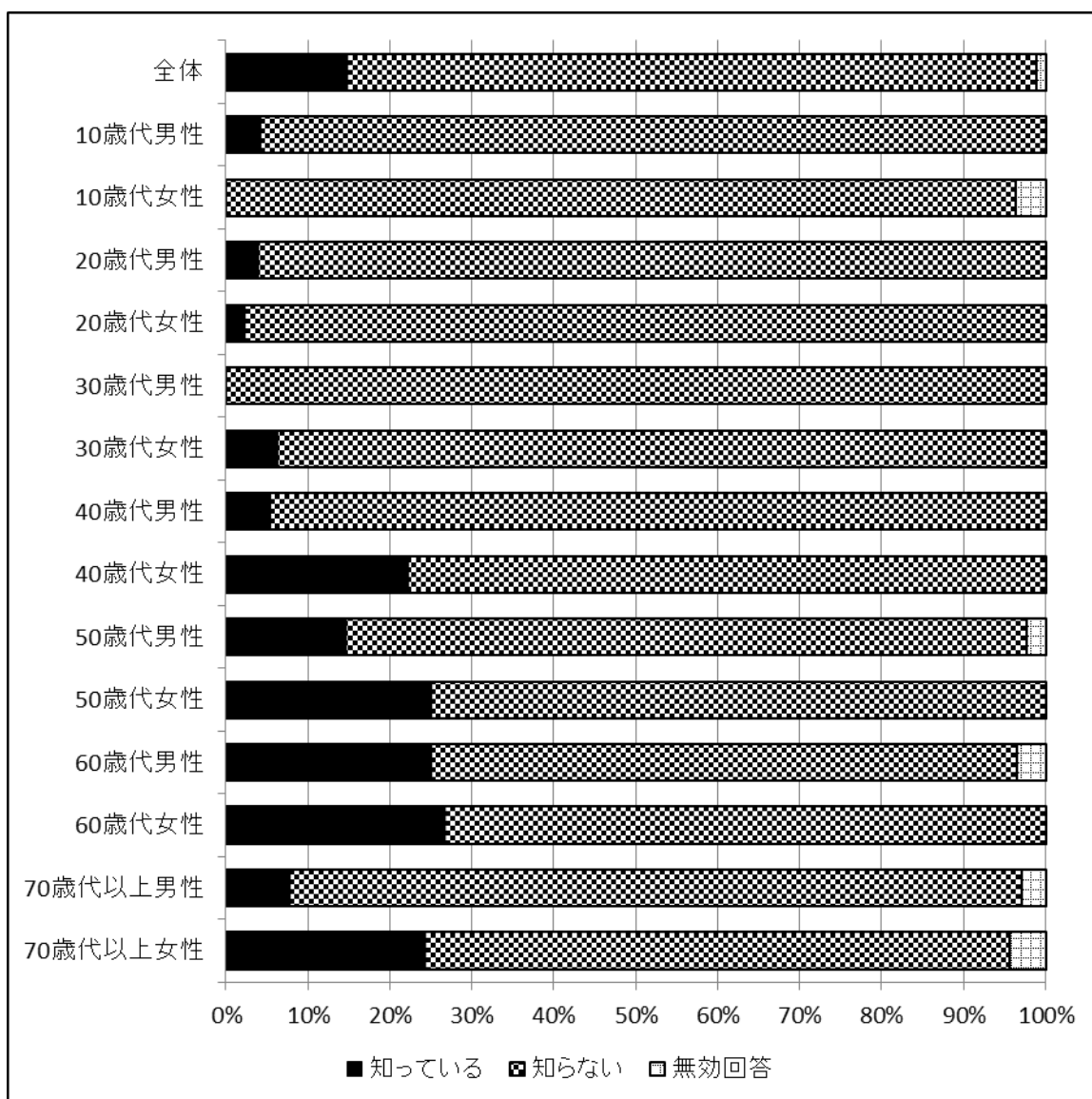
問 21. 男女共同参画センターウイズ（知多市ふれあいプラザ内）を知っていますか。

（※ひとつ回答）

1. 知っている 2. 知らない

■ウイズの認知（全体・年代ごとの男性・女性別比較）

- ・「知っている」と答えた方の割合は、全体で14.8%と、あまり認知されていないようです。
- ・10歳代～30歳代の割合は低く、40歳代以上で割合が高くなっています。



	知っている	知らない	無効回答
全体	14.8%	83.9%	1.2%
男性	10.3%	87.6%	2.2%
女性	17.7%	81.5%	0.7%

●「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成31年度時点の達成率

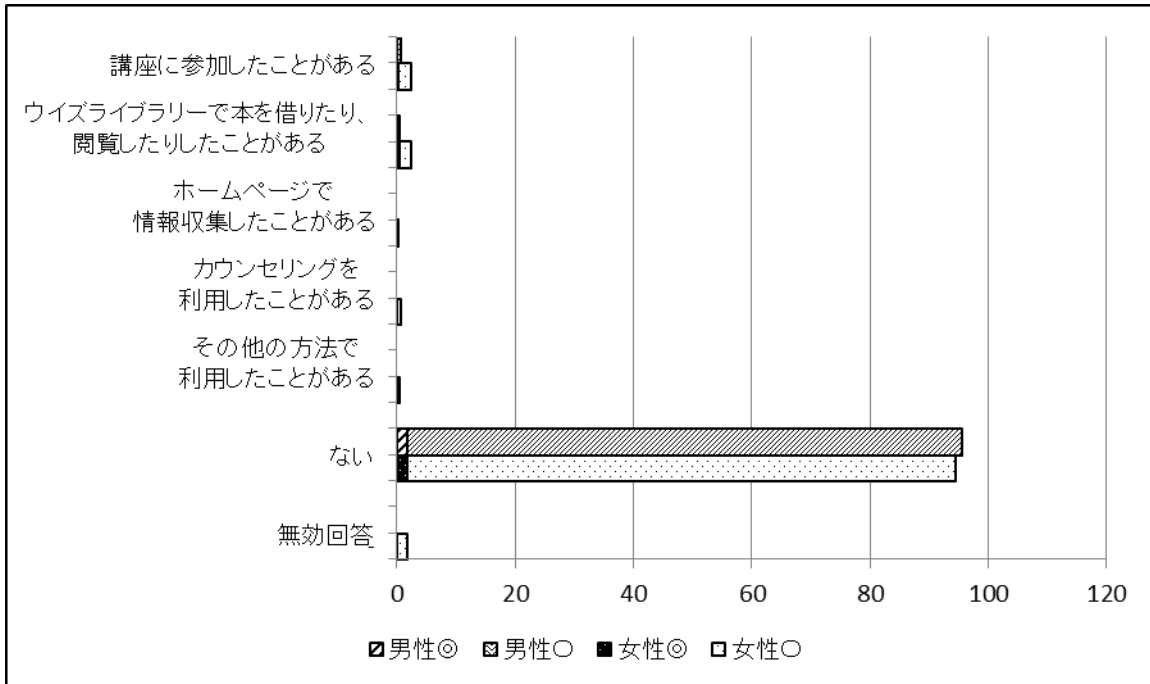
	令和2年度目標値	平成31年度実績	達成率
ウイズの認知度	30%	14.8%*	49.3%

(*）今回のアンケート結果の、全体の数値を実績としています。

問 22. 男女共同参画センターウイズを利用したことがありますか。(※「○」は複数回答、「◎」はひとつ回答)

■ウイズの利用状況（男性・女性別比較）

- ・全体の 94.9%の方が、「利用したことがない」と答えています。
- ・利用者は女性の方が多く、「講座に参加したことがある」や「ウイズライブラリーで本を借りたり、閲覧したことがある」が主な利用内容となっています。



	講座に参加したことがある	ウイズライブラリーで本を借りたり、閲覧したことがある	ホームページで情報収集したことがある	カウンセリングを利用したことがある	その他の方法で利用したことがある	ない	無効回答
全体	1.7%	1.6%	0.1%	0.4%	0.3%	94.9%	2.4%
男性	0.7%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	95.4%	3.6%
女性	2.4%	2.4%	0.2%	0.7%	0.5%	94.5%	1.7%

◆ウイズに関する自由意見

- ・ふれあいプラザに行って、いろいろ利用してみようと思う。
- ・ウイズの講座に参加したい。

●「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成30年度時点の達成率

	令和2年度目標値	平成30年度実績	達成率
ウイズ自主事業への参加者数	400人／年	252人／年	63.0%
ウイズの図書の貸出冊数	450冊／年	440冊／年	97.8%

※アンケートの結果、ウイズの利用を利用したことがあると答えた方は少ないですが、実際にどのくらいの方が利用されているのか、平成28～30年度におけるウイズの利用状況を調べてみました。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ウイズステーションの来場者数	1,586人	1,608人	1,100人
ウイズ自主事業への参加者数	357人	416人	252人
ウイズの図書の貸出冊数	445冊	543冊	440冊
カウンセリング者数	100人	97人	191人

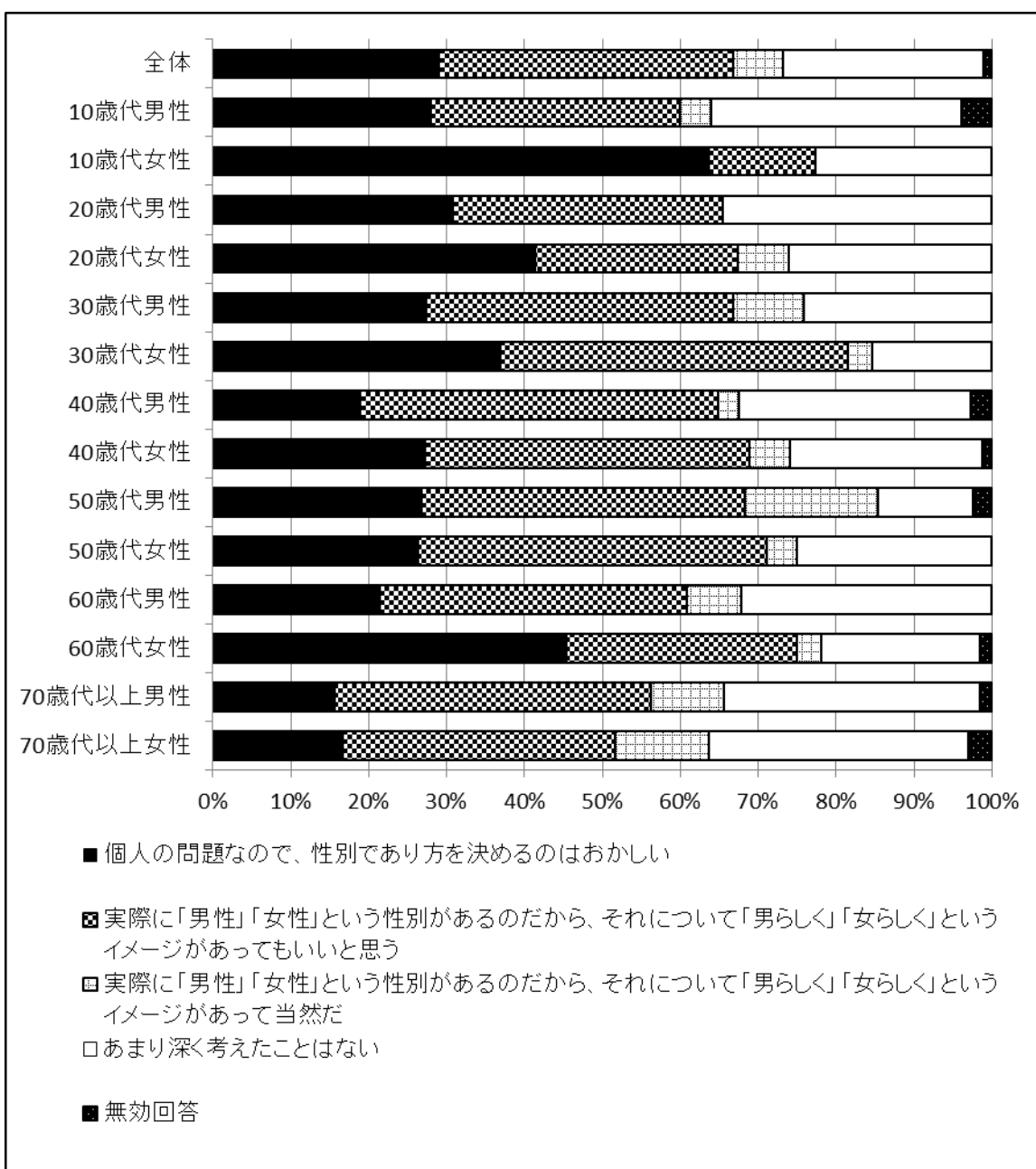
(注) 平成29年度以前は、コンサートや講演会など、啓発事業として、定員の多い企画を開催していましたが、平成30年度以降は、定員を減らし、男女共同参画について具体的に学べる講座に企画を変更したため、ウイズステーションの来場者数やウイズ自主事業への参加者数が減っています。

9. 男女共同参画社会について

問 23. あなたは、「男らしく」「女らしく」という言葉について、どのように感じますか。
(※ひとつ回答)

■ 「男らしく」「女らしく」の感じ方（年代ごとの男性・女性別比較）

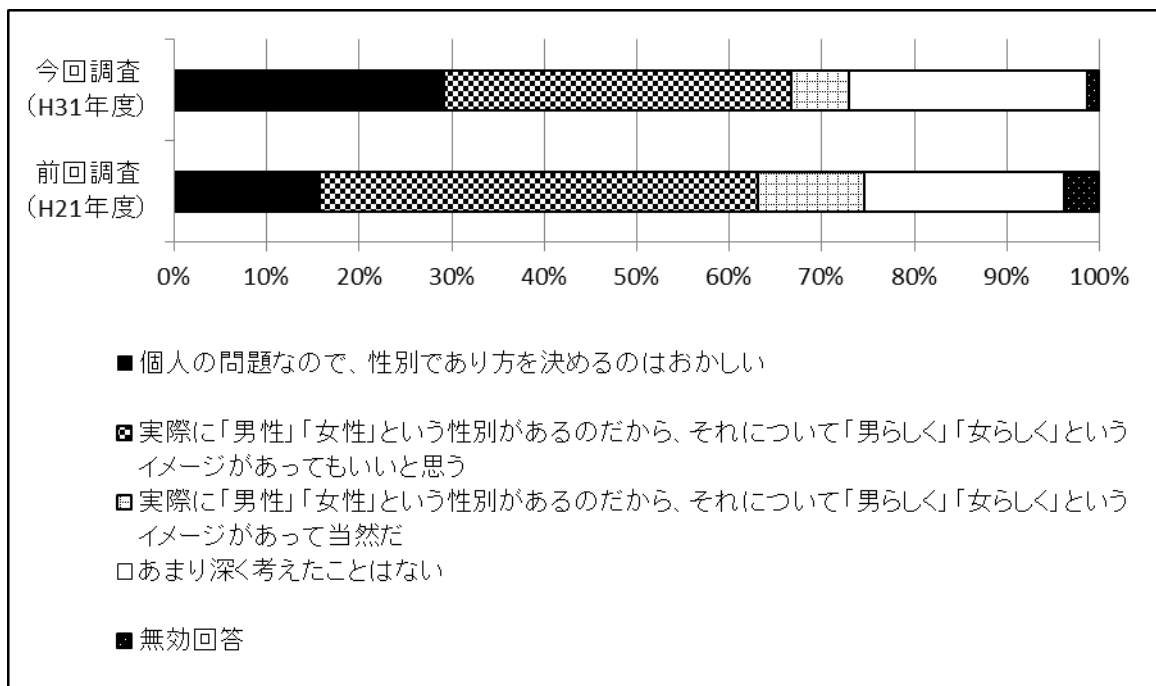
- ・「10歳代女性」、「60歳代女性」で、「個人の問題なので、性別であり方を決めるのはおかしい」と答えている割合が、他の年代に比べてかなり高くなっています。他の年代でも、男性より女性の方が、この項目の割合は高くなっています。
- ・男性は、年代別の違いはあまり大きくありません。



	個人の問題なので、性別であり方を決めるのはおかしい	実際に「男性」「女性」という性別があるのだから、それについて「男らしく」「女らしく」というイメージがあってもいいと思う	実際に「男性」「女性」という性別があるのだから、それについて「男らしく」「女らしく」というイメージがあって当然だ	あまり深く考えたことはない	無効回答
全体	29.2%	37.6%	6.3%	25.8%	1.2%
男性	22.7%	39.7%	7.8%	28.4%	1.4%
女性	33.3%	36.5%	5.3%	24.0%	1.0%

■「男らしく」「女らしく」の感じ方（前回と今回の全体の比較）

- ・前回調査と比べ、「個人の問題なので、性別であり方を決めるのはおかしい」の割合は、約2倍に増えていて、「実際に『男性』『女性』という性別があるのだから、それについて『男らしく』『女らしく』というイメージがあってもいいと思う」、「あって当然だ」と答えている方の割合は減っています。



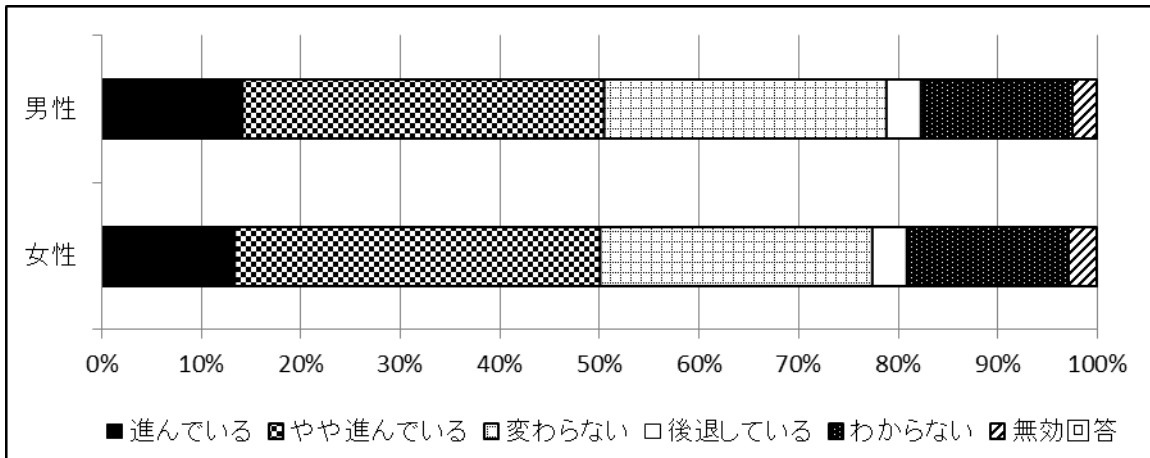
	個人の問題なので、性別であり方を決めるのはおかしい	実際に「男性」「女性」という性別があるのだから、それについて「男らしく」「女らしく」というイメージがあってもいいと思う	実際に「男性」「女性」という性別があるのだから、それについて「男らしく」「女らしく」というイメージがあって当然だ	あまり深く考えたことはない	無効回答
今回調査 (H31年度)	29.2%	37.6%	6.3%	25.8%	1.2%
前回調査 (H21年度)	15.8%	47.4%	11.4%	21.7%	3.7%

問 24. 10年前と比べ、家庭・職場・学校・地域において、すべての個人が、自分らしく生きられる（男女共同参画）状況は、どの程度進んでいると感じますか。（※各項目ひとつ回答）

1. 進んでいる
2. やや進んでいる
3. 変わらない（全く進んでいない）
4. 後退している
5. わからない

■「家庭」における男女共同参画の進行状況（男性・女性別比較）

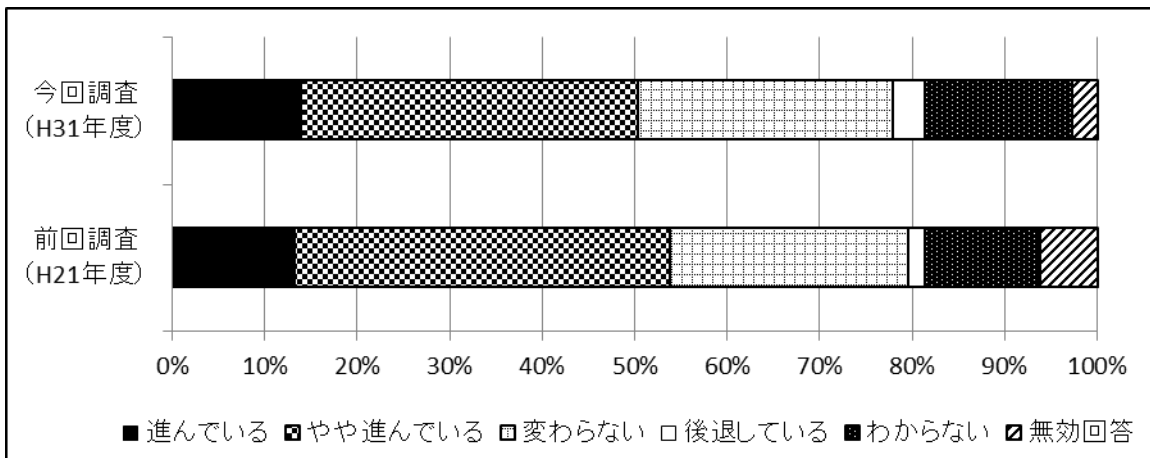
- ・男女に、大きな違いはありません。
- ・「進んでいる」、「やや進んでいる」を足すと、5割を超えています。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
男性	14.2%	36.2%	28.4%	3.5%	15.2%	2.5%
女性	13.4%	36.7%	27.3%	3.4%	16.3%	2.9%

■「家庭」における男女共同参画の進行状況（前回と今回の全体の比較）

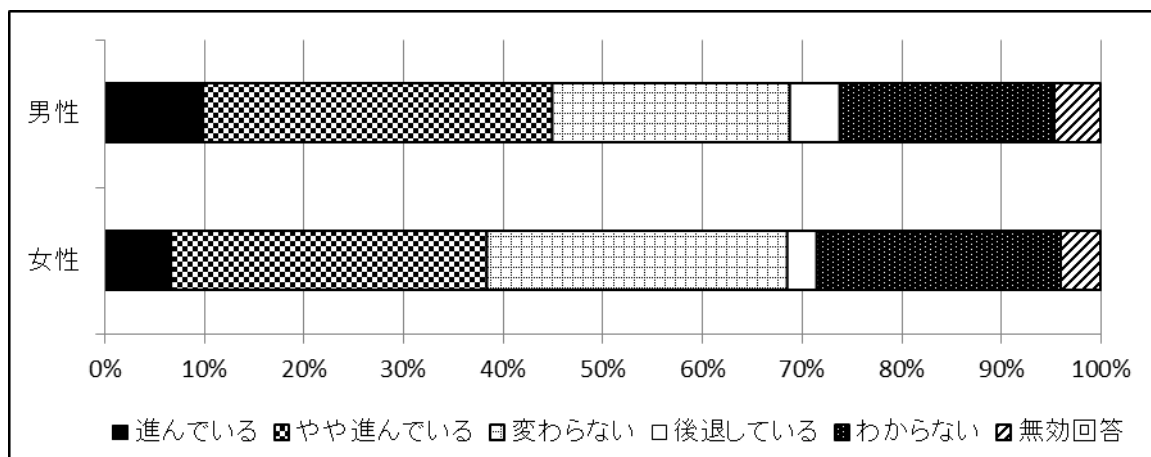
- ・前回調査と比べて大きな変化はありません。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
今回調査(H31年度)	13.8%	36.5%	27.6%	3.4%	16.0%	2.7%
前回調査(H21年度)	13.1%	40.6%	25.8%	1.8%	12.5%	6.2%

■「職場」における男女共同参画の進行状況（男性・女性別比較）

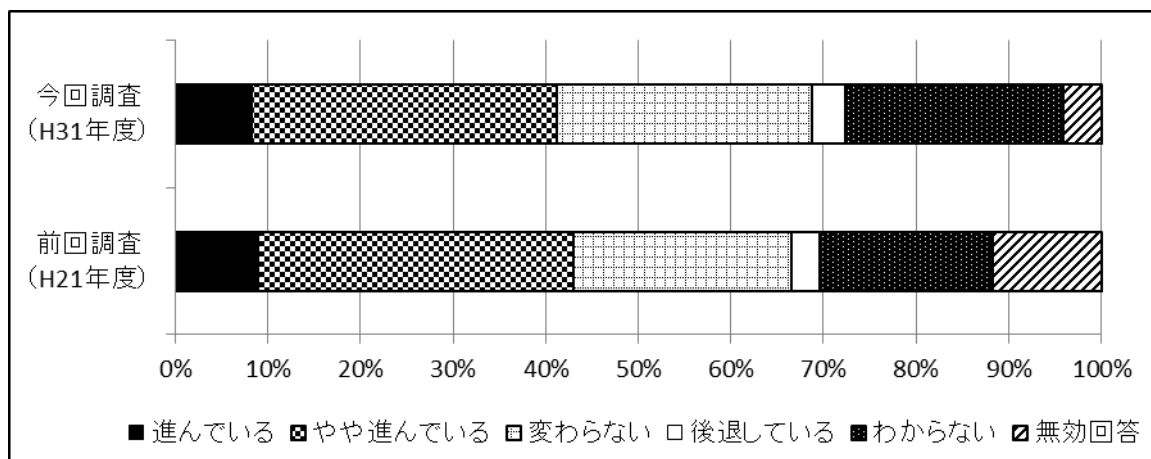
・男性の方が「進んでいる」、「やや進んでいる」と思っている人の割合が高く、女性の方が「変わらない」と思っている人の割合が高いです。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
男性	9.9%	35.1%	23.8%	5.0%	21.6%	4.7%
女性	6.7%	31.7%	30.2%	2.9%	24.5%	4.1%

■「職場」における男女共同参画の進行状況（前回と今回の全体の比較）

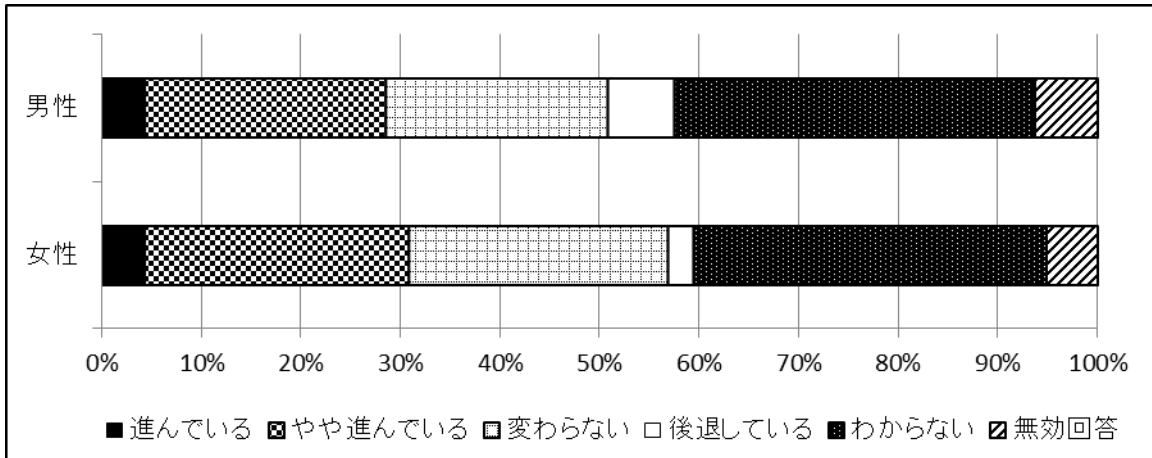
・「進んでいる」、「やや進んでいる」を足した割合は、前回調査とあまり変わってはいませんが、「変わらない」、「わからない」の割合が増えています。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
今回調査 (H31年度)	8.1%	33.0%	27.5%	3.7%	23.4%	4.2%
前回調査 (H21年度)	8.9%	34.1%	23.5%	3.0%	18.8%	11.7%

■ 「学校」における男女共同参画の進行状況（男性・女性別比較）

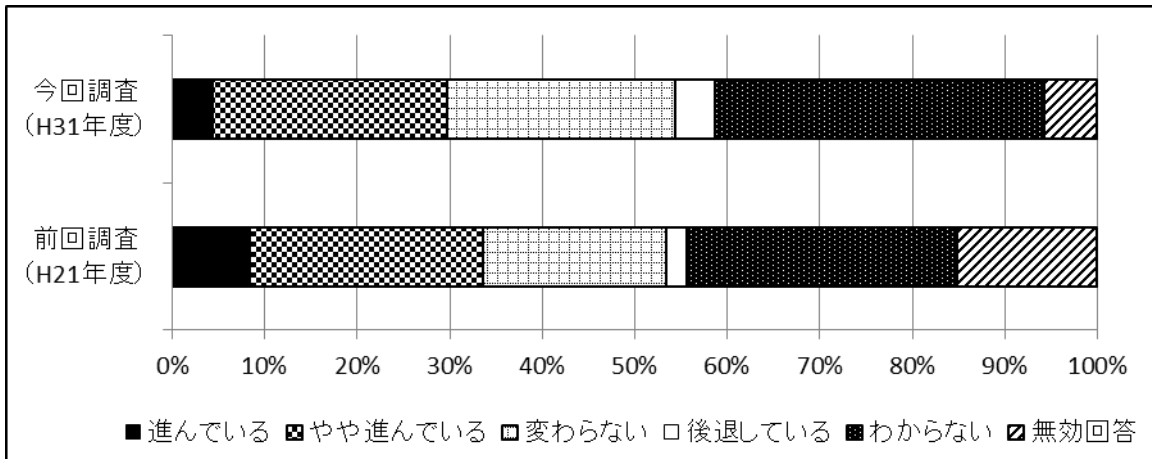
・女性の方が「やや進んでいる」、「変わらない」の割合が高く、男性の方が「後退している」の割合が高くなっています。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
男性	4.3%	24.1%	22.3%	6.7%	36.2%	6.4%
女性	4.3%	26.4%	26.1%	2.6%	35.3%	5.3%

■ 「学校」における男女共同参画の進行状況（前回と今回の全体の比較）

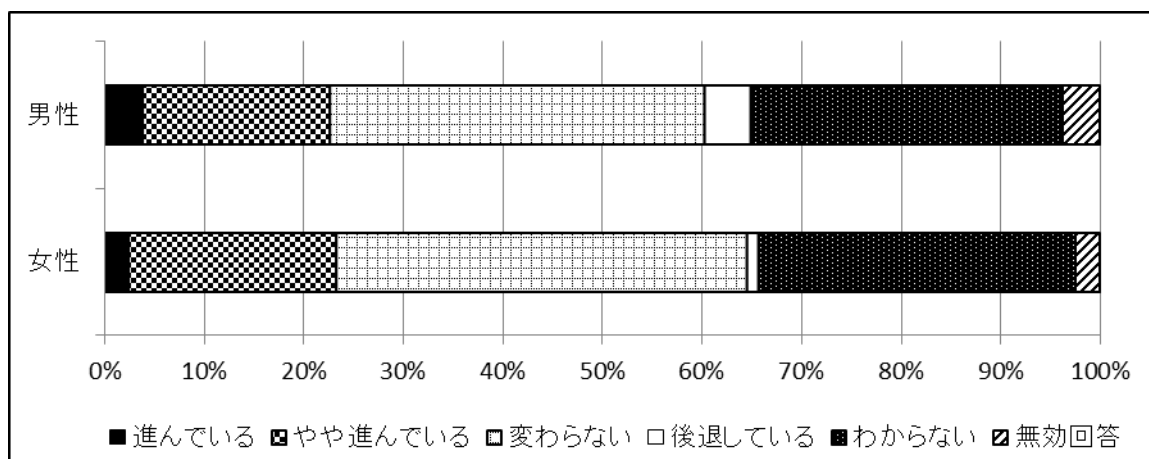
・「進んでいる」、「やや進んでいる」を足した割合は、前回調査とあまり変わってはいませんが、「変わらない」、「わからない」の割合が増えています。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
今回調査(H31年度)	4.4%	25.4%	24.6%	4.3%	35.6%	5.7%
前回調査(H21年度)	8.5%	25.2%	19.8%	2.2%	29.2%	15.1%

■ 「地域」における男女共同参画の進行状況（男性・女性別比較）

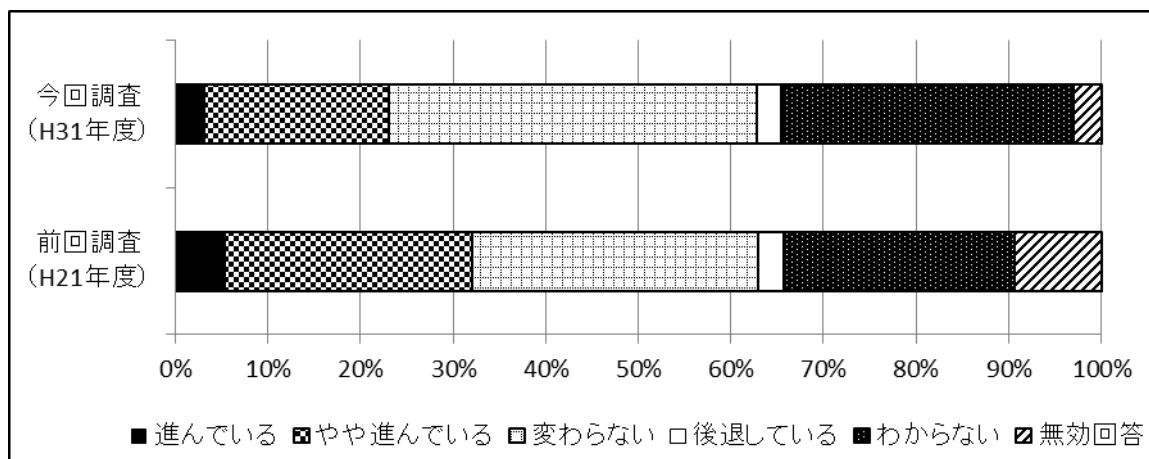
・男女共、他の項目「家庭」、「職場」、「学校」と比べ、「進んでいる」、「やや進んでいる」の割合が低く、「変わらない」の割合が高くなっています。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
男性	3.9%	18.8%	37.6%	4.6%	31.2%	3.9%
女性	2.4%	20.9%	41.2%	1.2%	31.7%	2.6%

■ 「地域」における男女共同参画の進行状況（前回と今回の全体の比較）

・「進んでいる」、「やや進んでいる」を足した割合は、前回調査より減っていて、「変わらない」の割合が増えています。

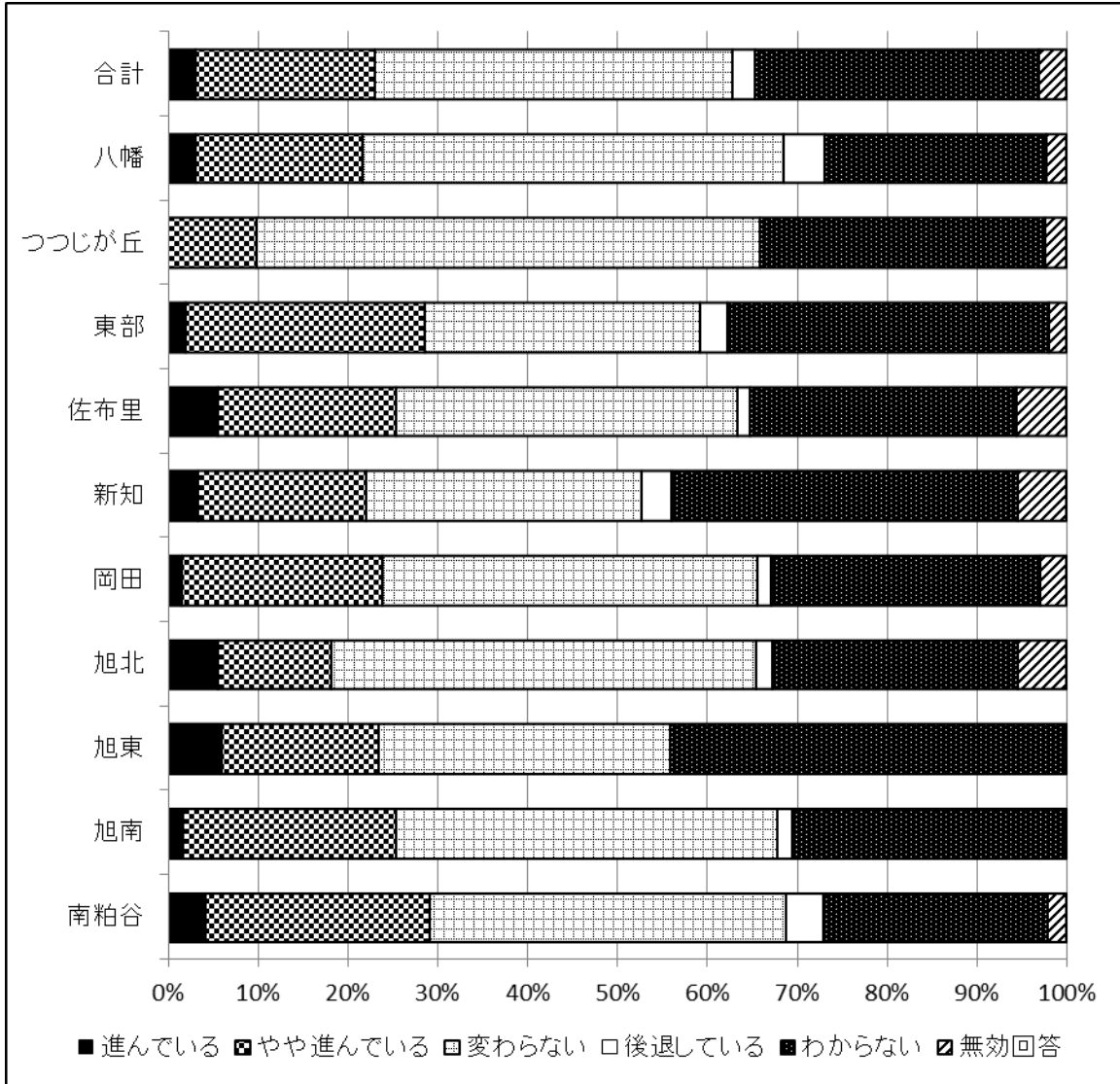


	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
今回調査(H31年度)	3.1%	19.9%	39.7%	2.6%	31.5%	3.1%
前回調査(H21年度)	5.3%	26.7%	30.9%	2.7%	25.0%	9.4%

POINT 「地域」における男女共同参画の進行状況（地域別比較）

「地域」における男女共同参画について、現状においても、他の項目より「進んでいる」、「やや進んでいる」の割合が低く、10年前と比較しても、「進んでいる」、「やや進んでいる」の割合が下がっていることから、地域別の進行状況を見てみました。

「つつじが丘」や「旭北」が、他のエリアよりも「進んでいる」、「やや進んでいる」の割合が低く、「変わらない」の割合が高くなっています。



	進んでいる	やや進んでいる	変わらない	後退している	わからない	無効回答
全体	3.1%	19.9%	39.7%	2.6%	31.5%	3.1%

◆地域活動の男女共同参画に関する自由意見のまとめ

- ・知多市は昔ながらの慣習やしきたりも多く、新しい物事を認めるということが進んでいない。
- ・町内会の仕事で、男女差別を感じた。しきたりやならわしなど、古い考え方が根付き、改めるのは困難。
- ・知多市は地域のコミュニティ等の役職は男性に限られている。
- ・自治会の役員に女性を選出するなど、旧来の常識や慣習を意識的に改めていくことが必要。
- ・地域の役職に女性が多く占めるようにならないといけない。

●「ウイズプランⅡ」における、令和2年度目標値に向けての平成31年度時点の達成率

	令和2年度目標値	平成31年度実績	達成率
女性ゼロ審議会数	0/31 審議会	5/31 審議会	83.9%
市の審議会委員の女性登用率	30%	29.4%	98.0%
コミュニティ役員女性の女性登用率	30%	13.3%	44.3%

※知多市の審議会委員の女性割合が、高いのか低いのか、愛知県全体や知多半島の他の市町と比べてみました。知多市は、審議会委員の約3割が女性となっており、知多半島内では4位です。愛知県全体の割合よりも、少し高くなっています。

順位	市町	総委員数	女性委員数	女性割合
-	愛知県全体	28,314	8,038	28.4%
1	美浜町	270	92	34.1%
2	大府市	349	118	33.8%
3	東海市	837	278	33.2%
4	知多市	330	97	29.4%
5	東浦町	538	115	28.8%
6	阿久比町	451	122	27.1%
7	半田市	952	249	26.2%
8	常滑市	578	137	23.7%
9	武豊町	571	124	21.7%
10	南知多町	451	70	15.5%

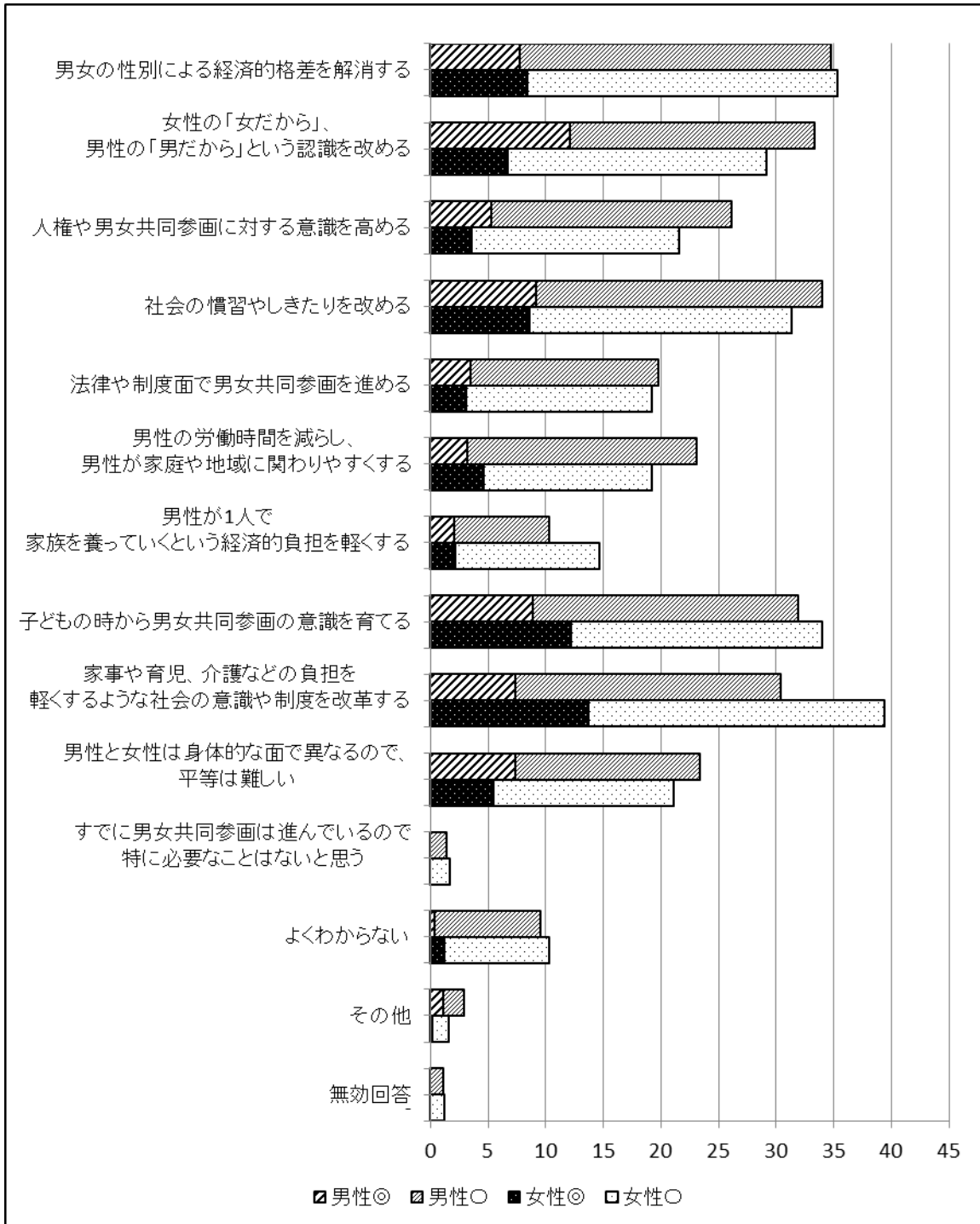
(出典) 内閣府 男女共同参画局

「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況
令和元年度 市町村編 愛知県版」(平成31年4月1日調査)

問 25. すべての個人が、自分らしく生きられる（男女共同参画）ようにするために重要なことは何であると思いますか。（※「○」は3つまで、「◎」はひとつ回答）

■男女共同参画のために重要なこと（男性・女性別比較）

・男女の違いがあります。女性は、「◎」「○」共に、「家事や育児、介護などの負担を軽くするような社会の意識や制度を改革する」が、男性は「◎」で、「女性の『女だから』、男性の『男だから』という認識を改める」が最も高くなっています。



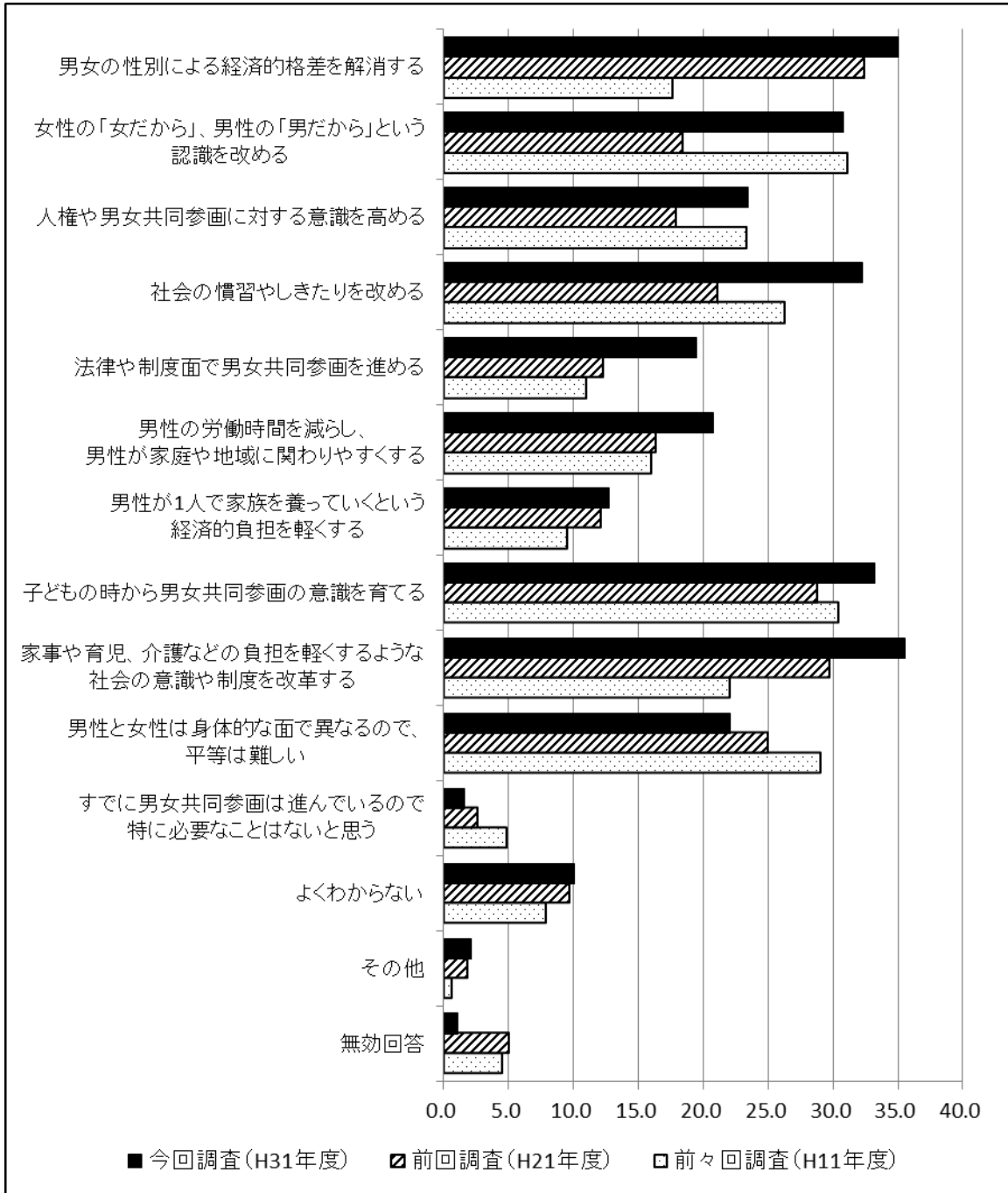
	男女の性別による経済的格差を解消する	女性の「女だから」男性の「男だから」という認識を改める	人権や男女共同参画に対する意識を高める	社会の慣習やしきたりを改める	法律や制度面で男女共同参画を進める	男性の労働時間を減らし、男性が家庭や地域に関わりやすくする	男性が1人で家族を養っていくという経済的負担を軽くする	子どもの時から男女共同参画の意識を育てる	家事や育児介護などの負担を軽くするような社会の意識や制度を改革する	男性と女性は身体的な面で異なるので、平等は難しい	すでに男女共同参画は進んでいるので、特に必要なことはないと思う	よくわからない	その他	無効回答
全体	35.0%	30.8%	23.5%	32.3%	19.5%	20.8%	12.8%	33.2%	35.6%	22.1%	1.6%	10.1%	2.1%	1.2%
男性	34.8%	33.3%	26.2%	34.0%	19.9%	23.0%	10.3%	31.9%	30.5%	23.4%	1.4%	9.6%	2.8%	1.1%
女性	35.3%	29.3%	21.6%	31.4%	19.2%	19.2%	14.6%	34.1%	39.3%	21.1%	1.7%	10.3%	1.7%	1.2%

◆男女共同参画に関する自由意見

- ・男女には身体的に差があるが、認めた上で尊重し、役割分担する。(同意見、多数あり)
- ・男女には身体的・性格的に差があるので、男女平等は難しい。(同意見、多数あり)
- ・男女の性差ではなく、「個人」、「一人一人」を尊重する。(同意見、多数あり)
- ・それぞれができるところで、できることをやる。(同意見、複数あり)
- ・できないこと、つらいことを伝えられて、助けを求められる世の中であるとよい。
- ・若い頃に、男女共同参画の運動があったら、もっと違う人生が送れたと思う。
- ・学校、会社の制服で、女性がスカートをはくという、固定観念がなくなるとよい。
- ・個人個人で望むものが違うので、夫婦、家族、職場内で話し合い、その環境の中で男女共同参画を推進していくのがよい。
- ・男女共同参画でみんなが幸せになるのか。困る人もいるのでは。(同意見、複数あり)
- ・男女共同参画を正義とする人が増えると、摩擦が大きくなるので、じわじわやる。
- ・何をしているのか全く見えない。理想過ぎて身近なこととしてとらえられない。
- ・進める方法によっては、逆に性別を発生させることもあると思う。
- ・男性が加害者、女性が被害者というイメージがなくなる限り、平等は無理。
- ・男女共同参画の考え方は根付いてきているが、家事と子育ては女性がすべきであり、それを男性に任せるといのはまだ社会的に認められていない。(同意見、複数あり)
- ・男性が家事や育児をすることが当たり前の中になるとよい。
- ・苦労した経験があるので、男女差別はなくなればよい。働きたいという意思を尊重してもらえるような社会ができればよい。
- ・子育て・家事と共に、働きやすい職場であってほしい。
- ・周りの環境(家庭・職場)に、男女の区別がほぼなく、子どもの頃から学校で教えられていたため、今更男女云々の意味がわからない。
- ・女性限定クーポンだけでなく、男性も利用できるものを増やしてほしい。
- ・法律や制度の、増加、改革が必要。(同意見、複数あり)
- ・社会、一人一人の認識、意識を変えるべき。(同意見、多数あり)
- ・男女共同参画について考える場や、話し合う機会があるとよい。(同意見、複数あり)
- ・男女共、子どもの頃から、学校や家庭で教育し、家事を経験させる。(同意見、多数あり)
- ・男性(特に、中高年層)に、講座や啓発活動を行う。(同意見、複数あり)
- ・男女共同参画の進んでいる他の国から、学んで参考にする(同意見、複数あり)
- ・税の扶養控除、社会保険の加入条件など、男女共同参画の面からは違和感を覚える。

■男女共同参画のために重要なこと（前々回、前回と今回の全体の比較）

・「家事や育児、介護などの負担を軽くするような社会の意識や制度を改革する」、「男女の性別による経済的格差を解消する」が増えていて、「男性と女性は身体的な面で異なるので、平等は難しい」は減っています。

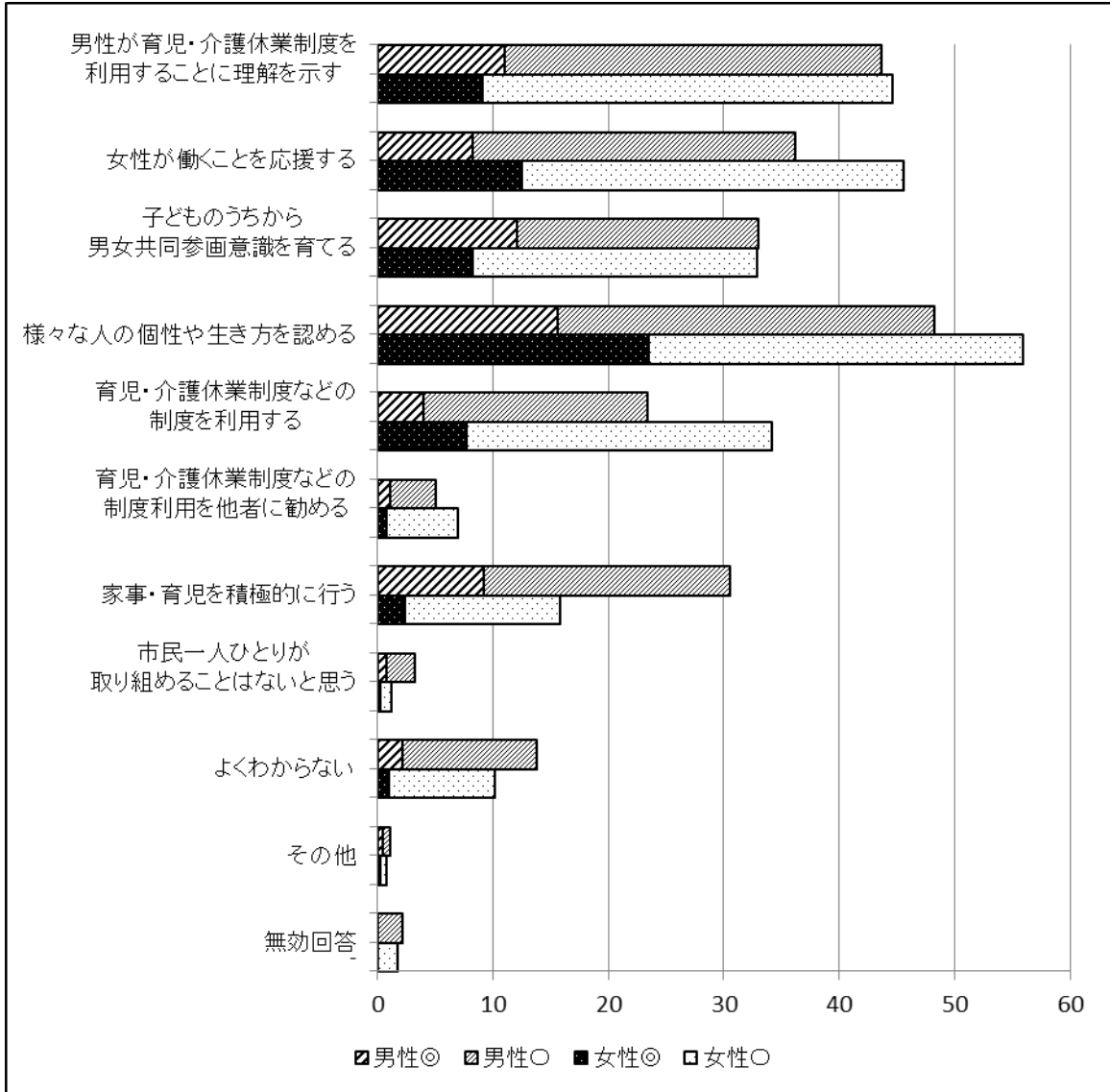


	男女の性別による経済的格差を解消する	女性の「女だから」、男性の「男だから」という認識を改める	人権や男女共同参画に対する意識を高める	社会の慣習やしきたりを改める	法律や制度面で男女共同参画を進める	男性の労働時間を減らし、男性が家庭や地域に関わりやすくする	男性が1人で家族を養っていくという経済的負担を軽くする	子どもの時から男女共同参画の意識を育てる	家事や育児介護などの負担を軽くするような社会の意識や制度を改革する	男性と女性は身体的な面で異なるので、平等は難しい	すでに男女共同参画は進んでいるので、特に必要なことはないと思う	よくわからない	その他	無効回答
今回調査 (H31年度)	35.0%	30.8%	23.5%	32.3%	19.5%	20.8%	12.8%	33.2%	35.6%	22.1%	1.6%	10.1%	2.1%	1.2%
前回調査 (H21年度)	32.4%	18.4%	17.9%	21.1%	12.3%	16.3%	12.1%	28.8%	29.7%	25.0%	2.6%	9.7%	1.8%	5.0%
前々回調査 (H11年度)	17.6%	31.1%	23.3%	26.3%	11.0%	16.0%	9.5%	30.4%	22.0%	29.0%	4.8%	7.9%	0.6%	4.5%

問 26. あなたが男女共同参画推進のために取り組めることは何だと思えますか。(※「○」は3つまで、「◎」はひとつ回答)

■男女共同参画推進のための取り組み（男性・女性別比較）

- ・男女共、「◎」「○」共に、「様々な人の個性や生き方を認める」が最も高くなっています。
- ・男女の違いが大きいのは、「家事・育児を積極的に行う」（男性が高い、女性が低い）、「育児・介護休業制度などの制度を利用する」（男性が低い、女性が高い）です。



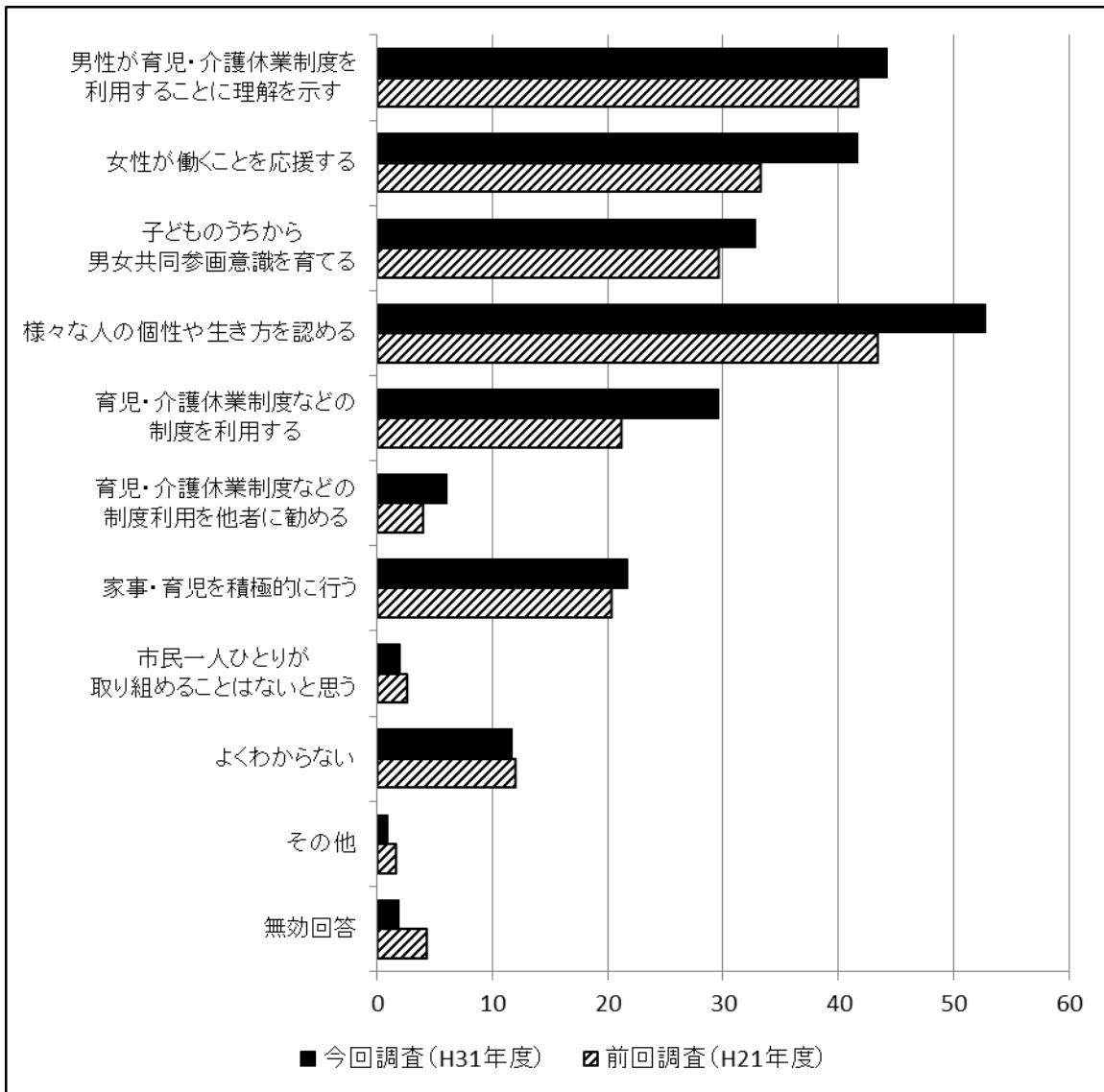
	男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す	女性が働くことを応援する	子どものうちから男女共同参画意識を育てる	様々な人の個性や生き方を認める	育児・介護休業制度などの制度を利用する	育児・介護休業制度などの制度利用を他者に勧める	家事・育児を積極的に行う	市民一人ひとりが取り組めることはないと思う	よくわからない	その他	無効回答
全体	44.2%	41.7%	32.8%	52.8%	29.6%	6.1%	21.7%	2.0%	11.7%	0.9%	1.9%
男性	43.6%	36.2%	33.0%	48.2%	23.4%	5.0%	30.5%	3.2%	13.8%	1.1%	2.1%
女性	44.6%	45.6%	32.9%	55.9%	34.1%	7.0%	15.8%	1.2%	10.1%	0.7%	1.7%

◆あなたが男女共同参画推進のために取り組めることについての自由意見

- ・子育てが終わっている我々が、若い子育て世代を手伝えるよう声をかけている。
- ・どの世代も興味を持ち参画できるような企画があれば、できることは協力したい。
- ・お互いに助け合う。お互いを思いやる。(同意見、多数あり)

■男女共同参画推進のための取り組み（前回と今回の全体の比較）

- ・前回調査と大きな変化はありません。
- ・伸び率が高いのは、「様々な人の個性や生き方を認める」、「女性が働くことを応援する」、「育児・介護休業制度などの制度を利用する」です。



	男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す	女性が働くことを応援する	子どものうちから男女共同参画意識を育てる	様々な人の個性や生き方を認める	育児・介護休業制度などの制度を利用する	育児・介護休業制度などの制度利用を他者に勧める	家事・育児を積極的に行う	市民一人ひとりが取り組めることはないと思う	よくわからない	その他	無効回答
今回調査 (H31年度)	44.2%	41.7%	32.8%	52.8%	29.6%	6.1%	21.7%	2.0%	11.7%	0.9%	1.9%
前回調査 (H21年度)	41.6%	33.2%	29.6%	43.3%	21.1%	3.9%	20.3%	2.6%	11.9%	1.6%	4.3%

その他の自由意見のまとめ

◆知多市に対して、男女共同参画に関する自由意見

- ・男女共同参画行動計画を推進し、人として生活しやすい社会ができるとよい。
- ・いろいろな市の政策や計画に男女共同参画の視点をもっと取り入れてほしい。
- ・全市民が知ることができて、ひとりでも多くの人が参加したいと思う仕組みを考え、現実化してほしい。
- ・年代によって考え方の違いがあり、具体策は難しいので、わかりやすい方向性を出してほしい。
- ・女性の方が、家事・育児・介護と大変。母子世帯も多い。女性も働きやすい、母子家庭も安心して生活できるよう、本当の男女共同参画社会を目指してほしい。
- ・もっと男女共同参画行動計画のことを説明してほしい。
- ・男女共同参画について、知らない人が多いので、市民が知ることができる策があるとよい。
- ・正直聞いたこともないので、進めるならもっと宣伝すべき。(PRに関する意見、多数あり)
- ・情報があまり入ってこないなので、深く考えたことがない。市民が興味を持つようになることが一番大切。
- ・知多市が子育てしやすく、高齢者にもやさしい場所であってほしい。
- ・子育てにかかる費用を軽減してほしい。税金を高齢者よりも子どもに使うべき。
- ・行政としては、子どもを預ける場所、介護の公的サービスといったサポートを広くかつ長年に渡り市民に浸透させてほしい。

◆アンケートに関する自由意見

- ・アンケートをWEB集計に。
- ・アンケートをしても反映がみえず、これからも期待できない。
- ・アンケートがどのように生かされているのか。質問がわかりにくい。
- ・アンケートを取るだけでなく、しっかり政策を実現してほしい。
- ・内容が多いと回収率が減る。回収できなかったものの中に「関心がない」という人が多いのではと思う。
- ・アンケートは女性メインで、女性だけを改善していこうとしている気がする。男女共に改善していける策を考えてほしい。
- ・質問が若い女性の考えで作成されたものと思われ、高齢の男性には対応できない。
- ・10歳代、高校生にはよくわからない。実感がない。(同意見、複数あり)
- ・家事を「仕事以外」と位置づけているところが感じ悪い。
- ・子育ての設問において、父親は「6割以上」と区分、母親は「6割」、「8割」と区分されていることこそ、男女を対等に評価していない。
- ・「LGBT」の人たちも表に進出している今、「男女」の表現も違うかなと思う。
- ・アンケートや男女共同参画行動計画の見直しを定期的に行うことが大切。
- ・普段あまり考えていなかったことについて、考える機会になった。

新たな男女共同参画行動計画のための アンケート調査のお願い

皆さまには日頃より市政にご協力いただき、お礼申し上げます。

さて、知多市では、男性と女性が対等なパートナーとして、また、市民と行政が一体となって、だれもが自分らしく生きられるまちをめざして、「知多市男女共同参画行動計画（ウイズプランⅡ）」に沿って、男女共同参画社会の実現を推進しています。

そこで、市民の皆さまの男女共同参画に対するご意見などをお聞きし、令和3年度新たにスタートする計画に反映してまいりたいと考えております。

この調査は、15歳以上の市民の方々の中から無作為に2,000人を選ばせていただき、アンケートへの回答をお願いしております。

なお、この調査は、本市から特定非営利活動法人地域福祉サポートちたに委託して実施するものであり、市の男女共同参画行動計画を策定する基礎資料としてのみ利用させていただきます。調査結果は統計処理等を行い、ホームページ等に掲載する予定ですが、回答者が特定されたり、回答いただいた内容が他の目的に使用されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力お願いいたします。

令和元年9月

知多市長 宮島 壽 男

<ご回答にあたってのお願い>

1. 調査票は、ご本人（アンケートのあて名の方）がご記入ください。
もし何かの都合で回答できない場合は、ご家族のどなたが回答いただいても構いませんがその場合は、回答していただく方の立場でお答えください。
2. 回答は直接この用紙にご記入ください。それぞれ当てはまる項目に○をお付けください。
3. 回答が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れていただき、9月30日（月）までに
ご投函ください。切手は必要ありません。

【問合せ先】

（具体的な調査票の記入や提出）

特定非営利活動法人地域福祉サポートちた

TEL 0562-33-1631

（本調査の趣旨）

知多市子ども未来部子ども若者支援課若者女性支援室

TEL 0562-36-2657（直通）

あなた自身についてお聞きします ※9月1日現在でお答えください。

(1) あなたの性別をお答えください。(○はひとつ)

今後の施策の参考とするものです。戸籍上の区分にとらわれず、ご自身の主観でお答えください。

- | | | | |
|-------|-------|--------|----------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 | 4. 回答しない |
|-------|-------|--------|----------|

(2) あなたの年齢をお答えください。(○はひとつ)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 |
| 4. 40歳代 | 5. 50歳代 | 6. 60歳代 |
| 7. 70歳以上 | | |

(3) あなたのお住まいの地区(コミュニティ)をお答えください。(○はひとつ)

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. 八幡 | 2. つつじが丘 | 3. 東部 |
| 4. 佐布里 | 5. 新知 | 6. 岡田 |
| 7. 旭北 | 8. 旭東 | 9. 旭南 |
| 10. 南粕谷 | | |

(4) あなたの主な職業をお答えください。(○はひとつ)

- | |
|-------------------------|
| 1. 自営業(農業、商工業、サービス業など) |
| 2. 自由業(開業医、弁護士、芸術家など) |
| 3. 常勤の勤め人(フルタイム) |
| 4. 非常勤の勤め人(パート、アルバイトなど) |
| 5. 専業主婦・専業主夫 |
| 6. 学生 |
| 7. 無職 |
| 8. その他(具体的に: _____) |

(5) ご家族構成をお答えください。(○はひとつ)

- | |
|---------------------|
| 1. 単身世帯(未婚のため) |
| 2. 単身世帯(離別、死別のため) |
| 3. 一世代世帯(夫婦のみ) |
| 4. 二世帯世帯(親と子ども) |
| 5. 三世帯世帯(親と子どもと孫) |
| 6. その他(具体的に: _____) |

(6) あなたのパートナー（注）の主な職業をお答えください。（○はひとつ）

- | |
|-------------------------|
| 1. 自営業（農業、商工業、サービス業など） |
| 2. 自由業（開業医、弁護士、芸術家など） |
| 3. 常勤の勤め人（フルタイム） |
| 4. 非常勤の勤め人（パート、アルバイトなど） |
| 5. 専業主婦・専業主夫 |
| 6. 学生 |
| 7. 無職 |
| 8. その他（具体的に： _____) |
| 9. パートナーはいない |

(注) 今回の調査で「パートナー」とは、配偶者だけではなく、生活・生計を共にする相手という広い意味で使用しています。

(7) 現在、あなたが当てはまる主なライフステージ（人生における区分）をお答えください。（○はひとつ）

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 独身の時期 |
| 2. 結婚していて、子どもがいない時期 |
| 3. 一番下の子どもが就学前の時期 |
| 4. 一番下の子どもが学校教育期（子どもが小学校～大学などに通う時期） |
| 5. 一番下の子どもの学校教育が終了した時期 |
| 6. 子どもが独立した時期 |
| 7. その他（具体的に： _____) |

質問項目

<1>子育てについてお聞きします

問 1. 子育てにおける役割分担について望ましいものはどれですか、また実際はどうですか（どうでしたか）。（〇は「望ましい」、「実際」でそれぞれひとつ）

	望ましい	実際
1. すべて母親が行う		
2. 母親が 8 割、父親が 2 割		
3. 母親が 6 割、父親が 4 割		
4. 母親と父親と半々		
5. 父親が 6 割以上		
6. 家族（注）内の女性が分担して行う		
7. 家族全員が分担して行う		
8. その他（具体的に： ）		
9. 子育ての経験はない		

（注）以降すべての質問で「家族」とは、「同居の家族」のことを示します

問 2. 子育てをする際、子どもの性別の違いにより、子どもに期待することが異なりますか。（〇はひとつ）

1. 思う
2. やや思う
3. あまり思わない
4. 思わない
5. わからない

<2>仕事と家事についてお聞きします

問 3. 現在、1 週間のうち、仕事（注 1）と仕事以外（注 2）の時間をどのような時間割合で過ごすことが望ましいですか、また実際はどうですか。（睡眠時間は考えないでください）（〇は「望ましい」、「実際」でそれぞれひとつ）

	望ましい	実際
1. 仕事 10 割		
2. 仕事 8 割・仕事以外 2 割		
3. 仕事 6 割・仕事以外 4 割		
4. 仕事と仕事以外で半々		
5. 仕事 4 割・仕事以外 6 割		
6. 仕事 2 割・仕事以外 8 割		
7. 仕事以外 10 割（仕事はしていない）		

（注 1）「仕事」は通勤時間などを含めた有償労働と定義します

（注 2）「仕事以外」は家事や育児などの家庭生活・学習・趣味・地域活動などと定義します

問 4. 職場において育児・介護休業制度（注1）、フレックスタイム制（注2）などの各種制度は利用しやすい環境ですか。（○はひとつ）

- | |
|------------------------|
| 1. 利用しやすい |
| 2. 利用しにくい |
| 3. 制度がない |
| 4. 制度があるかどうかわからない、知らない |
| 5. 仕事はしていない |

（注1）「育児・介護休業制度」とは、育児・介護休業法に則った制度を指します。

（注2）「フレックスタイム制」とは、1日の労働時間帯を、必ず勤務すべき時間帯（コアタイム）と、その時間帯の中であればいつ出社または退社してもよい時間帯（フレキシブルタイム）とに分け、出社、退社の時刻を労働者の決定に委ねる制度です。

問 5. 家庭内において家事をどのように分担するのが望ましいですか、また実際はどうですか。（○は「望ましい」、「実際」でそれぞれひとつ）

	望ましい	実際
1. すべて妻が行う		
2. 妻が8割、父親が2割		
3. 妻が6割、父親が4割		
4. 妻と夫と半々		
5. 夫が6割以上		
6. 家族内の女性が分担して行う		
7. 家族全員が分担して行う		
8. ひとり暮らしのため分担はしていない		
9. その他（具体的に： _____）		

< 3 > 女性の活躍についてお聞きします

問 6. 女性が職業を持つことについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。（○はひとつ）

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 女性は職業を持たない方がよい |
| 2. 結婚、子どもの有無に関わらず職業を持つ方がよい |
| 3. 結婚するまでは職業を持つ方がよい |
| 4. 子どもができるまでは職業を持つ方がよい |
| 5. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい |
| 6. その他（具体的に： _____） |
| 7. わからない |

問 7. あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。(○はいくつでもその中で最も重視する、またはしたいことに◎をひとつ)

1. 専門知識が生かせる
2. 性格・能力が適している
3. 仕事にやりがいがある
4. 能力本位で実績が評価される
5. 業種に将来性がある
6. 給与の条件が良い
7. 勤務時間・勤務場所の条件が良い
8. 職場の雰囲気が良い
9. 育児や介護への理解や制度（休暇取得など）が整っている
10. その他（具体的に: _____)
11. わからない

問 8. あなたは、ご自身が管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(○はいくつでも その中で最も思うものに◎をひとつ)

1. やりがいのある仕事ができる
2. 賃金が上がる
3. 能力が認められた結果である
4. 家族から評価される
5. 自分自身で決められる事柄が多くなる
6. やるべき仕事が増える
7. 責任が重くなる
8. やっかみが出て足を引っ張られる
9. 仕事と家庭の両立が困難になる
10. その他（具体的に: _____)
11. わからない

問 9. あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(○はいくつでも その中で最も思うものに◎をひとつ)

1. 保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
2. 介護支援サービスの充実
3. 家事・育児支援サービスの充実
4. 男性の家事参加への理解・意識改革
5. 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
6. 働き続けることへの女性自身の意識改革
7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革

8. 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
9. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
10. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
11. その他（具体的に: _____）
12. わからない

問 10. 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたがいいと思うものは何ですか。（○はいくつでも その中で最も思うものに◎をひとつ）

1. これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する
2. 仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する
3. これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
4. 働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
5. 家事・育児・介護の経験を生かした仕事により地域に貢献する（ヘルパー、保育補助、家事代行）
6. これまでの経験を生かしてボランティアやNPO活動で地域に貢献する（育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、リサイクル活動など）
7. これまでの経験を生かして企業またはNPOの立上げを行う（小売店経営、IT企業設立、ボランティア団体設立など）
8. 家事以外で活動する必要はない
9. その他（具体的に: _____）
10. わからない

問 11. あなたは、女性の活躍推進の取組に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。（○はいくつでも その中で最も思うものに◎をひとつ）。

1. 保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）
2. 放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など）
3. 介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）
4. 就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）
5. 起業・NPO活動のための情報（支援内容、相談先など）
6. 仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）
7. 出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報
8. 積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報
9. ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報
10. その他（具体的に: _____）
11. わからない

<4>地域活動（注）についてお聞きします

（注）地域活動とは、コミュニティ、子ども会、ボランティア・NPO、スポーツ・趣味のサークル、育児・子育てのサークル、PTAなどの学校行事、老人会、公民館などの生涯学習活動などを指します。

問 12. 地域活動に参加していますか。（○はひとつ）

1. している
2. していない

※問 12「1. している」と回答された方は問 14 へお進みください。

問 13. 地域活動に参加していない理由は何ですか。（○はいくつでも その中で一番の理由に◎をひとつ）

1. 子どもの世話や家族の介護がある
2. 仕事が忙しい
3. 地域活動は他の家族がやっている
4. 家族の理解がない
5. 必要な能力がない
6. どのような地域活動があるのかわからない
7. 活動する仲間がいない
8. 責任が生じて、精神的負担がある
9. 人間関係がわずらわしい
10. 興味や関心がない
11. その他（具体的に: _____)

問 14. 自然災害が発生したとき、すべての人に配慮した避難所にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも その中で最も必要と思うものに◎をひとつ）

1. 男女別の更衣室
2. 授乳室
3. プライバシーを確保するための仕切り
4. 男女別トイレ
5. 女性トイレ・女性専用スペースへの女性用品の常備
6. 運営の責任者に男女両方がなること
7. 男女両方の相談員による相談対応
8. その他（具体的に: _____)
9. わからない

<5>高齢期についてお聞きします

問 15. 介護においてどのような役割分担が望ましいですか、また実際はどうですか（どうなるとお考えですか）。（「望ましい」、「実際（想定）」それぞれで○はいくつでも その中で最も思うものにそれぞれ◎をひとつ）

	望ましい	実際（想定）
1. パートナーが担う		
2. 子どもが担う		
3. 子どもの配偶者が担う		
4. 当事者の兄弟姉妹が担う		
5. 家族内の女性が分担して行う		
6. 家族全員が分担して行う		
7. ホームヘルパーなどの介護サービスを一部利用する		
8. 全面的に介護サービスを利用する		
9. その他（具体的に： _____）		
10. わからない		

<6>DV（注）についてお聞きします

（注）「DV（ドメスティック・バイオレンス）」とは、一般的に「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力」を指します。

問 16. あなたは次の項目のうち、どれが DV にあたるとお考えですか。（○はいくつでも その中で最も思うものにそれぞれ◎をひとつ）

1. 殴る・蹴るなどの暴力を振るう
2. 生活費を渡さない
3. 「女は家にいるものだ」などと言って働くことを許さない
4. 大声でどなる
5. 相手の気持ちや体調を配慮せず、一方的な性交渉を強いる
6. 了承なしにメールや手紙などをチェックする
7. ひんぱんに電話やメールを送りつけ、すぐに対応しないと怒る
8. いつも一緒にいることを要求する
9. 服やヘアスタイルなど自分の好みを押し付ける
10. その他（具体的に： _____）
11. わからない

問 17. DV の経験または身近な人から相談を受けた経験がありますか。（○はひとつ）

1. DV を受けた経験がある
2. DV をした経験がある
3. DV の相談を受けた経験がある
4. ない

問 18. DVの相談窓口があることを知っていますか。(○はひとつ)

1. 知っている
2. 知らない

<7> LGBT (注) についてお聞きします

(注)「LGBT」とは、レズビアン (Lesbian:女性同性愛者)、ゲイ (Gay:男性同性愛者)、バイセクシャル (Bisexual:両性愛者)、トランスジェンダー (Transgender:性同一性障害者などで、心と体の性が一致しない人)の頭文字をとった、性的少数者(セクシャルマイノリティ)の総称の一つです。

問 19. 「LGBT」など「性的少数者」について知っていますか。(○はひとつ)

1. 言葉を聞いたことがある
2. 内容を知っている
3. 知らない
4. その他(具体的に: _____)

問 20. 身近な方(家族、友人など)が性的少数者だった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。(○はひとつ)

1. できる
2. できない
3. わからない

<8> 男女共同参画センターウイズ(知多市立ふれあいプラザ内)についてお聞きします

問 21. 男女共同参画センターウイズを知っていますか。(○はひとつ)

1. 知っている
2. 知らない

問 22. 男女共同参画センターウイズを利用したことがありますか。(○はいくつでも その中で最も利用するものに◎をひとつ)

1. 講座に参加したことがある
2. ウイズライブラリーで本を借りたり、閲覧したりしたことがある
3. ホームページで情報収集したことがある
4. カウンセリングを利用したことがある
5. その他の方法で利用したことがある
(具体的に: _____)
6. ない

＜9＞男女共同参画社会（注）についてお聞きします

（注）「男女共同参画社会」とは、すべての個人が、互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分発揮できる社会です。

問 23. あなたは、「男らしく」「女らしく」という言葉について、どのように感じますか。（○はひとつ）

1. 個人の問題なので、性別であり方を決めるのはおかしい
2. 実際に「男性」「女性」という性別があるのだから、それについて「男らしく」「女らしく」というイメージがあってもいいと思う
3. 実際に「男性」「女性」という性別があるのだから、それについて「男らしく」「女らしく」というイメージがあっても当然だ
4. あまり深く考えたことはない

問 24. 10年前と比べ、家庭・職場・学校・地域において、すべての個人が、自分らしく生きられる（男女共同参画）状況は、どの程度進んでいると感じますか。

	進んでいる	やや 進んでいる	変わらない (全く進んで いない)	後退している	わからない
家庭	1	2	3	4	5
職場	1	2	3	4	5
学校	1	2	3	4	5
地域	1	2	3	4	5

問 25. すべての個人が、自分らしく生きられる（男女共同参画）ようにするために重要なことは何であると思いますか。（○は3つまで その中で最も思うものに◎をひとつ）

1. 男女の性別による経済的格差を解消する
2. 女性の「女だから」、男性の「男だから」という認識を改める
3. 人権や男女共同参画に対する意識を高める
4. 社会の慣習やしきたりを改める
5. 法律や制度面で男女共同参画を進める
6. 男性の労働時間を減らし、男性が家庭や地域に関わりやすくする
7. 男性が1人で家族を養っていくという経済的負担を軽くする
8. 子どもの時から男女共同参画の意識を育てる
9. 家事や育児、介護などの負担を軽くするような社会の意識や制度を改革する
10. 男性と女性は身体的な面で異なるので、平等は難しい
11. すでに男女共同参画は進んでいるので特に必要なことはないと思う
12. よくわからない
13. その他（具体的に: _____)

問 26. あなたが男女共同参画推進のために取り組めることは何だと思いますか。(○は3つまでその中で最も思うものに◎をひとつ)

1. 男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す
2. 女性が働くことを応援する
3. 子どものうちから男女共同参画意識を育てる
4. 様々な人の個性や生き方を認める
5. 育児・介護休業制度などの制度を利用する
6. 育児・介護休業制度などの制度利用を他者に勧める
7. 家事・育児を積極的に行う
8. 市民一人ひとりが取り組めることはないと思う
9. よくわからない
10. その他（具体的に: _____)

この調査の結果は、新たな男女共同参画行動計画に活用させていただきます。今後、男女共同参画社会を推進していくにあたり、何かご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご回答ありがとうございました。

検討会

1. 概要

今回のアンケート調査票・報告書作成にあたり、幅広い年代・ライフステージの男女、6名の市民に委員を依頼しました。委員とともに2回の検討会と文書によるやり取りを重ね、住民意識調査を実施しました。

2. 検討会委員

石井久子、今井秀明、江端隆浩、竹内一紘、バート千玉、和田美奈

3. 検討会の経緯

第1回 検討会 令和元年7月15日（月・祝）10:00～12:00

第2回 検討会 令和2年1月14日（火）18:00～20:00

令和2年3月に、第3回検討会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、会議は中止とし、文書による意見をいただきました。

